

「魅力ある県立高校づくりの方針（案）」に対する御意見と県の考え方

1 意見募集期間

令和7年1月10日（金）～令和7年2月9日（日）

2 意見の提出者数及び意見件数

提出者数：432名（個人413／団体19）

意見件数：597件

（内訳）

区分	人数	意見件数
郵送	12	15
F A X	20	33
電子メール	400	549
合計	432	597

3 意見の反映状況

区分	意見件数
A 意見を反映し、案を修正したもの	2
B 既に案で対応済みのもの	21
C 案の修正はしないが、実施段階で参考とすることとしたもの	36
D 意見を反映できなかったもの	528
E その他	10
合計	597

（備考）

いただいた御意見については、概要を記載しております。

番号	該当ページ	御意見の概要	意見数	県の考え方	反映状況
1	5	・「第1章 方針の策定に当たって 1 策定の趣旨」について 10年近い間の社会の大きな変化を踏まえ「県立高校の教育活動や教育環境の充実」その他を図りたいとの趣旨が説明されており、この趣旨に賛同する。 ・【第1章第2節】から「学校の在り方」について 「2 これまでの取組」において「確かな学力」という言葉が用いられているが、何をもち「確かな学力」と表現するのか。その判断とすべき材料や基準、又は到達点が明確でなければ一概には言いようがないものではないか。キーワードになるべき言葉の定義が曖昧になっているという弊害が表れているのではないかと思える。 この「確かな学力」が何であるのかが不明瞭であればあるほど、「教育活動の充実」とはかい離したものになってしまうのではないかと懸念する。 「確かな学力」が意味するところがはっきりしないために、この用語についての定義を明確にした上でという条件の下、この趣旨に対しては概ね賛同する。	1	「確かな学力」については、「知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力等まで含めたもの」であると考えております。 方針案に示した策定の趣旨を踏まえ、取組を進めてまいります。	B
2	5	P5「少子化の進展やデジタル技術の急速な発展など、社会は大きく変化しています」とあります。本当にそう思います。県立高校が特色化、活性化に努めることは止めませんが、誰もがどこでも選べるように、全県的に公平なあり方が望ましいと思います。激しく競争化させたり、経済一辺倒にならないあり方が良いと思います。	1	県立高校は、生徒が豊かで幸せな人生を送るとともに持続的に発展する社会の創り手となるよう、予測が困難な社会の変化に対応できる力や学びを人生や社会に生かす力を育成し、生徒一人一人の多様な可能性を伸ばしていきたいと考えております。 頂いた御意見を参考に、魅力ある県立高校づくりに努めてまいります。	C
3	5,25	「6. 共学化の推進」項目の全文を削除すべき 「第3章 県立高校における教育活動・教育環境」は県立高校における現下の取組を述べているにもかかわらず、「アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取」も未実施の段階で、苦情処理委員会への対応について所与の条件であるかのように触れるのは不相応であるため。 また、第1章第1項「策定の趣旨」にある「県立高校の教育活動や教育環境の充実、再編整備を進める」（p5）本方針の趣旨と、共学化の検討については別問題であるため。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
4	7,29	p.7「産業構造の変化に対応する人材育成」 進路希望調査からも分かるように、生徒のニーズは普通科です。また専門学科は倍率が1を切っている所がほとんどです。高校教育において、将来的に「先端産業やビジネス」に進む生徒を育むのであれば、将来の大学進学を見据えた普通科教育こそ充実させるべきと考えます。「ビジネス教育」といった無意味な施策は撤回すべきです。 p.29「ロボットや航空機など先端技術を活用したもののづくりを学ぶ学科」も同様に撤回すべきです。 企業からのニーズ優先で生徒からニーズがないものを新設することに反対です。優先順位を間違えています。生徒のニーズを反映してください。	1	社会が変化し、多様な課題が生じている中で、各教科等の学びを基盤としつつ様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく学びが求められます。 このため、普通科においても教育課程の特色化・弾力化を推進するとともに、教科等横断的な学びや探究活動などを通した実践的な学びを推進します。 また、将来の農業・工業・商業などの産業を支える人材を育成するため、実践的で高度な専門的知識・技能の習得を図る専門学科は重要だと考えております。普通科、専門学科、総合学科それぞれの学びの充実に取り組み、生徒の希望する進路の実現に向け多様な学習機会の充実に努めてまいります。	D
5	7,29	p.7「産業構造の変化に対応する人材育成」について 進路希望調査を見ると、生徒のニーズは普通科です。専門学科は倍率が1を切っている所がほとんどで、ニーズがないのに増やしても意味がない。普通科教育こそ充実させるべきです。 p.29「ロボットや航空機など先端技術を活用したもののづくりを学ぶ学科」も同様に、ニーズはほんの一握り。企業ではなく子供たちの希望を優先させるべきです。「ビジネス教育」といった無意味な施策は撤回すべきです。	2	社会が変化し、多様な課題が生じている中で、各教科等の学びを基盤としつつ様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく学びが求められます。 このため、普通科においても教育課程の特色化・弾力化を推進するとともに、教科等横断的な学びや探究活動などを通した実践的な学びを推進します。 また、将来の農業・工業・商業などの産業を支える人材を育成するため、実践的で高度な専門的知識・技能の習得を図る専門学科は重要だと考えております。普通科、専門学科、総合学科それぞれの学びの充実に取り組み、生徒の希望する進路の実現に向け多様な学習機会の充実に努めてまいります。	D
6	7	P7「LGBTQの生徒を支援するため、元ヤングケアラーによる講演会等」 LGBTQ 理解増進法が成立したからといって、多感な思春期の生徒に国のガイドラインすら定まらないのに、いたずらに講演会などに及ぶのは危険である。 また、こういうことから早速に共学化に進むのではなく別学維持もその制度として必要ではないか。	1	全ての生徒が安心感、充実感を得て、有意義な学校生活を送ることができるよう、多様なニーズに対応した教育を推進することが重要であると考えております。このため、学校生活に不安を抱えるLGBTQの生徒が安心して過ごせるよう、生徒や教職員性の多様性の尊重に関する正しい理解を深めるとともに生徒の心情に配慮した対応を進めます。また、ヤングケアラーについての理解促進を図るとともに、福祉関係機関と連携し、支援のための教育相談体制の充実に取り組んでまいります。 今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
7	7,12, 22,24	安心・安全 ・「全ての生徒の安心感」のくだり。 女子生徒の安全確保からも、女子校に、性自認女性で体は男性のトランス女性性は入学するべきではない。男子校についても同様に、性自認は男性で体は女性のトランス男性性は入学するべきではない。共学校でも、体の性別で分けるのが、安全上・防犯上適切であろう。女子生徒の中には、中学までの間に男子生徒からいじめ等を受け、女性のみで環境で高校生活を送ることを望む生徒もいる。それ以上に、男女共、同性のみで環境で過ごしたいというニーズはある。なぜなら、同性のみで環境では、性別役割分担とは全く関係なく、本音を出し合い、互いの強みを生かして役割分担をし、支え合いながら過ごせる安心感が得られるからである。以上のことから、別学校を、多様性の中の安心・安全のための選択肢として残すことが適切と考える。 ・LGBTQの生徒達への配慮も結構だが、性自認女性で体は男性というトランス女性による女性への性加害などの問題がある。自称女性の男性が豹変する可能性もあり、不測の事態が、教師に見えない所で起きる危険は避けるべきではないか。被害に遭うのは女子生徒であり、防犯上から言っても、トランス女性と女子生徒と一緒に過ごさせるのは適切ではない。女子生徒の安心・安全を第一に対応するべきと考える。 ・性急な性教育や、LGBTQに関する内容は不要ではないか。 アイデンティティも固まっていない児童・生徒に、LGBTQ等は、授業等で教えるべき内容ではないと考える。行事や催事、居場所づくり等でも、そのような性癖を持つ人々を学校に招へいするのは適切ではないと考えられる。なぜなら、善意の方と、悪意を持っている方を見抜くことは困難と考えられるからである。安心・安全の点から言っても、性的嗜好等に関する内容は、政治・思想・宗教等同様、学校現場には不適切であり、不要と考える。 ・施設・設備の整備 県立高校の設備の老朽化が進んでおり、修繕が必要な学校が増えている。40年近く前の、自分の頃にも、水道から赤さびの水が出る等あった。現在も、外壁等の劣化や落下、学食等の不具合で温かい食事ができない、水道水の赤さび等が生じていないか心配している。生徒に健康被害が生じたり、事故等が起きたりするおそれがあると考えられるからである。それに、生徒達が、心身共に健康に育つことは、県の将来のためにも必要なことだからである。学校からの修繕等のニーズもくみ、定期的にチェックをする仕組みを作ることはできないか。計画的に修繕等を進め、十分な予算をつけ、生徒の心身の健康を守り、安心・安全を第一に進めていただきたい。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 全ての生徒が安心感、充実感を得て、有意義な学校生活を送ることが重要であると考えております。学校生活に不安を抱えるLGBTQの生徒が安心して過ごせるよう、生徒及び教職員の性の多様性の尊重に関する正しい理解を深めるとともに生徒の心情等に配慮した対応を進めてまいります。 また、生徒が性に関して正しく理解し、適切に行動できるようにすることが必要であると考えております。生徒の心と体のバランスに配慮した性に関する指導を進めてまいります。 県立高校では、定期的に施設・設備点検を実施しており、引き続き学校の安全で快適な学習環境の整備を進めてまいります。	D
8	8	P8「日本語指導が必要な生徒のための日本語指導員の派遣」 日本語ができないのに高校進学がなぜできるのかが理解できない。どのような試験制度になっているのか、県民に説明すべき。そのために公費を使って制度拡充を図ることはとても県民の理解は得られない。	1	外国人を含む日本語が十分にできない子供が社会で自立していくためには、高校等において適切な教育を受けることが重要であると考えております。このため、県立高校への進学を促進する観点から、中学校等において、在籍する外国人の子供やその保護者に対し、早い時期から進路ガイダンスや進路相談等の取組を実施するほか、高校入学選抜において、外国人特別選抜による募集（試験教科の軽減、問題文の漢字へのルビ振り等）等の取組を進めてまいります。 外国人をはじめ日本語が十分にできない子供たちが将来にわたって日本に居住し、共生社会の一員として今後の日本を形成する存在であることを前提に、日本における生活の基礎を身に付け、その能力を伸ばし未来を切り拓くことができるよう、就学機会を提供することは必要であると考えております。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
9	9,16, 28,29, 31	高校再編 ・令和 2 0 年までに県立高校を減らす校数を記載しているが、全県の校数、地区別の校数とも、校数を削除すべきである。理由としては、県民に対する説明が全くされていない数字を決定事項として載せることは不適切だからである。現在の状況では、県民の意向を入れず、修正もされぬまま、利害関係者等からの要請によって県の教育行政が動かされていることになるが、これが適切な状態と言えるだろうか。方針案を作成する時点で、公開の場で議論し、議事録等も公開して、県民の納得を得る必要があるだろう。 ・「魅力ある県立高校づくりアドバイザー」とは、どのような経緯で選ばれたか、お聞きしたい。 特色化や、統廃合そのものが、関連団体の意向ありきで行われているのであれば、県民全体のための教育行政という観点から不適切と考えられるが、いかがか。 ・高校再編の内容の中で、すでに新校が開設されている。アニメ等のコンテンツ関連の学科があり、また、推進委員の中に、コンテンツ産業関連、不登校対応関連の方がおられる。どのような経緯で、これらの項目が選定され、どのような根拠によって、対象の高校が新校の母体として選ばれたのかを明らかにするべきではないか。県民のニーズ、地域のニーズによって選定されるべきものであり、地域の意向を反映しているのか。業界の要望ありきで割り振られた統合案では不適切である。地元とのすり合わせを行って見直しをするべきであろう。 ・「3 設置を検討する特色ある学科・学校」(2) 今年度の県立高校出願状況を見ても、専門学科の多くは定員割れしている。また、技術系専門学科設置の要望が県建設業協会からあったようだが、普通科と専門学科の統合の要望でも、普通科削減の上での専門学科設置の要望でもない。普通科希望の生徒が大多数の現在、普通科を減らすのは適切ではない。専門学科を目指す生徒と、普通科を目指す生徒では、そもそも、目的も希望先も違っていて関連性がなく、併設・統合する意味がないだろう。技術系専門学科なり高専、高等技術専門校等を新設するとしても、普通科の校数削減をするべきではない。 ・「専門学科」と普通科の件。 建設業界の要望により、くくり募集として専門学科を作り、普通科を削減しようという考えか。自分の時代を思い起こしても、日常的に会っている生徒たちを見ていると、中学生の大多数は、高校を選ぶ際に、職業選択まで考えているとは思えない。生徒たちの多くは、大学進学を考え、幅広い選択肢を求めている普通科志望である。よって、普通科と専門学科の件は全く別問題である。普通科の校数は維持した上で、専門学科は別に新設するべきではないか。 ・熊谷高校、浦和高校、川越高校に、「単位制高校」とあるが、これは何か。定時制とはどう違うのか。 単位制高校とは、通信制高校と共に、不登校等の生徒を受け入れる学校ではないのか。県内トップ校の男子校に、不登校の生徒の受け入れを求めるのだとすれば、普通科で進学を目指す生徒が集中して学ぶ環境が乱されると考えられる。加えて、不登校等の生徒への指導に多数の教員を割かねばならず、全体の指導が行き渡らなくなると考えられる。そのため、この 3 校への単位制高校の併設は取りやめるべきである。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1 学年当たり 6 学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1 学年当たり 6 学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要であると考えております。 再編整備校数については、令和 2 0 年 4 月時点の公立中学校等卒業者数の推計を基に、一定の学校規模を維持した場合に必要な高校の数を試算し、算出しました。その際、地域内の県立高校の 1 学年当たりの学級数が 6 学級を大きく下回る地域などの状況も考慮し算出しています。 再編整備を進めるに当たっては、県民の意見をお聞きする必要があると考え、今回、県民コメントを実施しました。今後、具体的な再編整備校を検討する際には、方針案に記載した「再編整備の観点」を踏まえ総合的に検討することとしております。その決定に当たっては実施方策（案）を公表し、県民の意見をお聞きしてまいります。 「魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議」は、魅力ある県立高校づくりについて有識者や関係者から幅広く意見を伺うため、令和 6 年度に設置したものです。アドバイザーの選任については、大学教授や企業・商工会などの産業関係者、保護者、義務教育・高校教育関係者など、今後の県立高校の魅力づくりについて幅広い御意見をお聞きできるよう考慮して選任しました。 県教育委員会では、令和 4 年 1 0 月に策定した「魅力ある県立高校づくり第 2 期実施方策」に基づき、令和 8 年 4 月の開校に向けて再編整備を進めています。これは、県教育委員会が、学校の現状、地域の状況などを見据えながら社会のニーズに対応した特色ある高校の設置や教育環境の整備に向けて取組を進めているものです。 実践的で高度な専門的知識・技能の習得を図る専門学科は重要であり、普通科のみならず、生徒の希望する進路の実現に向け多様な学習機会の充実に努める必要があると考えております。 企業等との連携や、農業、工業、商業など複数の専門学科の連携による横断的・実践的な学びを推進するなど、専門学科における学びの充実に取り組んでまいります。 また、専門学科を卒業後、大学や専修学校等に進学する生徒が半数を超える中で、一人一人の進路実現に向け、大学と連携した高度な学びの提供や、大学進学に向けた指導の充実などを推進します。 さらに、専門学科は中学生等に学びの内容が伝わりにくいという声もあります。中学生が自分に合った学びを見つけられるよう、専門学科の魅力を伝えるために広報活動の強化や学科名の変更、入学後に学科選択ができるくくり募集を検討します。 このような取組を進めるとともに、グローバル化やデジタル社会の進展、産業構造の変化など、社会の変化に対応した学科の設置を検討してまいります。 また、生徒の興味・関心や社会の変化に対応するために、異なる学科や他分野と連携した学びを提供できるよう、普通科と専門学科や、農業、工業、商業など異なる分野の専門学科の併設を検討してまいります。 単位制高校とは学年による教育課程の区分を設けず、決められた単位を修得すれば卒業が認められる高校のことです。また、定時制課程とは、夜間その他特別の時間又は時期において授業を行う課程のことです。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
10	10,14, 22,25, 26	・p.10(4)多様な教育ニーズについて 「全ての生徒が安心感、充実感を得て、有意義な高校生活を送る事ができるよう、多様なニーズへの対応が求められる」とありますが、これは別学校を必要としている生徒にも当てはまります。共学校・女子校・男子校それぞれに魅力があり、臨む生徒がいる限り選択肢は残すべきであり、当事者無視の強行的な一律共学化は断固反対です。 ・p.14(3)一人一人の多様な可能性を伸ばすについて こちらも同様別学校を残す理由となります。 ・p.22「4 多様なニーズに対応した教育の推進」について 県教育委員会は、男女共同参画苦情処理委員からの勧告に対して、2024年8月22日に措置報告書を公表しました。当該措置報告書には、「埼玉県立の男女別学校に関するアンケート」や意見聴取の結果も踏まえ、「男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かった。」と明確に記載がされています。よって措置報告書を踏まえ、「男女共学校、男女別学校に対する多様なニーズ」を踏まえた教育の推進を進めることを明記すべきです。 ・P.25「共学化の推進」は項目全体を削除すべきです。 理由①「県立高校の特色化に向けたアンケート」結果の概要によると、県立高校の現在の男女別学校設置割合「8.8%」と比較しても明らかに男女別学を支持する値が高いことを示す結果となっています。 理由②措置報告書には、「埼玉県立の男女別学校に関するアンケートや意見聴取の結果も踏まえ、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かった。」と明確に記載がされています。教育長も「別学校に一定のニーズあり。現在高校の在り方として男女共同参画社会の実現ができており問題ない」との発言がありました。なお、勧告書は当初、女子差別撤廃条約の引用として「男女共学での教育が奨励」としていたところ、2024年5月8日に「男女共学その他の種類の教育が奨励」と修正しました。正確を期すために、勧告書の修正の経緯についても明記すべきです。 理由③苦情申出書と魅力ある県立高校づくりの高校再編は別物です。方針の中に一緒に記載することはおかしいので項目全体を削除すべきです。そもそも措置報告書自体、当事者の意見を無視しわざと分かりづらく玉虫色の結論を出したことは評価されません。措置報告書の撤回も同時に求めます。 ・第4章県立高校の再編整備について 「高校教育を取り巻く状況は大きく変化しており、一人一人の能力と希望に応じて、生徒の持つ可能性を伸ばしていくためには、社会の変化を踏まえて高校の特色化や活性化を図ることが必要です」とありますが別学校の一部共学化においても同じことが言えます。共学化に関しては昔からずっと変わらず推進にこだわっているようですが、社会の変化を踏まえ埼玉の誇るべき教育環境の特色として別学は自信を持ってこのまま維持していくべきです。他県が共学化にしているから埼玉県も行うという考えは個性を一つにしてしまう全体主義であり、別学校の強引な一律共学化は断固反対します。 ※県民への説明が不足している状況であり、県民の意見を反映しないまま方針が策定された場合、各種法令や条例の違反、及び手続違背が生じる可能性があることから、強く修正を求めるものとします。	1	県教育委員会としては、県男女共同参画苦情処理委員からの勧告は、埼玉県男女共同参画推進条例に基づき、県男女共同参画苦情処理委員が当該苦情について調査した結果、勧告の必要があると認めてなされたものと受け止めており、措置報告書はその措置状況を報告したものです。 県男女共同参画苦情処理委員からは、男女別学であることだけでは条約違反とされていないものの「男女共学その他の種類の教育」を奨励することにより、男女の役割についての定型化された概念の撤廃が求められており、共学化が早期に実現されるべきとの勧告を受けました。 「県立高校の特色化に向けたアンケート」の高校選びの観点については、高校を選ぶ際に様々な観点がある中で、中学生・高校生や保護者がどのようなことを重視しているかを伺いました。学科・コースや通学の利便さ、授業以外の活動内容など、複数ある高校選びの観点の一つとして、共学又は別学であることについて意識している方の割合を把握できたものと理解しています。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えられており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、学科改編や学校の統合など再編整備は、今後更に生徒数が減少していく中で、一定の学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図るために必要があると考え、実施しようとするものです。共学化の推進については、「第3章 県立高校における教育活動・教育環境」に記載しており、「第4章 県立高校の再編整備」には記載しておりません。	D
11	10,22, 25,26	p.10(4)多様な教育ニーズについて 「全ての生徒が安心感、充実感を得て、有意義な高校生活を送る事ができるよう、多様なニーズへの対応が求められる」「一人一人の多様な可能性を伸ばす」とありますが、これは別学校を必要としている生徒にも当てはまります。共学校・女子校・男子校それぞれに魅力があり、臨む生徒がいる限り選択肢は残すべきであり、当事者無視の強行的な一律共学化は断固反対です。 p.22「4 多様なニーズに対応した教育の推進」について 県教育委員会は、男女共同参画苦情処理委員からの勧告に対して、措置報告書を公表しました。当該措置報告書には、「埼玉県立の男女別学校に関するアンケート」や意見聴取の結果も踏まえ、「男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かった。」と明確に記載がされています。よって措置報告書を踏まえ、「男女共学校、男女別学校に対する多様なニーズ」を踏まえた教育の推進を進めることを明記すべきです。 p.25「共学化の推進」は項目全体を削除すべきです。 理由①「県立高校の特色化に向けたアンケート」結果の概要によると、県立高校の現在の男女別学校設置割合「8.8%」と比較しても明らかに男女別学を支持する値が高いことを示す結果となっています。 理由②措置報告書には、「埼玉県立の男女別学校に関するアンケートや意見聴取の結果も踏まえ、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かった。」と明確に記載がされています。教育長も「別学校に一定のニーズあり。現在高校の在り方として男女共同参画社会の実現ができており問題ない」との発言がありました。なお、勧告書は当初、女子差別撤廃条約の引用として「男女共学での教育が奨励」としていたところ、2024年5月8日に「男女共学その他の種類の教育が奨励」と修正しました。正確を期すために、勧告書の修正の経緯についても明記すべきです。 理由③苦情申出書と魅力ある県立高校づくりの高校再編は別物です。方針の中に一緒に記載することはおかしいので項目全体を削除すべきです。そもそも措置報告書自体、当事者の意見を無視しわざと分かりづらく玉虫色の結論を出したことは評価されません。措置報告書の撤回も同時に求めます。 第4章県立高校の再編整備について 「高校教育を取り巻く状況は大きく変化しており、一人一人の能力と希望に応じて、生徒の持つ可能性を伸ばしていくためには、社会の変化を踏まえて高校の特色化や活性化を図ることが必要です」とありますが別学校の一部共学化においても同じことが言えます。社会の変化を踏まえ埼玉の誇るべき教育環境の特色として別学は自信をもってこのまま維持していくべきです。他県が共学化にしているから埼玉県も行うという考えは個性を1つにしてしまう全体主義であります。別学校の強引な一律共学化は断固反対します。 ※県民への説明が不足している状況であり、県民の意見を反映しないまま方針が策定された場合、各種法令や条例の違反、及び手続違背が生じる可能性があることから、強く修正を求めるものとします。	2	県教育委員会としては、県男女共同参画苦情処理委員からの勧告は、埼玉県男女共同参画推進条例に基づき、県男女共同参画苦情処理委員が当該苦情について調査した結果、勧告の必要があると認めてなされたものと受け止めており、措置報告書はその措置状況を報告したものです。 県男女共同参画苦情処理委員からは、男女別学であることだけでは条約違反とされていないものの「男女共学その他の種類の教育」を奨励することにより、男女の役割についての定型化された概念の撤廃が求められており、共学化が早期に実現されるべきとの勧告を受けました。 「県立高校の特色化に向けたアンケート」の高校選びの観点については、高校を選ぶ際に様々な観点がある中で、中学生・高校生や保護者がどのようなことを重視しているかを伺いました。学科・コースや通学の利便さ、授業以外の活動内容など、複数ある高校選びの観点の一つとして、共学又は別学であることについて意識している方の割合を把握できたものと理解しています。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えられており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、学科改編や学校の統合など再編整備は、今後更に生徒数が減少していく中で、一定の学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図るために必要があると考え、実施しようとするものです。共学化の推進については、「第3章 県立高校における教育活動・教育環境」に記載しており、「第4章 県立高校の再編整備」には記載しておりません。	D

番号	該当ページ	御意見の概要	意見数	県の考え方	反映状況
12	10,11	生徒、保護者の意見の重要性 どういう高校に魅力を感じるか、行きたいと思うかという上で、生徒本人（在学高校生、中学生とも）、その保護者の意見は、世の中の企業等におけるマーケティングと同様非常に重要なことです。	1	生徒や保護者などの意見を聞くことは大切だと考えております。 方針案の策定に当たっても、県内の小学５・６年生、中学生及び高校生とその保護者を対象に「県立高校の特色化に向けたアンケート」を実施し、生徒や保護者の御意見も参考にしてまいりました。 引き続き、様々な御意見を参考にしながら、魅力ある県立高校づくりに努めてまいります。	C
13	10,20,22,25	P10の「(3)教育をめぐる国の動向」において言及のある中央教育審議会の「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（答申）」においては、男女別学が問題とは扱われていない。P20の「埼玉県人権教育実施方針」にも言及があるところ、当該方針には「男女共同参画」はうたわれているものの、男女別学が「男女共同参画」を阻害する問題とは扱われていない。P22においては「４ 多様なニーズに対応した教育の推進」がうたわれているところ、一律に男女別学とすることは、多様性に反してむしろ「画一化」に向かうものであり、「６ 共学の推進」については項目全体を削除すべき。	1	高校の３年間で男女が互いに協力して学校生活を送ることは意義があると考えております。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D
14	10,25	この方針案に書かれている取り組みの全てがニーズに反して魅力を損なわせているということではないですが、大きくそれを損なわせている事項が含まれているため、全体としては、「魅力削減に向けた県立高校づくりの方針（案）」と言わざるを得ないものとなっています。 ・そもそも把握しているはずのニーズが反映されていない 埼玉県教育委員会が県内の中高生・保護者を対象に行った共学化の是非などを問う記名アンケートの結果を受け、教育長は、定例記者会見の場で、「共学校と別学校それぞれに一定のニーズがある」との認識を示されました。魅力という言葉を使う以上は、把握をしているニーズについては反映をしていただきたいのですが、なぜか本方針案には、共学化推進の記載がありました。これはニーズの反映とは逆方向の取り組みで、県立高校の魅力を大きく損なわせています。 ・方針案の記述に矛盾がある （４）多様な教育ニーズの記述の中で「全ての生徒が安心感、充実感を得て、有意義な高校生活をおくることができるよう多様なニーズへの対応が求められます」との記載があります。しかし、2024年12月26日に実施された「冬の共学化反対ワーキング」には現役の高校生も参加しており、このことから、ニーズが適切にみ取られていない現状と、方針案にある「全ての生徒の安心感、充実感」を損なっていることは明らかです。 ニーズが多様でないのであれば問題は生じませんが、「多様なニーズへの対応が求められる」というのは、本方針案にある記載のとおりであり、それに応える教育環境の選択肢を充実させることこそ、魅力の向上につながります。 ・共学化の推進は時代の流れに合っていない 現代社会においては、社会における男女の役割について定型化された概念の撤廃が求められています。この実現において、例えば男子生徒が「従来なら女子生徒が担っていた役割を担う」という経験（その逆の女子生徒が「従来なら男子生徒が担っていた役割を担う」という経験でも同様）は大いに有効なものです。男女の定型化した概念の撤廃の必要を各生徒が自覚し、男女別学校と共学校のそれぞれの特徴を理解して、選択できることこそが県立高校としてはるかに魅力的です。 加えて、近年は生物学的な性だけではなく、LGBTQという言葉に代表される様々な性（社会的な性、ジェンダー）の存在を受け入れる社会となってきました。性同一性障害や性的指向・性自認に係る生徒への対応の必要性などからみても、生徒自身が当人の意思で共学校のほか、「異性がいる抑圧のない環境」として、男女別学校をも選べることは埼玉県立高校の大きな魅力となっています。こうしたことを踏まえると男女別学校の存在意義は時代の変化の中において再評価されるべきものです。 県立高校は公の教育機関としてマイノリティーとされる方も含め、全ての人に開かれていることが重要です。	1	高校の３年間で男女が互いに協力して学校生活を送ることは意義があると考えております。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、別学校・共学校にかかわらず、全ての生徒が安心感、充実感を得て、有意義な学校生活を送ることができるよう努めてまいります。	D
15	11,14,22,25	県教委が行った各種中高生・保護者アンケート結果に反しているため、25ページ(第3章6項)共学化推進の方針は全文削除すべき。 ・P11◇中学生への質問において別学共学についての項目はない。共学化を推進するならば項目として入れてアンケートを取るべき。0か100かの問題ではないので、割合もしっかり算出してから共学化の話題を展開するのが望ましい。 ・P14（２）において「学びを人生や社会に生かす力を育む」（３）において「一人一人の多様な可能性を伸ばす」、P22において「多様なニーズに対応した教育の推進」と多様なニーズに応えようという表明をされた後に、P25において「共学化の推進」という前記述を否定するような表明をされているのが疑問であり、矛盾を感じる。せめて推進ではなく、検討とすべき。別学に進みたい人、共学に進みたい人という多様なニーズを否定する根拠が乏しすぎる。別学に進みたい人は私学が難しければ高校進学自体を諦めるということなのか。身体的、心理的、私たちに想像もつかない理由で共学での勉強は難しく、女子校・男子校でしか学べない人もいる中、そのニーズは置き去りなのでしょう。か。 ・別学が定員割れなら理解できますが、志願者は安定して存在しており、これらより倍率が低いほかの公立共学校も多々あるのが見て取れる。これは、立派な県民の意思（正に対象となる生徒たちの意見）の反映ではないか。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
16	11,26	P11に「本県の県立高校において、通級による指導を実施する高校は、平成29年度の4校から令和5年度には7校となっています。」と記されていますが、「通級による指導」の導入当初からモデル校として実施してきた4校のうちの3校が、「魅力ある県立高校づくり」の前方針によって、閉校になろうとしています。この大きな矛盾に憤りを覚えます。 高校でどのような学びが保障され、どのような進路が選択されているのか、その実態を「魅力ある高校づくり」の中で明らかにし、誰一人教育の制度から排除されないことない「埼玉の高校教育」を実現していただきたい。そのためには小規模な高校を統廃合するのではなく、30人以下などの少人数学級を実現し、障害を含む多様なニーズのある生徒たちが豊かに学ぶことのできる学校をどうつくるか、という視点で「魅力ある県立高校づくり」を進めていただきたい。	1	全ての生徒が安心感、充実感を得て、有意義な学校生活を送ることができるよう、多様なニーズに対応した教育を推進することが重要であると考えております。障害による学習上又は生活上の困難のある生徒への通級による指導の導入を推進するとともに、教育活動における合理的配慮の提供を推進していきます。 また、生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えており、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要であると考えております。 少人数学級の実現については、学級編制の標準が「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に40人と定められている中で、県単独での30人以下学級の実施は難しいと考えます。 新たな定数改善計画策定及び教職員配置基準の見直しなどについて、国に働き掛けてまいります。	D
17	12,25	・魅力ある県立高校づくりアドバイザーが各地域から平等に選出されていないのか。なぜ多くのアドバイザーが県北以外の地域から選出されているのか。 ・共学化について、県民の意見を最大限に尊重してほしい。これから進学する小中学生はもちろんのこと、在学中の高校生、保護者、卒業生の意見等、より多くの声を聞いてほしい。 方針（案）の12ページに『ヤングケアラーやLGBTQの生徒などの中には、学校生活上の困難を抱えている生徒もいます。全ての生徒が安心感、充実感を得て、有意義な高校生活を送ることができるよう、多様なニーズへの対応が求められます。』とあるように、たった一通の苦情申出が独り歩きし、共学化することが本当に県民にとって魅力ある県立高校づくりとなるのか、今一度県民の意見を聞いてほしい。共学化を軽く考えないでほしい。別学だから安心して行きたい高校に行ける生徒もいるはずである。県立学校で別学校があれば特徴的だし魅力的である。 ・県立高校の再編を検討する際も、偏った意見を持つ人を検討委員会等に選出するのではなく、有識者以外は公募制にすべきである。	1	魅力ある県立高校づくりアドバイザーは、魅力ある県立高校づくりについて、有識者や産業関係者、保護者、教育関係者から意見を伺うために設置したものです。アドバイザーには、今後の魅力ある県立高校づくりに向けて各分野で活躍されている専門家や団体等の代表者などを選任しました。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 今後、具体的な再編整備校を検討する際には、「再編整備の観点」を踏まえ総合的に検討することとしております。その決定に当たっては県教育委員会が実施方針（案）を公表し、県民の意見をお聞きしてまいります。	D
18	14	各科目をなぜ学ばせるのか、学ぶのか。考える、考えさせるといった事が不十分だと感じる。詰め込みではなく、実用的で現実性のある教育が必要になっていると感じる。英語教育においては、実際に使える物なのかを検証していただきたい。	1	予測が困難な社会の変化に対応できる力を育むためには、基礎的・基本的な知識や技能とともに、学びに向かう力を育むことが重要だと考えております。また、学んだことを人生や社会に生かすために必要となる資質・能力を育成することも重要です。 頂いた御意見を踏まえ、今後各教科における学びの充実に取り組んでまいります。	B
19	14,25	p.25 ・埼玉県立高校131校のうち、共学校が119校（91%）を占め、別学校はわずか12校（9%）に過ぎない。生徒の希望次第で共学校に進学することは何ら妨げられておらず、「共学化」は既に十分達成されているため、これ以上の「共学化の推進」の必要性は見当たらない。 ・これ以上の「共学化の推進」は、「別学廃止」を指すことになるから、その方向性を目指すのであれば「共学化の推進」ではなく、「別学廃止」と記載すべき。 ・これ以上の「共学化の推進」すなわち「別学廃止」は、P14に記載のある「特色ある高校づくり」に反し、生徒の選択肢を狭めるデメリットが大きいため、実施すべきではない。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D
20	14,25	県教委が行った各種中高生・保護者アンケート結果に反しているため、25ページ(第3章6項)共学化推進の方針は全文削除すべき。 「個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められる」というのであれば、当然、アンケート結果に基づいて男女別学高校も存続させるべきである。また、本方針案のP14には「生徒の進路希望や興味・関心、学習経験等は様々」であると記述されているにもかかわらず、共学化推進という画一的な方針をとることは、方針案の内容そのものに深刻な矛盾が存在している。このような方針案を推進することは、「魅力ある県立高校づくり」という目的を大きく損なうことになり、県内各所に存在する公立高校の存続を危くするものである。男女別学に基づく伝統ある校風は、正しく県が推進しようとする「魅力ある県立高校づくり」に合致するものであり、公立高校から魅力と特色ある教育機会を奪うことになる本案には断固として反対である。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
21	14, 21, 25, 26	共学化の推進に「反対」の立場から以下の通り意見を申し述べます。 P14 第2章 1 県立高校で育む資質・能力 に関連して ・ここでは、「予測が困難な社会の変化に対応できる力や学びを人生や社会に生かす力を育成し、生徒一人一人の多様な可能性を伸ばします」と掲げられており、これについて賛同します。 ・また、「（３）一人一人の多様な可能性を伸ばす」において「特色ある高校づくりによる多様な学習機会の充実に努めます。」としていることは非常に重要な論点であり、県立高校が多様な選択肢を提供することは大きな価値であると感じています。 ・一方で、共学化の推進は上記のいずれにも矛盾します。 ・県立高校を志望する学生（私立中に進学しない学生）にとって、共学化を推進することは、別学での学びの機会、選択肢を奪う結果になります。 ・別学は人生の中でも同性の仲間のみで切磋琢磨する稀有な環境であり、小中また大学を含め共学という画一的な環境のみで育った学生と異なる発想が可能です。 ・また、多くのOBが、別学でしか学べない「仲間と協働する力」「１つの活動に集中する力」があると考えており、こうした教育を享受する機会をしっかりと提供し続けること「県立高校で育む資質・能力」で掲げている内容に合うと考えます。 P21 第3章 3 自立する力の育成 に関連して ・ここで掲げる「主体的に判断し責任を持って行動できる力や、社会の中で自立し他者と連携・協働しながら社会の形成に参画する力を育む教育を推進します。」という理念は非常に重要です。 ・一方で、上記についても共学化の推進と矛盾します。 ・共学化を推進するというは、進路の選択肢を狭めることにつながります。学生が自らにあった学校を選択できる余地を残すべきですし、「性による固定的な役割分担意識にとらわれない」という重要な価値を守るべきと考えます。 P25 第3章 6 共学化の推進 に関連して ・「男女の役割についての定型化された概念の撤廃」を進めるためにはむしろ別学を維持・存続することが重要であり、共学化を推進することはこの目的に矛盾すると言えます。 ・加えて、男子校、女子校がそれぞれ設立されている点を鑑みれば公平は担保されています。特色ある教育の推進を進める上で合理的な差異があるのは当然です。 ・共学化の推進は全てを平等にすることは資することかもしれませんが、それはそれぞれの学校の校風を軽んじることに他なりません。 ・仮に共学化により男女共に全ての学校の入学資格を得られるようになったとしても、同時に魅力ある県立の伝統校それ自体が失われる、ということに直結するという危機感をしっかりと持っていたければ幸いです。 P26 第4章 県立高校の再編整備 に関連して ・少子化の進展に伴い、県立高校の再編整備を進めることには賛成です。 ・また、別学・共学ともに再編の対象となり得ることは当然だと思います。 ・一方で、再編に当たっては、別学・共学という選択肢を維持した上で判断していくことが重要です。 ・県として、魅力ある学校を作っていくという使命を果たすためには、全国でも数が少なくなった別学という財産を維持することが重要であることを認識いただき、少子化で県立学校の生徒数確保が困難になっていく中で大きな武器として活用していく方向で、県立高校改革の取組を推進していただくと幸いです。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。 さらに、男女共同参画の視点に立った教育について、全ての県立高校で推進していきます。 なお、再編整備は、今後更に生徒数が減少していく中で、一定の学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図るために実施する必要があると考えております。	D
22	14	高校教育の多様化や「人材の育成」といった方針は、法律で規定された教育の目的とは反するものと考えます。 教育の目的は、あくまでも「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。」（教育基本法教育第1条）に基づいて行われるべきです。「グローバル化へ対応した教育」や「科学技術教育の推進」といった一面的な「多様化」教育、また企業にとって有益な「人材の育成」であってはなりません。	1	高校においては、義務教育において育成された資質・能力を更に発展させながら、全ての生徒が共通して身に付けるべき資質・能力を土台として確実に育成した上で、能力・適性、興味・関心等に応じた学びを実現することにより、学びに向かう力の育成や将来のキャリアを展望する基盤の形成を図ることが求められています。このため、県立高校では、グローバル化へ対応した教育の推進や科学技術教育の推進、産業構造の変化に対応する人材の育成に取り組んでいく必要があると考えております。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
23	14,15, 20,22, 25	p.25「6 共学化の推進」の項目を削除してください。共学化の推進は、民意に反します。「県立高校の特色に向けたアンケート」では、「別学校であること」を重視する割合が、中学生で14.9%、高校生で16.6%もあり別学校を減らすべきではありません。「埼玉県立の男女別学校に関するアンケート結果」でも、共学化に反対する意見が多数です。共学化すべきではありません。 ・最近の選挙において共学化は争点になっておらず。「共学化すべき」という民意はありません。 ・「苦情」だけを一方的に記載するのは不適切です。別学を維持する多数の意見も記載すべきです。 ・「男女別学であることだけでは条約違反とはされていない」とあるのですから、「男女別学は問題なし」で終わりにしてください。 ・「県民の意見を丁寧に把握する」とあり、別学維持を希望する意見が多数あるのですから、共学化を推進すべきではありません。 ・「教育ニーズが多様化」「希望に応じた進学先の選択肢を用意すること」とありますが、「別学校で学びたいというニーズ、希望」に応じた選択肢を残してください。 ・体育の授業や行事など、別学校ならではのものがあります。男女を区別する意義はあります。 ・別学校では「学べないこと」があるとしても、地域や他の学校と合同の授業や行事など、補う方法はあります。共学化する必要はありません。 ・やむを得ない理由で共学化を検討する場合でも、別学維持の民意が多数ある以上、少なくとも数十年はかけて慎重に検討すべき。県立の別学校があるからこそ、私立中学を受験せずに公立中学から県立高校を目指す子もいます。やむを得ず共学化を決定した場合でも、実施までに十年以上の周知期間が必要ですよ。 ・p.22「多様なニーズ」に応えるためにも、別学校は維持すべきですし、再編を安易に進めるべきではありません。「学校生活上の困難を抱えている生徒」との記載がありますが、困難（例えば「異性の視線が気になる」）を別学校に通うことで解消できる生徒もいます。 ・p.14,15「多様な可能性」「特色ある高校づくり」とありますが、別学校だからこそ開かれる可能性、別学校ならではの特色があります。例えば、男女で役割分担することなく、同性のみで行事等を成し遂げることによって開かれる可能性もあると思います。 ・「校風」「部活動や学校行事」には、別学校ならではの特色があります。特色の観点からも、別学校を維持してください。 ・p.20・「男女共同参画の視点に立った教育」とありますが、男女共同参画の観点からも別学校に意義があると思います。男女の役割に捉われない経験ができますと思います。 ・共学化したからといって男女共同参画は進みません。別学校があっても問題ないので、別学校を維持してください。 ・「男女共同参画」は重要ですが、そこに過剰な手間や予算をかけたり、過剰な配慮を生んだりしないよう、注意お願いします。 ・「男女が互いに協力して学校生活を送ること」に意義があるかもしれませんが、「男子のみの学校生活」「女子のみの学校生活」にも意義があります。ニーズに対して、別学校の割合は必要最低限ですから、共学化を推進する必要はありません。 ・「県男女共同参画苦情処理委員」の勧告は一つの意見であり、必ずしも従う必要はありません。 ・「別学校で学びたい」という子供の意思を尊重してください。共学校にも別学校にも、子供の成長に適した特色があると考えています。 ・男子校、女子校、共学校いずれにも優れた高校があると思いますので、これ以上の共学化を推進する必要はありません。 ・もし学校教育制度が無くなった、男子のみ女子のみの教育の意義は残ると思います。 ・男女共同参画は大事かもしれませんが、L G B T Qや障害に配慮は必要でしょう。「共学化推進せよ」という意見にも耳を傾ける必要はあるかもしれませんが、しかし、「別学校に進学したい」というニーズにも配慮すべきです。別学校は、差別や優遇ではありません。別学校に対してニーズがあり、別学校があって問題無いのですから、あえて変える必要はありません。	1	「県立高校の特色化に向けたアンケート」の高校選びの観点については、高校を選ぶ際に様々な観点がある中で、中学生・高校生や保護者がどのようなことを重視しているかを伺いました。学科・コースや通学の利便さ、授業以外の活動内容など、複数ある高校選びの観点の一つとして、共学又は別学であることについて意識している方の割合を把握できたものと理解しています。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
24	14	【第2章第1節】から「県立高校で育む資質・能力」について 14頁の本文3行目、この文の前半には「生徒が豊かで幸せな人生を送るとともに持続的に発展する社会の創り手となるよう」という文言が挿入されている。 「豊か」「幸せ」という語は主観の域が強い意味合いを持つ以上、ここで用いることは果たして適切であろうか。生徒らが送る人生の解は幾つもあり、また何通りもある。それに関わらずどうも一面的に見ているのではないかと危惧され、策定側が生徒らの人生をどのようにスケッチしているのかが垣間見えてくる。また「社会の創り手となるよう」とも表現されているが、普通は「社会の担い手となるよう」と表現するのが一般的ではないのか。この文は後半だけで十分な意味合いを持つものである。分かりづらい前半は削除すべきではないかと考える。14頁末行「特色ある高校づくりによる多様な学習機会の充実」とある。ここでいう「特色ある高校」とはどのような高校をいうのか。説明がないので分からない。何らかの形で説明なり定義づけなりを附してもらいたい。	1	「生徒が豊かで幸せな人生を送るとともに持続的に発展する社会の創り手となるよう」という文言については、「豊かな学びで未来を拓く埼玉教育」を基本理念とする第4期埼玉県教育振興基本計画において、「「豊かな学び」で、県民の誰もが人生や社会の未来を切り拓き、一人一人が豊かで幸せな人生を送るとともに、持続的に発展する社会の創り手となることを目指す」とこととしており、これを踏まえたものです。 また、高校には多様な入学動機や進路希望、学習経験、言語環境など、様々な背景を持つ生徒が在籍しています。このため、義務教育において育成された資質・能力を更に発展させながら、生徒の多様な能力・適性、興味・関心等に応じた学びを実現することが必要だと考えております。生徒の希望する進路実現に向けて必要となる力の育成や、生徒の興味・関心に応じた学びを提供できる「特色ある高校」づくりを進めてまいります。	D
25	15,16	AIが台頭していく中で、今後事務作業のスキルのニーズは確実に減少していくと考えます。全日高校生が、大学に進学しホワイトカラーを目指していくような方針ではなく工業や産業、といったAIの力を以って、人間の創造性をよりよくできない領域への進路をも魅力的に提示できる教育を望みます。いわゆるブルーカラーの重要性や、魅力を促進していただけたらよいと考えました。	1	将来の農業・工業・商業などの産業を支える人材を育成するため、実践的で高度な専門的知識・技能の習得を図る専門学科は重要であると考えております。普通科のみならず、生徒の希望する進路の実現に向け多様な学習機会の充実に努めてまいります。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
26	15,24, 26,28	普通科における選択肢を広げるためにオンラインを活用できないでしょうか。オンラインを活用して他校との合同授業などを行うことによって、科目の選択肢が増やせないでしょうか。これによって、小規模校も維持できると思います。選択肢を維持するために、高校の再編を行うだけではなく、小規模校を維持できる方法の検討をお願いいたします。現時点でも、高校によって学べない科目があることを懸念しています。特に、理科の「地学」を学べる高校が少ないことに危機感を感じています。合同授業等によって選択肢が増えるよいと思います。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められます。 今後、更に生徒数が減少していく中で、一定の学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要であると考えています。 再編整備に当たっては、周辺の高校の設置状況や交通の利便性、通学の状況など「再編整備の観点」を踏まえ、地域の状況等を考慮しながら、総合的に検討してまいります。 御意見を踏まえ、第4章に、小規模での教育活動を維持し続けられるようオンラインを活用した遠隔教育の研究を進める旨、記載しました。	A
27	15	普通科において、大学、専門家、行政機関などと連携した学びの機会があるよいと思います。県立博物館を学びに活用してもよいと思います。学びの機会として、講義だけではなく、実験・実習・フィールドワーク等もあるよいと思います。	1	社会が変化し、多様な課題が生じている中で、各教科等の学びを基盤としつつ様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく学びが求められます。 そのような中、普通科においても、教科等横断的な学びや探究的な学びの充実に向け、企業や大学、地域と連携した学びを推進します。 また、普通教育を主とする学科として地域社会の課題解決をテーマに、実践的な学びに特に重点的に取り組む新しい学科などの設置について検討します。	B
28	16,22, 25	方針（案）では16頁からの2各学科（課程）の(4)定時制通信制（課程）において「生徒が求める多様な学びに対応する必要性」について言及。また、22頁からの4多様なニーズに対応した教育の推進では「全ての生徒が安心感・充実感を得て、有意義な学校生活を送ること」について言及している。県内で高校へ通う生徒の中には、複雑な家庭環境や本人の特質、宗教上の都合などから、男女別学であることにニーズを感じている生徒も多くあります。浦和第一女子には全国でも希少な定時制の女子校があり、共学化を推進することはその環境を必要とする生徒にとって希少な選択肢を奪うことに他ならず、先に述べた2項目の内容と相反すると考えます。これはほかの男子校、女子校でも同様のことかと思えます。 多様化する教育ニーズの中で教育の機会均等を確保するのであれば、共学も男女別学も存続させ、全ての在り方から選べる現状を維持する方が、個人の選択肢は増え、生徒のニーズに合わせられると考えます。 男女別学の学校、特に全日制は入試の志望倍率でも定員割れを起こしておらず、生徒からの需要が高いことは明かです。その中で現場の声を軽んじることはあってはならない。まずは、実際に男女別学の学校で学んでいる生徒や、卒業生、これから高校を目指すことになる中学生など、現場の所感を丁寧に聞き取り必要性について慎重に吟味することが必要だと考えます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
29	16	p16 毎日通学すること、イベントで共同作業することで忍耐力を養うことも必要であるため、余程の事情ある場合を除き、県立に通信制を設けることはやめていただきたい。	1	自分の進路希望や生活スタイルなど一人一人の実情に応じて、柔軟な学びができる環境を整えることが大切であり、通信制課程はそれに応えるものの一つであると考えております。通信制高校の設置の検討に当たっては、共同作業を行える機会を設けるなど頂いた御意見も参考にまいります。	D
30	16	中学生で、将来の進むべき学科を決めるのは非常に難しいです。専門学科では、くくり募集というシステムを行うと述べられていますが、本当に希望した100%の子が利用できるのでしょうか。くくり募集の対象となる子どもが、ベストな状態でできるようにしてほしい。	1	くくり募集は、入学選抜時に、学科の区分を設けなくて一括で生徒を募集し、入学後に生徒の適正や希望に応じて各学科に振り分けられることができるという利点があります。生徒が自分に合った学びの内容を見つめることができるものとなるよう検討してまいります。	C
31	16	p.16 近年私立の通信制も増えてきており、県立で通信制の学校を設置する意義が薄れているように感じます。一方で、様々な困難を抱える生徒にとって最後の居場所は定時制高校です。毎日顔を合わせる先生がいて、声を掛けてくれる仲間がおり、温かく栄養バランスを考えた食事が提供される定時制高校は大切な場所です。もともと定時制高校は勤労学生のためのものでありますが、通信制ではできない人間社会を学ぶ場としての貴重な意義があります。県内どこに住んでいても通いやすい範囲に定時制高校があるように計画を進めてほしいと考えています。 工業・商業の定時制も、外国籍の生徒の増加が予想される埼玉県にとって、ますます必要な学校となります。	1	県立高校では、様々な興味や関心、将来の夢を持つ生徒の多様なニーズに応える教育を提供していく必要があると考えております。自分の進路希望や生活スタイルなど一人一人の実情に応じて、柔軟な学びができる環境を整えることが大切であり、定時制課程や通信制課程はそれに応えるものの一つであると考えております。御意見も参考にしながら、今後取組を進めてまいります。	C
32	16	県立の通信制高校の導入はやめてください。通信制高校の教育効果についてはまだ結果が出ていません。教育は長い時間をかけてその効果が分かっていくものです。毎日その場所に行くこと、団体行動をすること、嫌なことも我慢して場に習った行動をすること、全て教育です。大学進学実績だけではないのです。「その年齢のその時期にしか学べない習慣や学習」があると思います。自律的な行動ができる子はわずかです。県立通信制高校の導入は時期尚早です。	1	県立高校では、様々な興味や関心、将来の夢を持つ生徒の多様なニーズに応える教育を提供していく必要があると考えております。自分の進路希望や生活スタイル、体調など一人一人の実情に応じて、柔軟な学びができる環境を整えることが大切であり、通信制課程はそれに応えるものの一つであると考えております。頂いた御懸念も踏まえながら、今後の設置を検討してまいります。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
33	18,20	探究授業等の取組は素晴らしいですが、民間企業の協力をもっと推し進めて良いと考えます。外部人材の登用等民間との連携を推し進められれば、色々と可能性が広がるので検討してほしいと思います。	1	御意見を踏まえ、企業等と連携した学びを推進するため、第3章に外部人材の活用などに関する記載を加えました。	A
34	18	子供の志望校を考えるとき、行きたい大学に合わせた高校選びではなく、もっと将来の仕事選びなどに役立つ知識や経験をした上で大学進学や専門学校等の選択をしてほしいと感じました。いろいろな仕事を知り、世の中の課題や取組を知り、自分で考えていく。そんな取組を多く経験してもらいたいと感じました。探究活動やSTEAMといった活動は公立高校でも行っていますが、もう少し経験をさせてほしいと思います。県の考える県立高校の方向性は良いと感じています。その上で、大学進学につながる教育指導が行われていると保護者として安心です。今増えつつある総合型選抜にもつながると思います。私立のSTEAMコースのような学科が公立であるといいなと感じました。	1	探究活動や教科等横断的な学びは、社会の変化に柔軟かつ創造的に対応できる力を育成していくためにも重要だと考えております。新しい時代に求められる資質・能力を育成する教育の推進に向け、教科等横断的な学びや探究的な学びの充実を図るとともに、探究的な学びを重点的に行う科目を設定する学科の設置を検討します。 また、各学科、課程においては、一人一人の進路実現に向け、変化の最前線にある企業等との連携や大学進学に向けた指導の充実に取り組んでまいります。	B
35	18	情報の科目は数学と同じように積み重ねが重要だと思います。ですから小学生から高校生までの長いスパンで考えて行かなくてはいけないのではないのでしょうか。	1	義務教育において育成された資質・能力を、高校段階において更に発展させていくことは重要だと考えております。 高校段階においては、情報活用能力の育成に向け、基本的な操作技能やプログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する学びの充実を図ってまいります。 頂いた御意見は、今後、情報教育を推進する際の参考とさせていただきます。	C

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
36	18,25	「男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していく。（以下略）」などの旨を県男女共同参画苦情処理委員に報告し、この報告で示したとおりに推進していくことにします。 地域別での意見交換には、別学校を代表する団体も入れていただきたい。 県教委と別学校の在校生、OB/OG等とは、必ずしも敵対する関係でなく、埼玉県立高校が魅力あるよりよい学校となって欲しい、埼玉県の教育機関としての教育体系、各校の役割の最適化について、共に目指すところは同じと考えています。意見交換は1回でなく、回数を決めずに実施いただきたい。 今後のアンケート調査に際しては、バイアスのかからない質問を検討いただき、正確に実態を把握するための事後またはサブ解析を行って、正しく解釈できるようにしていただきたい。 今後のアドバイザー会議においては、各校へのヒアリング記録および今回の案に対する意見を委員に示し、議論していただき、その結果も公開いただきたい。 女子校の必要性について 浦和第一女子高校が女子校として存続することを求めます。 案第3章 県立高校における教育活動・教育環境 1. 確かな学力の育成に關して、 O. 学力面において、女子の学力は、共学校より女子校の方が高いという研究結果が示しているように、思春期に周囲に遠慮することなく勉学に集中できる環境は貴重です。 Q. 共学化により特に女子の学力の低下が危惧されますが、先行して共学化した宮城県等他県の検証結果（特に、進学、男女共同参画に関する事項）をお示ください。 O. 男女共同参画を達成するには、男女が一緒にいるだけで達成できるものではなく、意識、見識を高めることのできる環境で教育を受け、社会で実践活動することが必要と考えます。 案第3章 県立高校における教育活動・教育環境 6. 共学化の推進において、男女の役割についての定型化された概念の撤廃を記載されていますが、共学校において部長は男子、副部長は女子という社会の縮図を表す傾向があることから男女共同参画推進を共学化にのみ求めるのは安易な結論ではないでしょうか。 Q. 高校が共学か別学かで、男女平等、男女共同参画に差が出る根拠をお示ください。 O. 埼玉県においても授業料無償化が想定され、優秀な女子の県外あるいは私立への更なる流出が危惧されます。県の人材候補を持続的に確保し、県に貢献する人材を育てることも検討時に留意が必要と考えます。 R. 共学化のための校舎改修、移転などに費用を使うのではなく、設備の充実、カリキュラムや進度の柔軟性、進学のサポート強化等に予算を割り当てていただきたい。 Q. 今後、別学校を共学校にすることで、県立高校入学希望者にとって、どのようなメリット、魅力ある選択ができるとお考えでしょうか？ O. 現在、埼玉県の小中学生にとって、学校選びの選択肢は他県に比類なく非常に恵まれています。県立高校の別学は、埼玉の特色であり、県立共学・別学、公立中高一貫、県内私立、金銭面と通学距離などの条件が整えば、都内、他県の私立（別学・共学）、国立共学・別学と日本一の選択肢を有すると誇れる体系です。 地域ごとに、高校グループとして、共学、別学、一貫校、特色校を配置し、選択肢を持たせた体系が、生徒ファーストであると考えます。 Q. 総合的に検討されるとのことですが、埼玉県や県内各地域を代表する高校の伝統を壊してまで共学化を推進する必要性をお示ください。 共学化の推進について ・案第3章 県立高校における教育活動・教育環境 6. 共学化の推進を削除ください。 案には、共学と別学の長所、短所、総合的に検討した資料、説明がありません。また、これまでの再編の結果の検証、説明がありません。検討、検証がされているのだしたら、公開してください。 ・不備な勧告のみに基づいて県教育委員会が共学化を推進するとされていますが、これまでも検討はされていたのではないのでしょうか。 県の施策の根拠として不備な書類の引用は相応しくないとしますので、当該ページは削除いただきたい。 ・別学現役生1万人と今後入学を希望する何万人という生徒の希望、卒業生の意見集、共学化反対署名の意見を考慮せずに一人の苦情で共学化推進と決定されることは不平等と言わざるを得ません。アンケートにはありませんが、この数値の差をどのようにお考えでしょうか？ ・埼玉県私立学校審議会において、定員増の諮問もあります。県立高校数削減の中、私学の定員を増やすことは矛盾しています。埼玉県立高校の役割、私学との棲み分け・競合、私学の定員数をどのようにお考えでしょうか？ 当団体と、埼玉県県教育委員会との意思疎通が必要と考えています。貴委員会と対話型でのコミュニケーションを図りたく、今後ともよろしく願い申し上げます。	1	「魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議」は、本方針案の検討に当たり有識者や教育関係者からの意見を伺うため設置したものであり、令和6年度末までの設置としています。 「アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取」の対象や実施時期等については、現在検討しております。 男女共同参画の視点に立った教育については、別学か共学かにかかわらず全ての県立高校で推進していくことが重要であると考えております。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。 県教育委員会としては、県男女共同参画苦情処理委員からの勧告は、埼玉県男女共同参画推進条例に基づき、県男女共同参画苦情処理委員が当該苦情について調査した結果、勧告の必要があると認めてなされたものと受け止めています。 県内中学校等卒業生の全日制高校進学者数における県公立高校と私立高校の収容割合については、毎年度、埼玉県公立高等学校協議会を開催し、確認を行っております。公立高校と私立高校がお互いに切磋琢磨（せつたくま）しながら、本県の高校教育を発展させることが重要であると考えております。	D
37	18,19,20	新たな学科 科学技術教育や専攻科、企業等の関係機関と連携・協働した教育活動の充実などなずくことばかりです。 昨今世の中を騒がせる詐欺事件などを見てつくづく思いますのは、小学校の道徳や中高の倫理社会など、現在の社会において必要重要な科目なのではないかと思っています。高校教育において、最低限、法令遵守、道徳的考えなどを扱う時間があってほしいと思います。 先端的な科学技術分野に進みたい生徒もAIの倫理的な面にも思いをはせるような人間になってもらいたいと願います。そこにも埼玉県立高校は目を配っているとアピールして欲しいです。	1	一人一人が他者を理解・尊重し、幸せや生きがいを感じられる共生社会を実現するため、他者を価値のある存在として尊重する豊かな人間性と、社会の課題を協働して解決する社会性を育む教育は重要と考えております。 道徳教育の充実や、先端技術を学ぶ生徒を含め、情報モラルに関する学びなどの充実を図ってまいります。 頂いた御意見は今後事業を進める上で参考とさせていただきます。	C

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
38	18	「方針」（案）に示された基本的な考え方は、県の教育振興計画に沿ったものであり、昨今の情勢を反映し、理念的にも社会の変化・要請に応えたものとなっている。求められる施策は「魅力ある県立高校」を維持・発展させる上で、どのような優先順位を付けて方針を策定するかである。以下の点を盛り込むことを意見として述べる。 ・多様な課題を抱える生徒に対応できる学校、特に夜間を含めた定時制高校に通う子供たちの学ぶ場を保障すること ・国連から勧告されているとおり、障がいを持った子供たちが共に学ぶことのできるインクルーシブな学校づくりを進めること ・残された別学校に対して、共学化が早期に実現するよう積極的に働き掛けること 「方針」（案）で示された理想的な生徒の教育・人権保障のためには、全ての学校が子供たちにとって更に安心・安全な場所となり、優しい学校となることが求められている。そのための学校現場に対する啓発・支援を埼玉県教育委員会には継続してお願いしたい。	1	方針案に記載している事項は、いずれも重要であると考えております。 頂いた御意見も参考にしながら、方針案に示した取組を進めてまいります。	C
39	18,21,22	高校生が、3年間で、将来への「希望」を持ち、将来への「チャンス」をつかみ、勝利への「展望」が開ける、そんな学校生活が可能な教育環境づくりを実践していくことが、私たち大人の責務だと強く思います。 希望：中学校では何らかの原因で不登校となり、不完全燃焼だった中学生生活を、新しく始まる高校生活で取り戻せるような県立高校づくりはできているのでしょうか。子供たちを受け入れる高校側の態勢は万全でしょうか。少なくとも、いわゆる県立進学校では、はじめから不登校枠は実質ないような状況ではないでしょうか。年々増える不登校の子供たちも、従来の普通高校ではなく、通信制高校で生き生きと高校生活を送っている例は相当数に上っています。こうした現実（事実）を、今後更に公教育の現場でも、制度面も含め生かしてほしいと思います。 チャンス：学習面又は課外活動でも充実した高校生活を送り、その実績が認められ、本人の望む進路（進学や就職）に結び付くような機会を与えてあげる、または支援してもらえる環境づくりを現場（高校）で実践していただきたいと思います。 展望：高校卒業後、大学生活では○○を学びたい！ いずれ社会に出たら○○（職業）になりたい！ というような高校生の願いを実現できるようなサポートが本当にできているでしょうか。これは決して学力の問題だけではなく、高校での良いきっかけがあるかないか、にもよると思います。例えば、教科書どおりに教えるのではなく、生徒に興味を持ってもらえる教え方ができるかどうかの教員側の課題でもあります。 今や、「少子化」は加速し続け、県立高校の再編整備も余儀なくされています。私はむしろこの現実を逆手に取り、一人一人の高校生に配慮できる時間やお金が増えると考えます。公教育が自ら進化・進展しなければ、予想以上の県立高校の定員割れ、ひいては再編の加速化（廃校の増加）を招くことでしょう。そして、進化・進展する唯一の方法は、中学生に選ばれる県立高校になることです。大人の事情で、数合わせをすることではありません。 現在の日本の実情と子供たち（高校生）の将来を考えたとき、より実社会との接点（情報や知識、経験など）を持つべきではないでしょうか。 これまでの「正解」を導く教育ではなく、物事の「探求」に力点を置いた教育を更に目指しましょう。	1	県立高校は、生徒が豊かで幸せな人生を送るとともに持続的に発展する社会の創り手となれるよう、予測が困難な社会の変化に対応できる力を育成してまいります。 新しい時代に求められる資質・能力を育成する教育の推進に向け、教科等横断的な学びや探究的な学びの充実を図っていきます。 また、学びを人生や社会に生かす力を育むとともに、一人一人の多様な可能性を伸ばす教育を推進してまいります。 頂いた御意見を踏まえ、教育活動の充実に取り組んでまいります。	C
40	19	第3章1 確かな学力の育成 (2) グローバル化や技術革新に対応した教育の推進に「我が国の伝統と文化、歴史や地理に対する理解を深め、我が国に対する誇りを育む教育を推進します。」とあるが、その一つの施策として「普通科のみ学区制に戻すことを検討」を記載した方が良い。 高校受験の際、受験生は東京に近い方だったり街が発展している方の高校を好む傾向があります。心理としてはよく分かりますが、その先は東京一極集中につながる文脈だと思います。地域が疲弊したり、地域に貢献する人材育成の観点から県立学校の普通科に関しては学区制に戻すことを提案します。学区制がなくなり20年程でしょうか。メリットデメリットは時代に応じて変わるとは思いますが、人口減少の中で地域疲弊の観点から戻すことも十分理解が得られると思います。 現代の問題、不登校や中退、孤独、格差など対策する上で地域のつながり（社会関係資本）が土台となります。また、人口流出を防ぐ意味でも地域のつながりはとても有効です。教育の面からの地域貢献という視点で御検討をお願いいたします。	1	本県では、平成16年度入試から、生徒が自らの意志と責任において自由に学校を選択できるよう、通学区域を廃止し、居住地にかかわらず自分の希望する高校に志願できるようになっています。 全県一区は維持していきますが、各県立高校が相互に切磋琢磨（せつさたくま）して、地元自治体とも連携して特色化を図り、県民の方々の期待に応える地域に根ざした学校づくりを進めてまいります。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
41	19,20, 24	少子化が続き、小・中の統廃合から県立高等学校統廃合は必然である。県立高校は地元の生徒が多い、授業料が安いがいずれ授業料は無償になる。このことを踏まえ魅力ある高校について提案する。 1 国際教育の推進 ・卒業までに単位として英検 3 級合格。 ・校歌を英語で歌う。 ・テーブルマナーの実習。 ・道徳としてレディーファーストを学び実践。レディーファーストは男子だけのマナーではない。女性も受けるマナーを学ぶ。 ・日本文化、お茶・華道を学ぶ。 ・外国人との交流。 ・夏休みのホームステイ。 ・学校の全ての掲示を英語併用にする。 2 国家試験（単位に認める） 学業やクラブ活動に差し支えない 4 0 時間位で習得できる国家試験を学校が紹介 3 地域のボランティア活動：地域の特徴を生かした活動 4 生徒の関心興味を伸ばす施設の設置 ・ブレイクダンスの場所設置 ・スケートボードの場所設置 追記：生徒から魅力的な県立高校について意見を聞く。	1	今後、更に生徒数が減少していく中で高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要であると考えております。 また、グローバル社会の進展に対応できる力を育成するなど、教育活動の充実を図ることは重要です。 これまでも、県立高校生を海外大学等へ派遣し、自国や外国の文化について英語でプレゼンテーションする機会を設けるとともに、環境問題などをテーマとしたフィールドワークや現地大学生との意見交換などを実施しています。 頂いた御意見は、今後魅力ある高校づくりを検討する際に参考とさせていただきます。	C
42	19	P19「(2)グローバル化や技術革新に対応した教育の推進」の施策として列挙される項目の中で「日本語指導が必要な生徒への支援」については、目的に対して適切な手段とはなっていない。本項の目的は「グローバル化や技術革新に対応」することであって、「日本語教育」をここに入れ込むのは不適切であり記載から削除されるべき。	1	グローバル化の進展に伴い、県立高校においても日本語指導が必要な生徒が増加しています。グローバル化に対応した教育を推進する取組の一つとして、そうした生徒が日本で安心して生活していくため、教育において適切な配慮を行うことが重要であると考えております。	D
43	20	p.20「2 豊かな心と健やかな体の育成」 LGBTQに関する教育の充実はありません。行き過ぎたLGBTQの考え方が多すぎてむしろ子供たちへ悪影響となっています。子供の権利を守る為にもLGBTQに関する教育の介入は反対します。	1	全ての生徒が安心感、充実感を得て、有意義な学校生活を送ることが重要であると考えております。学校生活に不安を抱える L G B T Q の生徒が安心して過ごせるよう、生徒及び教職員の、性の多様性の尊重に関する正しい理解を深めるとともに、生徒の心情等に配慮した対応を進めてまいります。	D
44	20,25	P25 6「共学化推進」の項目全体を削除すべきである。以下に理由を記載する。 既に9割以上の高等学校が共学校である現状において、少数派を排除することを是とすることが、教育方針として許されるのか。魅力ある県立高校づくりの再編整備と共学化推進は別の議論であり、方針として共学化推進を第3章の6に入れるのはおかしい。 埼玉県5か年計画では、「針路 5 未来を創る子供たちの育成」に多様なニーズに対応した教育の推進とある。教育局の共学化推進方針は、別学校を望む生徒を取り残すこととなり埼玉県の目指している理念に反している。 P20「2 豊かな心と健やかな体の育成」において「子ども・若者基本条例」について触れている。教育局の共学化推進行為は、本条例に反するため「共学化推進」の項目全体を削除すべきである。 県立高校の特色化に向けたアンケートや、埼玉県立の男女別学校に関するアンケート、意見聴取の結果から、県民の意見に反しているため「共学化の推進」の項目全体を削除すべきである。 勧告書に関する記載が正確ではないため、勧告書の修正の経緯についても明記すべきである。 県民の意見が反映されないまま方針が策定されることを疑問に思うので、強く修正を求める。	1	県教育委員会としては、県男女共同参画苦情処理委員からの勧告は、埼玉県男女共同参画推進条例に基づき、県男女共同参画苦情処理委員が当該苦情について調査した結果、勧告の必要があると認めてなされたものと受け止めており、措置報告書はその措置状況を報告したものです。 「教育ニーズの多様化」については、学校生活上の困難を抱えている生徒や家庭の経済状況が困難な生徒など様々な背景を持つ生徒への支援など、教育をめぐるニーズの多様化のほか、社会の変化に応じて県立高校に求められる学びの内容が多様化していることも含めて認識しています。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、学科改編や学校の統合など再編整備は、今後更に生徒数が減少していく中で、一定の学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図るために必要があると考え、実施しようとするものです。共学化の推進については、「第3章 県立高校における教育活動・教育環境」に記載しており、「第4章 県立高校の再編整備」には記載しておりません。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
45	20	p.20・人権は大事ですが、優遇やほかの人権侵害（多数派の冷遇など）を生み出さないよう配慮お願いいたします。また、法律に基づいた対応をお願いします。例えば、違法行為を指摘することを「差別だ」と言わないようお願いします。 ・「北朝鮮当局による拉致問題」といった人権課題に対応することに賛同いたします。 ・「いじめなどの重大事態」に対して、関係法令等に基づく対応」に賛同いたします。重大事態は減少傾向と推察しますが、根絶は難しいと思います。被害者の人権を第一に考慮お願いいたします。 ・法治主義に則った教育をお願いいたします。道徳教育においては、感情や主観によらず、法律と事実に基づいて教育するよう配慮お願いいたします。 ・道徳教育において「規律」は大事だと思います。ただし、過剰な同調圧力を生まないよう配慮お願いいたします。同調圧力によって、個人の自由、思考、人権を縛らないよう、配慮お願いいたします。 ・『「彩の国の道徳」を活用した授業』とのことですが、コンプライアンス意識が高まり、規範意識は向上していると感じています。特に、最近の子供や若者は、規範意識や公德心が高く感じしております。子供たちの良いところを認めて、子供たちがのびのびと成長できるよう、配慮をお願いいたします。	1	一人一人が他者を理解・尊重し、他者を価値のある存在として尊重する豊かな人間性を育む教育は重要と考えております。そのため、埼玉県人権教育実施方針に基づき様々な人権課題に対応した教育や道徳教育の充実を図ってまいります。 頂いた御意見は今後事業を進める上で参考とさせていただきます。	C
46	20	SNSの利用時の差別的投稿防止に向け、更なる取組を。 SNS上の各種の差別的投稿により万一個人が特定・公表されれば将来の禍根となり得ます。またこういった在校生の行動により高校の名誉も棄損される。これを防止する人道的見地からの生徒参加型のプログラムが欲しい。	1	一人一人が他者を理解・尊重し、幸せや生きがいを感じられる共生社会を実現するため、他者を価値のある存在として尊重する豊かな人間性と、社会の課題を協働して解決する社会性を育む教育は重要と考えております。 道徳教育の充実や、情報モラルに関する学びなどの充実を図ってまいります。 また、県では、参加体験型の学習を通して人権感覚を身に付ける「人権感覚育成プログラム」の活用を各学校に促しております。プログラムの中には、体験を通してSNSを利用する際のルールやマナーを身に付けることのできるものもあります。引き続き、当プログラムの活用を各学校に働き掛けてまいります。	B
47	20	伝統校における校歌指導の実態の正式な調査の実施と、必要があれば改善を。	1	県立高校に対しては、校歌指導に関する調査を実施し、不適切と思われる指導があった場合には報告を求めています。令和7年度に向けて、学校長に対して注意喚起を行うとともに、不適切と思われる報告があった場合には、改善を求めています。	C
48	20	人権教育は必要だが現状で十分と考えるため、人権教育の充実を図るよりも通常の教科の学習を充実させ学力向上へ充てるべき。	1	他者を理解・尊重し、幸せや生きがいを感じられる社会を実現するため、他者を価値のある存在として尊重する豊かな人間性と、社会の課題を協働して解決する社会性を育む教育を推進することは重要であると考えています。「埼玉県人権教育実施方針」に基づき、様々な人権課題に対応した教育の充実を図ってまいります。 また、確かな学力の育成に向け、協調学習やICTを効果的に活用した授業改善の推進など、教科の学習についても充実に取り組んでまいります。	D
49	20,23	県立高校は、管理的体質を改め、人権が守られ、生徒も教員もストレスの少ない、楽しい学校を作るべきである。	1	子供の権利や最善の利益を擁護する取組を推進するため、「児童の権利に関する条約」や「子ども基本法」「埼玉県こども・若者基本条例」について生徒や教員の理解促進を図ります。 また、「学校における働き方改革基本方針」に基づき、教職員の働きやすい環境づくりを進めてまいります。	C
50	20	LGBTQ+の教育介入の排除を望みます。	1	全ての生徒が安心感、充実感を得て、有意義な学校生活を送ることが重要であると考えております。学校生活に不安を抱えるLGBTQの生徒が安心して過ごせるよう、生徒及び教職員の、性の多様性の尊重に関する正しい理解を深めるとともに、生徒の心情等に配慮した対応を進めてまいります。	D
51	21	商業高校などに通わずとも、お金の流れや有効性を考える教育を取り入れていくべきだと感じる。	1	自立した消費者としての責任ある消費行動ができるよう、必要な知識や考える力を育成する消費者教育は重要だと考えております。 頂いた御意見を踏まえ、引き続き消費者教育を推進してまいります。	B
52	21	高校教育に政治や選挙への理解を深めるプログラムを導入してほしい。 埼玉県は全国でも特に選挙の投票率が低く、多くの人が選挙や政治に関心を持っていません。これからの日本を担う高校生こそ政治に関わっていく必要があります。	1	政治の仕組みについて必要な知識の習得のみならず、主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一員として主体的に担う力を育む主権者教育は重要だと考えております。 頂いた御意見を踏まえ、引き続き主権者教育を推進してまいります。	B

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
53	21	共学化されるまでの間、別学校における異性の適正な理解のための更なる教育プログラムの導入を望む。	1	全ての高校において、生徒が性に関して正しく理解し、適切に行動できるようにすることが必要であると考えております。 頂いた御意見を踏まえ、引き続き生徒の心と体のバランスに配慮した性に関する指導を進めてまいります。	B
54	21	どのような考えの人が生徒にどのような話をするか不明のため、地域市民や企業、NPOとの連携とあるが削除すべき。	1	地域、企業等の関係機関と連携・協働した教育活動を充実することは、生徒の勤労観や職業観、コミュニケーション能力、社会の一員として地域課題等を解決しようとする姿勢や意欲など、学びを人生や社会に生かすために必要となる資質・能力の育成につながるものと考えております。 充実した教育活動につながるよう、地域、企業等との連携を推進してまいります。	D
55	22,26	多様な教育ニーズに応えていくために、教育課程の特色化・弾力化を推進し、多様なニーズに対応した新しい学校を作ることが必要だと考えている。今回の方針では、その役割を定時制や通信制に求めているとのことだが、保護者の中には、全日制普通科へのご代わりは強いため、全日制と特別支援学校の間の学校、今回のアンケートでも中学生が「一番高校で勉強したいこと」にあげていた『基礎基本を確実に身につける』ことに重点を置いた全日制普通科の新設も是非検討していただきたい。 1 クラス20人前後で、教員や養護教諭の定数を増やし、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールロイヤーなど、多種多様な手厚い支援の環境が不可欠である。これについてはコストが掛かるものであるが、このような困難を抱えた生徒たちを支えることは、その後ろにある家庭を支援することであり、その結果、社会を担う納税者となれたなら、将来的にそのコストは回収できると考える。子供の数が少なくなっていく今だからこそ、少人数で手厚い公立の全日制高校の新設が、県民のニーズに応えるものであると考えている。	1	社会が変化し、多様な課題が生じている中で、各教科等の学びを基盤としつつ様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく学びが求められます。 このため、普通科においても教育課程の特色化・弾力化を推進するとともに、教科等横断的な学びや探究活動などを通じた実践的な学びを推進します。 また、将来の農業・工業・商業などの産業を支える人材を育成するため、実践的で高度な専門的知識・技能の習得を図る専門学科は重要だと考えております。普通科、専門学科、総合学科それぞれの学びの充実に取り組み、生徒の希望する進路の実現に向け多様な学習機会の充実に努めてまいります。 全ての生徒が安心感、充実感を得て、有意義な学校生活を送ることができるよう、多様なニーズに対応した教育の推進が求められています。これまでも、各学校の状況に応じた教育相談体制の充実や基礎学力を身に付ける個別の学習支援などの取組を推進してきたところです。 社会で生きていくために必要となる力を育成するため、生徒一人一人の多様な可能性を伸ばしていくことが重要だと考えております。 頂いた御意見も参考にしながら、引き続き魅力ある県立高校づくりに努めてまいります。 学級編制の標準が「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に40人と定められている中で、県単独での少人数学級の実施は難しいと考えます。 新たな定数改善計画策定及び教職員配置基準の見直しなどについて、国に働き掛けてまいります。	D
56	22,25	「4 多様なニーズに対応した教育の推進」に、埼玉県男女共同参画苦情処理員への措置報告書の内容を踏まえ、「男女共学校、男女別学校に対する多様なニーズ」を踏まえた教育の推進を進めることを明記すべき。 「県立高校の特色化に向けたアンケート」結果の概要によると、県立高校の設置割合「共学校91%、別学校9%」に比しても明らかに別学に対するニーズが相当程度あることを示しているだけでなくむしろ、別学を希望するニーズを十分に満たしていない可能性を示している。 以上を踏まえ、多様なニーズや価値観を重視する観点からも、「男女別学」は堅持すべきであり、「6 共学化の推進」については、項目全体を削除すべき。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 「県立高校の特色化に向けたアンケート」の高校選びの観点については、高校を選ぶ際に様々な観点がある中で、中学生・高校生や保護者がどのようなことを重視しているかを伺いました。学科・コースや通学の便利さ、授業以外の活動内容など、複数ある高校選びの観点の一つとして、共学又は別学であることについて意識している方の割合を把握できたものと理解しています。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
57	22	障がいを持った生徒を分ける方針を転換し、インクルーシブな学校づくりを目指すこと 1961年の文部省（当時）通知「文部省広報資料18『我が国の特殊教育』」にあるように、健常者の教育を守るために行っている「障がい者」と「健常者」を分けて行う分離教育は「障がい者」に対する差別です。我々は一貫して、分け隔てられることなく普通学級で共に学ぶ教育への方針転換を行うよう訴えてきました。 統廃合計画を推進する上で、進学を希望する「障がい者」を受け入れることを前提に計画を立て、インクルーシブな教育を実現し、生徒を分けない学校づくりを目指していただきたい。	1	障害のある子供と障害のない子供が可能な限り共に学ぶ、インクルーシブ教育システムの理念は、共生社会の実現に向けて目指すべき大変重要な視点であると考えます。このインクルーシブ教育システムの構築の視点に立った特別支援教育の推進に当たり、障害のある子供と障害のない子供が可能な限り共に学ぶための条件整備をはじめ、発達障害を含む障害のある子供一人一人の教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できるよう、連続性のある多様な学びの場の整備を進めることなどが大事であると考えます。県立高校では、高校内に特別支援学校の高等部分校を設置し、合同で体育祭等の学校行事を行うなどの取組を進めています。引き続き、通級による指導の導入を推進するとともに、教育活動における合理的配慮の提供を推進するほか、障害のある生徒と障害のない生徒の相互理解の促進に向け、交流及び共同学習の実施を推進してまいります。	C

番号	該当ページ	御意見の概要	意見数	県の考え方	反映状況
58	22	「不登校」の生徒に対して、オンライン授業を活用できないでしょうか。	1	令和6年2月に文部科学省から通知された「高等学校における多様な学習ニーズに対応した柔軟で質の高い学びの実現について」に基づき、学習意欲はありながら登校できない生徒に対して、不登校状態の深刻化や安易な単位認定、ほかの生徒の学習意欲の低下等の弊害が生じないよう留意し、生徒個別の状況に応じて、学習機会を確保するための遠隔授業を行っております。	B
59	22	方針案の中で、不登校や退学の生徒数についてもしっかり「案」で示されています。ここでそれぞれの高校で不登校や退学の生徒についての対応についてはありますが、トータルで何が原因か理由かを把握して全体的な対応策の策定ができていのか気がなります。高校の先生に本当のことは言えなくとも県又はその委託を受けた第三者機関で聞き取ることは出来るのではないのでしょうか。それを基に今後の方針の有用な情報となるのではないかと思います。	1	不登校や中途退学の要因や傾向については、国の調査等を基に把握に努めており、その結果を分析した上で本県の対応策の策定を行っております。 このほか、個別具体的な事案については、各学校にスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置するとともに、学校外の相談窓口として電話相談・SNS相談を実施することで対応しており、これらの相談窓口が集まった相談の傾向等を分析することで、全体の不登校生徒支援・中途退学防止策の検討にもつなげております。	B
60	22,25	p.25共学化の推進に反対します。 共学化の推進は、そもそも別学であることで育まれてきた別学校の魅力を喪失させるものであり、「魅力ある県立高校づくり」という方針とは本質的に相いれないと考えます。埼玉県には多数の魅力ある共学校が存在しており、少数の別学校を共学にしなければならない理由が見つかりません。「多様なニーズに対応した教育の推進」にも逆行するものとなります。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D
61	22	留学同様に、妊娠・出産による休校の環境整備と周知を。 高校生の性行為・妊娠を推奨するわけではありませんが、高校生で妊娠し出産を希望する生徒について、なるべく在籍校で卒業できるよう環境を整えてください。	1	生徒が妊娠した場合には、関係者間で十分に話し合い、母体の保護を最優先としつつ、教育上必要な配慮を行うべきものであると考えており、必要に応じて休学することも可能です。 制度については、必要に応じて生徒及び保護者への周知に努めてまいります。	E
62	22	別学校だけではなく、共学校においても、これからの受験生にも分かりやすいよう、各校のトップホームページ上に、制服に女子のスラックスの写真を載せてほしい。	1	全ての県立学校において、スラックスを導入するなど制服選択に関する見直しを行った場合は、学校ホームページや学校案内への掲載などにより、在校生、中学生及び保護者等に周知することとしております。 引き続き、在校生、中学生及び保護者への適切な周知に努めてまいります。	C
63	22,25,26	・高校教育を全ての子供たちに豊かに保障していくため、生徒減を理由にした学校の統廃合は行うべきではありません。 ・生徒の居住地近くに通いやすい学校があることは、子供たちの学習権保障にとって必須です。 ・小規模校ほど子供たちに目が行き届く、子供たちに寄り添い丁寧な指導ができる、教職員集団のチームワークを発揮しやすい、それが学校現場の教職員の実感ではないでしょうか。小規模校を大切にすべきです。 ・少人数だからこそその利点を生かした学校づくりが行われており、そうした教育実践から学ぶ必要があり、大切にすべきです。 ・地域に高校がなくなるとことは、地域経済の衰退につながるおそれがあります。地域の活性化のためにこそ、学校の統廃合を行うべきではなく学校を残すべきです。 ・生徒数が減少するときだからこそ、35人以下学級、少人数学級を実現していくチャンスです。学校を減らすのではなく、今こそ教育予算を増額し、教職員の増員、少人数学級の実施、施設・設備の改善等を進めるべきです。 ・学校教育は豊かな人格の完成を目指し、全ての子供たちに等しく普通教育を保障するべきものです。社会に役立つ「人材の育成」にシフトするべきではありません。教育の目的はあくまでも「人材の育成」ではなく、「人格の完成」です。 ・「共学化」は進めるべき課題と考えますが、今回の統廃合の計画に関連させるべきではありません。独自課題として、関係者の合意形成を図りながら丁寧かつ早急に行うべきです。 ・「特別なニーズ」のある生徒が一定数在籍し、統廃合の結果、そうした子供たちの「行き場」が失われてしまいます。結果的に特別支援学校の高等部の生徒増につながり、特別支援学校の過密化が促進されるおそれがあります。 ・統廃合ではなく、「通級指導教室」の増設や、将来的な「特別支援学級」設置を検討するべきです。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 今後、具体的な再編整備校を検討する際には、周辺の高校の設置状況や交通の利便性など方針案に記載した「再編整備の観点」を踏まえ、総合的に検討することとしております。 学級編制の標準が「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に40人と定められている中で、県単独での35人以下学級の実施は難しいと考えます。 新たな定数改善計画策定及び教職員配置基準の見直しなどについて、国に働き掛けてまいります。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められます。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、全ての生徒が安心感、充実感を得て、有意義な学校生活を送ることができるよう、多様なニーズに対応した教育を推進することが重要であると考えております。障害による学習上又は生活上の困難のある生徒への通級による指導の導入を推進するとともに、教育活動における合理的配慮の提供を推進していきます。	D
64	22	p.22 4 多様なニーズに対応した教育の推進 様々な境遇の学生への理解は必要ですが、行き過ぎた多様性の尊重は、人を詮索し、個々を細分化するようになり、過剰に意識することによりかえってお互いの関係も崩れてしまうのではないかと考えます。普通に接することができるような適切な教育を望みます。	1	他者を理解・尊重し、誰もが幸せや生きがいを感じられる社会の実現に向けて、他者を価値ある存在として尊重する豊かな人間性を育むことは重要であると考えております。 頂いた御意見は今後の取組を推進する上で参考とさせていただきます。	C

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
65	22	習熟度別クラス及び男女別授業の導入 ・習熟度に応じて授業が行われるのであれば、近隣の高校に自分に合ったクラスができるので地元の高校を選択肢の一つにすることができる。 ・成長の度合いに性差があるとの報告もあることから、体育等の授業以外にも一部のコマで別学授業を行う。男女に全く同じ教育をした場合、分野によって片方の性の能力が伸びにくくなっていることはないのでしょうか。	1	性別にかかわらず、生徒の習熟度や希望などに応じて学べる環境の確保に努めてまいります。 頂いた御意見は今後事業を推進する上で参考とさせていただきます。	C
66	22	転学のハードルを下げる。 近年の状況は分からないが、学校に馴染めず、途中で退学する事例が多くあるのであれば大変残念である。環境が合わない学生へのサポートを充実してほしい。	1	全ての生徒が安心感、充実感を得て、有意義な学校生活を送ることができるよう、中途退学の防止に向けた取組など多様なニーズに対応した教育を推進することは重要と考えております。 頂いた御意見は今後の取組を進める上で参考とさせていただきます。	C
67	22,25	6「共学化推進」の項目全体を削除すべきである。 1. 少数派根絶のおそれ 埼玉県の公立高校のうち男女別学高校は12校で、少数派であるといえる。共学化を推進することによって、この少数派の根絶につながるおそれがある。P22第3章県立高校における教育活動・教育環境4 多様なニーズに対応した教育の推進にある「全ての生徒が安心感、充実感を得て有意義な学校生活を送ることができるよう、多様なニーズに対応した教育を推進します」にとても合致しているとはいえない。 2. 共学化推進の根拠がない 苦情処理委員会が勧告、県教育委員会が共学化を推進、と不可解な経緯は共学化ありきの議論であり到底容認できない。 3. 埼玉県こども・若者基本条例に違反している この基本条例は、子どもの多様な学びの選択肢を尊重することを掲げている。しかし、男女別学高校の共学化は、別学を希望する生徒にとつての選択肢を減らすことになる。この観点でも教育の多様なニーズや選択肢の確保が必要である。また、(第12条)「こども・若者等からの意見聴取及び意見反映」という規定がある。子供の意見を尊重し、施策に反映させることが求められている。令和6年4月から5月かけて県教育委員会が実施した男女別学高校に関する中学生、高校生、保護者向けのアンケートでは共学化反対、どちらでもいい（現状維持でも問題ないと解釈されるべき）の回答が合わせて多数を占め、意見が十分に考慮されているとはいえない。埼玉県が目指す男女別学高校の共学化を推進することは、この条例の基本理念と著しく矛盾している。 4. 「国立男女別学高校は女子差別撤廃条約違反ではない」(令和6年3月8日国会答弁書)という答弁が存在し、国立男女別高校は認められており、埼玉県にも設置は認められている 埼玉県が共学化をあえて推進し男女別学校を削減しなければいけない理由はない。県民の民意を確認していない状態で勝手に推進することは許されない。 5. 伝統を守る・男女別学校を埼玉県のレガシーとすべき 埼玉県の男女別学校の卒業生は多方面で国内外を問わず活躍しており、世の中に対する貢献度は計り知れない。伝統から培われた文化というべき男女別学校を共学化して壊すべきではない。むしろ埼玉県のレガシー・無形文化と捉えて保護すべきであると強く希望する。	1	高校の3年間を男女が互いに協力して学校生活を送ることは意義があると考えております。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たっては、県内在住又は在学の中学生及び高校生とその保護者の意見を把握するため、アンケートや意見聴取等を行いました。その中では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
68	22,25	方針案に「多様なニーズに対応した教育の推進」があります。ニーズの中に「男女別学校で学びたい」が必ずあるはず。「異性」を気にせず、自由に伸び伸び高校生活を送りたい。埼玉県の良き「伝統」である「男女別学」が揺らいでいますが、誠に「残念」です。 埼玉県の名門「男子校」の素晴らしい「伝統行事」を、「共学化」により失いたくありません。「男子共同参画」が全て「善」とは言えないと思います。「男女」がそれぞれ別々に「個性」に磨きをかけるのも大切ではないでしょうか。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D

番号	該当ページ	御意見の概要	意見数	県の考え方	反映状況
69	22,26	P22 障害のある生徒や不登校経験を有する生徒、日本語が十分にできない生徒、LGBTQの生徒、ヤングケアラーや家庭の経済状況が困難な生徒など、多様なニーズに対応した教育を推進するとしていますが、これらの生徒がまずは高校に受け入れられなければなりません。高校の再編（統廃合）を行えば定員枠が狭まり、逆に入りにくくなってしまいます。過去の統廃合で知的な障害のある生徒などの入学が難しくなり、受験も諦めて高等部に行かざるを得なくなり、そこで教室不足という事態も起こっています。高校生という重要な成長期に分離されるということは、全ての子供たちにとって社会で生きていく上でも非常にマイナスになります。再編により高校を減らすことをやめてください。 この方針案では多様な生徒が共に学ぶインクルーシブ教育の視点がありません。国連障害者権利委の総括所見ではあらゆる段階において、つまり高校においても、インクルーシブな教育を受けられるようにとされていますが、通級による指導や交流及び共同学習といった旧態依然とした内容でしかありません。様々な生徒が共に学ぶことで周囲の生徒が関わりを深めていくことが重要です。魅力ある高校ということであれば、もう一歩進めた方針を出すべきです。 今後の県立高校の方向性では、県立高校で育む資質・能力として様々な力の育成が挙げられています。社会の変化に対応するための高校の特色化が能力主義を強め分けていくことにつながるのではないかという懸念があります。一方「他者と協働する力」とか「社会の一員として地域課題等を解決しようとする姿勢や意欲」といったことも含まれていて、周囲や地域との関わりも重視しています。さらに、一人一人の多様な可能性を伸ばすということで、障害のある生徒、不登校経験を有する生徒、日本語が十分にできない生徒、ヤングケアラーやLGBTQの生徒などの支援も掲げています。そうであるならば、それぞれの生徒が育つ地域の高校で、丁寧に指導をしていくことが不可欠です。生徒数が少なくても、少ないからこそ、必要な教員を配置して充実した学校生活を送れることが望まれます。にもかかわらず高校数を減らしていくというのは逆ではないでしょうか。 この方針の策定趣旨や方向性などに対して、なぜ再編整備（統廃合）するのかの説明がありません。現在ある高校を減らすのではなく、地域の多様な生徒を受け入れて学べるようにすることで共生社会の形成にもつながっていくと考えます。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要と考えています。 障害のある子供と障害のない子供が可能な限り共に学ぶ、インクルーシブ教育システムの理念は、共生社会の実現に向けて目指すべき大変重要な視点であると考えます。このインクルーシブ教育システムの構築の視점에立った特別支援教育の推進に当たり、障害のある子供と障害のない子供が可能な限り共に学ぶための条件整備をはじめ、発達障害を含む障害のある子供一人一人の教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できるよう、連続性のある多様な学びの場の整備を進めることなどが大事であると考えます。引き続き、通級による指導の導入を推進するとともに、教育活動における合理的配慮の提供を推進するほか、障害のある生徒と障害のない生徒の相互理解の促進に向け、交流及び共同学習の実施を推進してまいります。	D
70	23,29	P29 専門学科に関して、「産業構造の変化やデジタル社会の進展など、社会の変化に対応した学科の設置を検討する」との記載がございました。この取組を進めるに当たり、専門職員の配置や現場の状況把握が重要であると考えます。加えて、現職員の業務に過度の負担がかからないよう配慮し、外部派遣による調査なども積極的に検討することが必要です。新たな学科変更が必要となる場合には、十分な準備と配慮をお願い申し上げます。 教育の質を一層向上させるためにも、何卒、各工業高校に配分される予算の増額を御検討いただけますようお願い申し上げます。	1	新たな学科変更が必要となる場合は、専門職員の配置状況など現場の情報を把握し、該当校の職員の業務に過度の負担が掛からぬよう、適切に配慮して進めてまいります。 また、教育環境の充実に向けて、必要な予算の確保に努めてまいります。	C
71	23	23ページ 第3章の5の（1）の「教職員の資質・能力の向上」について、説明会や社会人採用、研修を増やすのではなく、長期的な視点に立って優秀な若者が教員を目指したいと思えるような取組にしていかなければならないと考える。大変残念ながら、現在は生徒たちに積極的に推奨できる職種ではなくなりつつあるので、以下のような抜本的な改善を望む。 ・民間企業にならって給料や待遇を上げる ・人を増やして勤務時間内で終わらせることができる仕事量にする ・空調やトイレや休憩室などを整備し職場環境を快適にする（空調は県の費用で負担し、特別教室や準備室にもエアコンを設置する） ・部活動の顧問は希望制にして、土日祝日は普通に休めるようにする ・安心して産休、育休が取れるようにする ・教職員に支給するパソコンをもっと高性能なものにする（ICTや教育DXを高らかに掲げながら支給されるPCのスペックが低すぎる） ・観点別評価や自己評価シートや無意味な出張や研修など、無駄な仕事をやめる ・いじめや理不尽な保護者に対しては外部機関で対応する ・PTAや同窓会の仕事など本来の教員の職務ではないものはやらない ・教員の年齢層や男女のバランスを整える（長期的な視点で採用を行う） 上記のような具体的な対策を取らないと、優秀な学生ほどますます教員を目指すなくなるだろう。特に給与面について、20代でも分掌や学年の主任を務める優秀な教員がいる一方、50代であっても担任も主任を任せられない教員もいる。年功序列は維持しつつも、役職手当を増額して、たくさん働いている人にたくさん賃金が払われるようなシステムにしなければならない。	1	優秀な教員を確保するためにも、教職員が働きやすい環境づくりを進めることが重要であると考えております。 教職員の長時間勤務の縮減を図り、生徒と向き合う時間を確保するため、「学校における働き方改革基本方針」に基づき、教職員の働きやすい環境づくりに取り組んでまいります。 教職員の給料・手当については、人事委員会の勧告に基づき、対応してまいります。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
72	23	(案) 策定の趣旨については、書かれているとおりだと思いますが、この(案)を、誰がどのように推進・実行していくのかという点について、気になることがあります。 激務の改善、働き方改革もまだまだ道半ばと思われる今、ただでさえ長時間労働の教員に、(案)の推進・実行のための研修時間は取れるのか。生徒たちに具体的にどう展開するのか。負担が更に増すのではないかと心配です。この不安を払拭するのに、P.23の記載の内容だけでは非常に心もとない。そこを教育委員会はどうサポートしていくつもりなのでしょうか。 前回の(平成28年度策定の)「魅力ある県立学校づくりの方針」に対し、リアルに現場で取り組んできた教職員(校長等の管理職ばかりではなく)はどのような評価をしているのか、教育委員会は把握しているのでしょうか。 教育委員会には、ぜひ、現場の声を聞いていただきたいと思います。	1	学校における教育活動の質を高めるには、教職員が働きやすい環境づくりを進めることが重要です。教職員の長時間勤務の縮減を図り、生徒と向き合う時間を確保するため、「学校における働き方改革基本方針」に基づき、教職員の働きやすい環境づくりに取り組んでまいります。また、保護者や地域住民等に御協力を頂きながら、地域と共に生徒の成長を支える体制づくりを進めてまいります。 方針案に記載する取組の実現に必要な予算の充実・確保に努めるとともに、国に対しても、教育予算の拡充や教職員定数の改善等について、積極的に働き掛けてまいります。 方針改定の検討に向けて、「魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議」を設置し、現場の教員をはじめ大学教授や企業・商工会などの産業関係者、保護者、義務教育関係者、県立高校の校長などから、今後の県立高校の魅力づくりについて幅広い御意見をお聞きました。	C
73	23	県立高校を減らしてできた増益は、どのように使われるのでしょうか。県民に分かるように試算を発表してください。 校数を減らすだけでなく、少人数クラスにする等、教員の負担を減らし、働きやすい職場づくりを行って欲しい。 働きやすければ希望者が増え、教員のレベルも上がります。自然に、子ども達のレベルも上がるのではないのでしょうか。	1	今後、更に生徒数が減少していく中で、生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、一定の学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要であると考えております。 教員が働きやすい環境づくりを推進することは重要だと考えており、頂いた御意見は今後事業を推進する上で参考とさせていただきます。	D
74	23	【第3章第5節】から「教育環境の充実」について 23頁の第1項「教職員の資質・能力の向上」でいう「優秀な人材」とはどういう人材か。現場における生徒らに対する教科指導、生徒指導、部活指導、委員会指導、HR運営などなど、総合的に見て多様な職務がある中で、「優秀な人材」だから全ての職務にオールマイティーとはいき切れない。また、倍率は近年低下してしまっている。低倍率化している遠因の対策を十分にせず人材確保策として、「社会人採用」や「大学3年生チャレンジ選考」を考案するというのはびくびくしてしかないように思われる。教員は現場での経験を積み重ねて行こうやく一人前に育てていくものだろう。むしろ経験と研修とを積み重ねていく教員として「優秀な人材」になると見るべきだろう。そのような時に常勤と共に現場で働いている、将来は正規教員を志望する「臨時的任用教員」の存在に注目するべきではないか。「臨時的任用教員」は学校現場における経験を積んでおり、まさしく貴重な即戦力たる「優秀な人材」たるものではなからうか。23頁の第2項「学校運営の改善・充実」では「教職員が働きやすい環境づくりを推進」と述べられている。しかし、その方策として具体性を持った提案というものは何もない。「長時間勤務」の元凶は仕事量の多さであろう。勤務時間内で消化しきれないからあえて残業し、または家に持ち帰って土日に関係なくその仕事を消化する。教員の置かれている特殊性はそこにある。それを改善するに、クラスの生徒数を減らしてクラス数を増やし、その分、教員の数を増やしていくという方策が一つの有効な方策と考えられる。	1	教員採用選考試験では、臨時的任用教員を対象とした特別選考を実施しています。今後とも、臨時的任用教員の経験や実績により培われた専門的能力や資質を面接試験等の中で評価してまいります。 学級編制の標準が「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に40人と定められている中で、県単独での少人数学級の実施は難しいと考えます。 新たな定数改善計画策定及び教職員配置基準の見直しなどについて、国に働き掛けてまいります。 また、「学校における働き方改革基本方針」に基づき、教職員の働きやすい環境づくりを進めてまいります。	D
75	23	p.23 5 教育環境の充実 (1) 教職員の資質・能力の向上 (2) 学校運営の改善・充実 教職員の方々に余裕を持っていただくには、教員一人当たりの学生数を少なくすることが必要なので、一人当たりの人数が増えてしまわないよう、統廃合の計画も含め、多角的に進めていただくようお願いします。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。再編整備については全県を俯瞰(ふかん)しながら「再編整備の観点」を踏まえ総合的に検討してまいります。 学校における教育活動の質を高めるため、教職員が働きやすい環境づくりを推進することは重要であると考えております。 新たな定数改善計画策定及び教職員配置基準の見直しなどについて、国に働き掛けてまいります。	D
76	23	教員の受け持つ授業を12時間にして、十分な教材準備と生徒への対応ができるようにしてください。	1	学校における教育活動の質を高めるため、教職員が働きやすい環境づくりを推進することは重要であると考えております。新たな定数改善計画策定及び教職員配置基準の見直しなどについて、国に働き掛けてまいります。	D
77	23	教員の未配置、未補充を無くしてください。	1	教員の未配置・未補充は喫緊の課題と認識しております。 教員免許を所持しながらも教壇に立った経験がない方を対象とした説明会を開催し、臨時的任用教員や非常勤講師の確保に努めてまいります。	B

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
78	24	p.24「3 施設・設備の整備」 エアコン費用の補助について、うちの高校は生徒から冷暖房費が引かれている状態です。学校側で不正に使うことのないよう各学校長へ周知を徹底し、明細を教育委員会へ提出することを義務付け教育委員会が会計を確認するべきです。また、全ての教室にエアコンが設置されていないのが現状です。(体育館も)昨今、夏は毎日38度になる温暖化です。熱中症で体調を崩す生徒もいますので早急な対応をお願いします。	1	県では、県立学校の普通教室の空調設備について、令和6年度から公費で更新することとしており、更新を進める間、空調設備を設置していただいているPTA等の団体に対し、空調設置費及び維持管理費に係る補助金を交付しております。 本補助金は保護者負担の軽減を図ることを目的としており、県が各団体に対して、補助金の受入れ及び保護者負担の軽減方法について、構成員に対して十分に説明が行われるよう依頼しております。 なお、本補助金については、各団体による支出の内容が分かる資料を県が確認しております。 また、全教室及び体育館へのエアコン設置については、多額の予算が掛かり、財源の見通しを立てていく必要があります。直ちに実施することは困難ですが、学校の安全で快適な環境を確保できるよう努めてまいります。	C
79	24	コミュニティスクールの拡充に力を入れてください。案p24にコミュニティスクールの推進とありますが県立高校131校中9校というのはとても少ない印象です（神奈川県は全県立高校がCS）。数値目標がいいとは思いませんが何らかの目標の記述が欲しいです。 現時点で高校の魅力は地域に伝わっていません。魅力ある県立高校づくり、ならば、特別なことをすることだけでなく、まずその魅力を知ってもらえる環境を作ることが大事だと思います。そのために地域住民が高校について話し合い、地域に広めるコミュニティスクールは有効であり土台だと思います。是非拡充をしてください。	1	県立高校の魅力を地域の方々に理解していただくためにも、目指すべき教育のビジョン等を保護者や地域と共有し、目標の実現に向けて共に協働していく仕組みであるコミュニティ・スクールの導入は有益であると考えております。高校は小・中学校と比べて通学区域が広域であり学校を取り巻く地域の期待などが様々であるなど、導入に当たり調整すべき課題もありますが、引き続きコミュニティ・スクールの導入を推進してまいります。	C
80	24	県立高校の特色化に向けたアンケート結果の概要によると、「施設・設備の状況」に対する関心が非常に高い。実習棟や各種実習設備の老朽化、設備の未更新が進んでいる状況。加えて、実習室および職員の管理室等には空調設備が整備されていない。早急な対応をぜひご検討いただきたい。	1	実習棟及び教職員の管理室等へのエアコン設置については、多額の予算が必要となります。エアコン設置については財源の見通しを立てていく必要があり、直ちに実施することは困難です。学校の安全で快適な環境を確保できるよう努めてまいります。	C
81	24,25	・100年の歴史と伝統を持つ別学校の存続こそ、埼玉県らしさ、他県とは違う特色であり魅力であると考えます。伝統の灯を消すことは、魅力ある学校づくりとは正反対のことだと思います。 ・共学化によるトイレ等の施設改修より、老朽化した冷房設備の更新こそ急務であると考えます。故障したまま予算がつかず、更新してもらえないエアコンが幾つもあります。教育環境を整えることこそ必要な施策です。 ・苦情申請、苦情処理委員の勧告の記載だけでなく、聞き取りを行った現役の生徒や保護者、同窓会等の意見に対する見解も記載してください。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。 また、教育環境の充実に向けて、必要な予算の確保に努めてまいります。	D
82	24	P24 県立高校（特に女子校）は老朽化した設備、施設が多く、私学に比べ魅力ある学校の価値を下げている。緊急に点検を実施し、予算の優先的配分を要求し、早急に進めるべきという趣旨を明記してほしい。	1	県立高校では、定期的に施設・設備点検を実施しております。 学校の安全で快適な学習環境の整備を進めるために、必要な予算の確保に努めてまいります。	C

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
83	24,25	第3章中「6 共学化の推進」を削除してください。県民の「個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢」の一つとして、県立の別学高校を今後とも存続させ、発展させることを強く要望します。 (理由) ・埼玉県男女共同参画苦情処理委員の勧告書に対する措置報告書については、①結論部分、②取りまとめのプロセス、③内容、取りまとめプロセス双方に重大な問題をはらみながら、埼玉県議会において県民の代表者による十分な議論が尽くされていない、また埼玉県教育委員会は報告書の説明責任を果たしていないことから、問題があると考えます。 ・方針案において、県民にとって納得性を欠いたままの報告書を引用し、「この報告で示したとおりに推進していくこととします」との一方的な方針表明は、今後の埼玉県立高校の方向性を示すもの（第1章「1策定の趣旨」参照）とされる、本方針（案）の性格にそぐわないものであり、広汎な県民のコンセンサス形成の基軸とするにふさわしくないと考えます。 ・その一方で、埼玉県男女共同参画苦情処理委員の勧告書でも、また、報告書でも、相当の記述量を費やした「県立高校の女性管理職及び女性教職員の割合（の格差解消）」に関しては、方針案では、第3章（「5 教育環境の充実」において教職員につき取り上げている。）を始め一切記述が見られません。共学化推進という方針を宣言するただけに報告書を利用し、出発点だったはずの男女共同参画を始めとする人権問題を等閑視していることの証左として、指摘します。	1	県教育委員会としては、県男女共同参画苦情処理委員からの勧告は、埼玉県男女共同参画推進条例に基づき、県男女共同参画苦情処理委員が当該苦情について調査した結果、勧告の必要があると認めてなされたものと受け止めており、措置報告書はその措置状況を報告したものです。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、県立高校の女性管理職及び女性教職員の割合について、県立高校全体として女性管理職を増やすとともに、特に男子校における女性管理職について、女子校や男女共学校との均衡を図ってまいります。また、男子校の女性教職員の割合、特に女性教員の割合について、男女共同参画を推進する観点から、学校間の均衡に努めてまいります。	D
84	24,25	県立高校の共学化に反対します。貴案中の「共学化の推進」は、昨今の大きな流れである「公立高校弱体化」の一環であり、埼玉においては共学化こそ弱体化の特効薬です。現在（2025年2月）、国政レベルで取り沙汰されている「高校無償化」は、大阪、東京という先行例を見るまでもなく、私学への追い風です。無償化実施に至っていない埼玉でも、私学には既に大量の税金が投入され、新設、定員増、高学力層の獲得、中学からの生徒の囲い込み等により、私学は生き残りを図っています。片や県立は、普通科定員を減らして高学力層を私学にプレゼントし、学校数削減で支援の必要な生徒の行き場をなくし、県立中高一貫校を増やして受験熱の低年齢化を招き受験産業を喜ばせ、教育を市場化させようとしています。埼玉で人気のある県立別学校をなくすことは、この流れを加速させます。県立高校に投資をして私学を追い込むくらいでやっとバランスが取れるのに、このままでは私学に利益誘導をしているようなものです。県教委が今やるべきことは、「公立高校弱体化」から埼玉を守り、県民を安心させることです。案から「共学化の推進」を削除し、県立高校に大胆に予算を投じて施設・設備を充実させる方策を盛り込んでください。県民が「やはり埼玉は公立王国だ。選択肢も豊富にある。」と言って県立高校を選ぶようにすることこそ「魅力ある県立高校づくり」です。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県内中学校等卒業生の全日制高校進学者数における県公立高校と私立高校の収容割合については、毎年度、埼玉県公立高等学校協議会を開催し、確認を行っております。公立高校と私立高校がお互いに切磋琢磨（せつさたくま）しながら、本県の高校教育を発展させることが重要であると考えております。 また、教育環境の充実に向けて、必要な予算の確保に努めてまいります。	D
85	24	生徒・教職員・事務員にとって、保健室が相談しやすい外見を備えているかを定期的に確認し、問題があれば改善してほしい。生徒でも成人でも誰かを頼ってもよいと手を差し伸べる役目が保健室にはあると思う。	1	学校における保健室の役割は、健康診断、健康相談、保健指導、救急処置など学校保健の中核的役割を担っています。各学校では、生徒や教職員にとって相談しやすい体制づくりや、プライバシーや心情に配慮した設備の整備に努めています。 頂いた御意見は、今後の取組の参考とさせていただきます。	C
86	24	通常の清掃時に制服がジャージでするかを一律に決めるのではなく生徒個人個人に決めさせるか、清掃時などに男女別に着替えられる環境を整えてはいかがでしょうか。	1	県立高校では、生徒の更衣については、既存の更衣室や空き教室等を活用し、原則、男女別に実施しています。 頂いた御意見は今後の取組を推進する上で参考とさせていただきます。	C
87	24	洋式トイレへ移行を。和式と洋式と選べる場合、女子生徒はほとんど和式を使わないようです。	1	県立高校の適正な維持管理の実施とともに、学校の安全で快適な学習環境の整備は重要であると考えております。 洋式トイレへの移行については計画的に進めていきます。	B
88	24	新校舎建設の場合、校舎が窓の大きさや数やひさしの有無など、暖房・冷房が効きやすい構造にしてほしい。	1	県立高校の適正な維持管理の実施とともに、学校の安全で快適な学習環境の整備は重要であると考えております。 頂いた御意見は今後の取組を推進する上で参考とさせていただきます。	C
89	24	パソコン、運動着など持ち物が増えてるので大きめの個人ロッカーが欲しい。	1	県立高校の適正な維持管理の実施とともに、学校の安全で快適な学習環境の整備は重要であると考えております。 頂いた御意見は今後の取組を推進する上で参考とさせていただきます。	C

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
90	24	先生方が過ごしやすい環境を整える。職員室、職員室トイレ、事務室。宿直室。体育の先生の更衣室など。	1	学校における教育活動の質を高めるため、教職員が働きやすい環境づくりを進めることが重要だと考えております。 頂いた御意見は今後の取組を推進する上で参考とさせていただきます。	C
91	24	数年ごとの樹木の手入れを。毎年は無理でも、せめて５年に一度は剪（せん）定してほしい。	1	県立高校の適正な維持管理の実施とともに、学校の安全で快適な学習環境の整備は重要であると考えております。 樹木剪（せん）定が計画的に実施できるよう、必要な予算の確保に努めてまいります。	B
92	24	学校備品の適切な管理・処分を。	1	県立高校の適正な維持管理の実施とともに、学校の安全で快適な学習環境の整備は重要であると考えております。 学校備品の管理・処分が適切に行われるよう努めてまいります。	B
93	24	空き教室の地域利用。少子化で学校の教室が余る可能性があるので、空き教室の活用を考えてほしい。	1	施設・設備を効率的かつ効果的に活用し、地域に開かれた学校づくりを進めることは、生徒たちの教育環境を豊かにする効果もあると考えております。 頂いた御意見は、今後魅力ある県立高校をつくる際に参考とさせていただきます。	C
94	24,25	生徒を含む県民の声を反映していないため、P25の共学化推進方針は全文削除すべきである。男女別学も選択できるのは、埼玉県が誇れる魅力だと常々思っています。定員超えの希望者がいる学校なのに、何故なくしてしまうのか。理由が理解できず、別学校を目指し頑張っている子供の心が傷ついています。共学化するのではなく、それよりも頑張っている別学の維持と、エアコンのない部屋で夏は熱中症になり危険な現状、冬はしもやけを作りながらも過酷な環境の中で頑張っている生徒たちへ、より一層の施設の充実を、切に希望致します。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 県立高校の適正な維持管理の実施とともに、学校の安全で快適な教育環境の整備に努めてまいります。	D
95	24	p24 先延ばしにしてきた大規模修繕を大胆に推進し魅力を高めるべき。大規模修繕の全校の改修スケジュール提示を。	1	大規模改修は建築後概ね３０年を経過した校舎について実施しているほか、その間も中間改修として防水対策工事、設備改修工事などを実施しております。頂いた御意見を参考に県立高校の適正な維持管理の実施や、学校の安全で快適な学習環境の整備に努めてまいります。	C
96	24	p.24 ５ 教育環境の充実 （３） 施設・設備の整備 現在、国会では教育無償化の議論が活発となっていますが、ハードウェアへの対応は自治体で行うしかありません。公立高校への予算割り当てが厳しいことは分かりますが、老朽化への手当ては、私学に及ばないまでも十分な対応をお願いします。	1	県立高校の適正な維持管理の実施とともに、学校の安全で快適な学習環境の整備は重要であると考えており、計画的に施設等の改修を進めてまいります。 教育環境の充実に向けて、必要な予算の確保に努めてまいります。	B
97	25	「将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められる。」「一人一人の状況に応じたきめ細かな支援に取り組みます。」と記載されている一方で、「女子校」「男子校」で学びたい学生の気持ちには配慮せず「共学化を推進していく」ことに疑問を感じます。このことから、第３章の６「共学化の推進」は削除するべきだと思います。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
98	25	男子校・女子校は人気も高く進学校として地元の方々にも愛されてきました。社会に大きく貢献している卒業生もたくさん輩出し、在校生も母校への誇りを持ちながら精一杯高校生活を送っています。民意は34,000筆超の署名が証明しています。共学化を争点にした選挙でなかったにも関わらず、それを民意だという教育委員会の言い分が全く理解できません。沢山の共学化反対の署名などがあったにも関わらず、共学化を推進することに強く反対します。埼玉県が全国に誇る、むしろ推進すべき別学の歴史・文化・伝統を守ってほしい。高校教育に共產主義的なイデオロギーを持ち込まないでください。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
99	25	共学化を声高に表明する人は目立つかもしれませんが、県民の要望としては極めて少なく、アンケート結果にも表れています。第3章の6「共学化の推進」は削除を希望します。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
100	25	男女共同参画苦情処理委員から県教育委員会に提出された、共学化推進の旨の勧告措置に対する反論を述べる。 ・別学校の存在は、生徒や保護者に多様な選択肢を提供し、個々のニーズに応じた教育機会の提供という意味で重要。 ・別学校の多くは長い歴史と伝統を持ち、地域社会に深く根付いている。 ・別学校の生徒は、学業や社会活動において優れた成果を上げている。各校がリーダーシップや集中力を育む環境を有している。また、社会に対して多くの貢献人材を輩出している。 共学化は時代の流れと理解するが、別学校の持つ独自の価値や役割を再評価し、多様な教育環境を有することを埼玉県の教育の特色とすべきである。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
101	25	少子化に伴う県立高校の統合による校数削減については、段階的に進めていくのであれば仕方ないことだと思いますが、男女別学校の共学化には反対です。女子高校に通っていたが高校3年間が、その後の人生を前向きに進む土台になったといっても過言ではありません。「男女平等」や「性自認の多様化」を大切にしていこうとの答えが、県立高校共学化ではないと感じます。共学・男女別学等、様々な選択肢があるということの方が大切だと思います。男女別学校のあり方についての再検討をお願いします。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、共学化を推進していきます。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
102	25	男女共同参画苦情処理委員の勧告について、「男女の役割についての定型化された概念の撤廃」を実現するために「共学化の奨励」が必須であるかのような論調に強い疑問を覚えます。共学化の奨励を必須とする論調には、論理の飛躍があると思われます。 方針（案）には、「全ての生徒が安心感、充実感を得て、有意義な学校生活を送ることができるよう、多様なニーズに対応した教育を推進します。」と記載がありますが、男女別学を希望している生徒も一定数いる中で、生徒に対する別学への進学という選択肢を排除する共学化の奨励は、「全ての生徒が…」という記載に反したものであると思います。「男女の役割についての定型化された概念の撤廃」の実現に当たっては、単に共学化を奨励するのではなく、男子校・共学校に対する女子校の地位を向上させることが肝要であると思われます。本方針が、生徒自らが別学を選択する権利を奪うようなものとならないことを強く希望します。	1	高校の3年間を男女が互いに協力して学校生活を送ることは意義があると考えております。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、男女共同参画の視点に立った教育について、全ての県立高校で推進していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
103	25	別学を無くすのは反対です。異性が苦手な人もおり、そのような人から学校での教育の機会を奪うことになると思います。高校受験は学区もなく、自分で高校を選べるため、別学が男女平等の妨げになることはないです。男女平等を目指すのであれば、別学を無くすのではなく、別学でしか出来ないことを無くすべきです。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、別学校・共学校にかかわらず、全ての生徒が安心感、充実感を得て、有意義な学校生活を送ることができるよう努めてまいります。	D
104	25	魅力ある県立高校づくりのために、現存する高校の歴史や文化伝統を尊重することがまず第一に大事。共学化は断固反対です。当事者である学生また卒業生たちの声を真摯に受け止めておらず、極めて不誠実な対応を取られているという印象です。県知事は学生たちにも会うべきです。 魅力ある県立高校とは、各高校ごとに特色文化伝統があり、それぞれに違う魅力があるということだと思います。別学高校は、その歴史や文化も長きにわたって醸成されたものです。設立から歴史の浅い高校にはまだそういったものがないということの方が課題ではないか。各高校で、自発的に伝統文化を作っていくというムード、空気感というのが大事だと思います。 生徒や先生は忙しさもあり、気付くことが難しいかもしれませんが、県の職員らを派遣して各高校の特色、伝統文化を把握し、そういったものの認識を深め、自分たちの高校に対する誇りや自信を持つというのがスタートなのではないかと思います。 共学化されようとしている別学校は、そういった愛校心のような気持ちを持っている生徒が多い、魅力ある高校だと思います。「魅力」の定義を決め打ちせず、生徒たちの意見を中心に考えて決定し、それらを伸ばすための施策を実行してほしい。また、実行しつばなしではなく、定期評価を行ってほしい。将来を担う子どもたちの未来のためにも、残すべきものを残すという当たり前のことを実行してほしいです。	1	この方針は、県教育委員会が令和7年度からの中長期的な視点で、県立高校を対象とした今後の魅力づくりに向けた方針を示すものです。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
105	25	25ページ(第3章6項)共学化推進の全文削除を求める。 県民、関係者は共学化推進に対して納得していない。関係者の意見交換や意見書等は優先して考慮されるべき民意であり、ここが反映されていない状況で共学化推進を記載するべきではない。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
106	25	25ページ(第3章6項)共学化の推進の全文削除を求める。 中高生へのアンケート結果として、別学維持の希望が大多数の意見を占めており、別学を維持すべきです。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
107	25,28	県民と話し合いをしながら共学化の案を考えていくと教育委員会で発言したにも関わらず、具体的な数値まで決まっていることは発言と実態が一致しないため不適切です。28ページにある再編整備による「最大19校」削減校数の数値を削除すべきと考えます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、再編整備については、生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 再編整備を進めるに当たっては、計画的に進めることが必要だと考え、本方針案に再編整備校数を記載しております。 方針案に示した再編整備校数の中で、公立中学校等卒業生数の減少や地域の状況などを踏まえながら、具体的な再編整備校を検討してまいります。	D
108	25	娘は、女子校はとても居心地が良く楽しい学生生活であったと言います。イギリスの上流階級の子・子息は全寮制の女子校や男子校に通ったりしています。共学に行きたければ共学の学校を選択すればいい。女子校・男子校も行きたい子が選択すればいい。その選択肢を無くしてしまうのは県の横暴でしかないと思います。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
109	25	「共学化の推進」項目全文を削除すべき アンケート結果など県民の意見、声が反映されていない。県知事は説明責任がある。 埼玉県別の学（男子・女子）は、メリットであり貴重な財産だと思っている。男子・女子、共学を自由に選べることで自体がジェンダーレスを実現、既に体現していると考えます。県立の別学校が仮に共学化してしまえば、費用の高い傾向の私学しか選択肢がなくなってしまいます。公立で別学校と共学校が共存している環境は非常に貴重であり、埼玉県の財産だと思います。ごく少数の苦情を理由に教育の現場に政治や他の思惑を持ち込み県民や子供たちを振り回すのは愚かだと思います。 自分の通った学校の学科には男子しかいませんでした。男子校のような環境は、思春期の異性の目を気にせず、勉強に集中し、自然体で高校生活を送る上で良い選択肢となり得ます。共学には男女が協力し合い学ぶ良さがある一方、思春期には異性の目が気になるのも成長の過程で自然なことです。別学という選択肢があることは、多様なニーズに応える上で素晴らしいことです。 共学化に反対及び別学維持を希望いたします。生徒や、その保護者の方々の声を第一に真正面から受け止めてください。	1	この方針は、県教育委員会が令和7年度からの中長期的な視点で、県立高校を対象とした今後の魅力づくりに向けた方針を示すものです。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
110	25	埼玉県立の男女別学校に関するアンケート結果では、共学化反対派が多数派であるから魅力的な高校として別学を維持することに理屈の整合性があるため、第3章6項の「共学化の推進」の全文削除を要求する。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
111	25	共学化を推進する理由を県民が理解し、教育委員会と県民が議論を交わすために「魅力ある県立高校づくりの方針（案）」の内容を決める話合いの内容を公開する必要があると考えるため、魅力ある県立高校づくりの方針（案）の内容を今後検討する際には、話合いの内容、検討事項とその理由を公開してください。	1	方針案の作成に当たっては、県内の小学５・６年生、中学生及び高校生とその保護者を対象に「県立高校の特色化に向けたアンケート」を実施しました。また、学識経験者や学校及び行政機関の関係者による「魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議」を３回開催し、魅力ある高校づくりについて御意見を伺ってきました。これらの意見を参考に教育委員会で協議の上、方針案を作成しました。これらの資料等については、ホームページで公開しております。	E
112	25	埼玉の子供は男子校、女子校、共学校から選ぶことができ、県立でこれだけの選択肢を持ち、大変恵まれた環境にあります。 共学化により ・各校の伝統的なカラーが失われる ・女子教育、男子教育に特化した学校がなくなり、多様性を欠く ・子どもの選択肢が減り、別学を望む者は私立に行くしかなくなる 女子差別撤廃条約の趣旨からも、子供の「教育を受ける権利」上も、どちらにも益がない結果となります。悪いものは変えていくべきですが、良いものを変える必要はありません。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
113	25	女子校で学んだ経験が自身の個性、今のキャリアにつながっているため、別学の廃止、公立高校の共学化に反対します。経済的に公立高校に進学したい子供たちに別学の選択肢を与えることが多様性では無いか。別学の高校を廃止することは多様性をなくすことになり、今のトレンドに反していないでしょうか。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、県では、高校に通う生徒の修学を支援するため、学費負担を軽減する制度など様々な修学支援制度を用意しております。リーフレットを配布するなど、支援制度の内容の周知に努めてまいります。	D
114	25	浦和高校や浦和一女は是非今のままの形で残してほしいと思います。共学校も有りますので、子供達の行きたい高校の選択肢は多い方がよいです。男子校、女子校を残して下さい。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
115	25	２５ページの共学化の推進方針は全文削除すべきである。県教委が行った各種中高生・保護者アンケート結果に反していて、県民の声を反映していない。	17	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
116	25	県立高校の共学化に反対します。	4	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考え ており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を 推進していくことが必要だと考えております。	D
117	25	県教委が行った各種中高生・保護者アンケート結果に反しているため、2 5 ページ(第 3 章 6 項)共学化の推進の方針は全文削除すべき。家庭の事情で、 公立高校を選択しなければならないこともあり、多様性と言うなら、別学、共学が存在するのが、本来の形。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考え ており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を 推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、 様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことか ら、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、ア ンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、県では、高校に通う生徒の修学を支援するため、学費負担を軽減する制度など様々な修学支援制 度を用意しております。リーフレットを配布するなど、支援制度の内容の周知に努めてまいります。	D
118	25	P 2 5 の共学化推進方針は全文削除すべき。共学化すると男子校の雰囲気が変わってしまう。共学化を推進すること自体が、男女共同参画に反している と思われる。別学しか選択しない男子女子生徒がどれだけ多くいることか実態を知ってほしい。埼玉県独特の文化として誇りを持ってよい。	1	高校の 3 年間で男女が互いに協力して学校生活を送ることは意義があると考えております。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考え ており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を 推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、 様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことか ら、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、ア ンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ 等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
119	25	共学化推進の方針は各種中高生・保護者アンケート結果に対して何も意見が反映されていない。長い歴史ある校風、伝統は目に見えないですが、一度そ れを失えば損失です。共学も別学も備わっており、行きたい高校に行けるチャンスを潰さないでほしい。全ての高校を共学化する必要性はないと思います。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考え ており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を 推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、 様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことか ら、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、ア ンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ 等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
120	25	県教育委員会は生徒の意見をもっと尊重して受け入れるべきであり、P 2 5 の共学化推進の方針は全文削除すべき。別学校を残すことが魅力ある県立高校につながる。県民の声を反映してほしい。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
121	25	P 2 5 共学化の推進項目全文の削除を要望します。アンケート結果や意見について無視しています。少なくとも、共学化については別学維持と共学推進の両論併記とすべきです。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
122	25	「共学化の推進」項目全文の削除を求めます。別学を求める中高生が少なからずおり、彼等の選択肢を狭めてしまいます。歴史、伝統、文化を守ることでも大切です。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
123	25	多くの県民の意見は無視されます。別学という選択肢がなくなり困る生徒を出さないでください。共学化推進方針は見直しが削除すべきです。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
124	25	共学化に反対します。多様性を尊重する世の中において、共学化ありきで県立の男子校や女子校を全て廃止する流れに向かって進んでおり、男女別学は私立高校一択となり進学を選択肢を狭めています。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
125	25	県立高校男女別学校の維持を、切に希望します。世界を見渡しても、共学校しか存在しない国はありません。今まで国内で行われた別学校の共学化はスタンダードな考え方ではないのです。単に伝統がある、長年続いてきたからではなく、子供が大人に育っていく中で必要な、選択の幅を奪うことは、由々しきことです。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えられており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D
126	25	P 2 5 の共学化推進方針は全文削除すべきである。男子校、女子校、共学は差別的に分けているのではなく、学ぶ環境の選択肢として区別されています。現状の環境の方が、誰もが平等で様々な価値観の下で学べる環境と言えます。共学化することは男子校、女子校の環境で学びたいという生徒の選択肢を奪うことであり、多様性社会の在り方に反するものであると考えます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えられており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
127	25	共学化推進方針は、全文削除が適切と考える。 中高生、保護者対象アンケート結果が示す県民の声を熟慮すべき。歴史と伝統によって培われてきた校風、教育環境、卒業生のコミュニティは、各高校が守り、受け継ぐべき財産である。生徒にとっても、その独自性が魅力であり、選択肢として残されるべきものとする。私学には通えない生徒にも、県立高校で魅力ある教育を受ける機会を残すべき。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えられており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
128	25	在校生、卒業生、県民の意見が十分に反映されていないため、2 5 ページの共学化を県が主体的に推進するという文面を全て削除すべき。また、県の税金を私学にも助成しているのであれば県内私立にも共学を推進することを促すべきで、もしそれを飲めないのであれば県としては助成金を出さないなどの措置を取らないとアンフェア。子供たちの選択肢が多く残ることを願う。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えられており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
129	25	P 2 5 の『共学化推進方針』は全文削除すべき。二十年以上、日本中の高校を見てきました。その感想は、公立の別学高校出身者は、『別学』を『楽しんでる』という点です。素敵な文化を残してくれた先輩の為に、埼玉県別の別学高校は残すべきと考えます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えられており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
130	25	2 5 ページの共学化の推進方針は全文削除すべき。	2	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えられており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
131	25	アンケート結果が反映されない方針。共学化の時期を考えるのは時期尚早です。またどの高校をその対象とするかを考えるのも時期尚早です。とにかく子供たちとよく話し合いをしてください。百年以上続く伝統校を変えてしまってもよいのでしょうか。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
132	25	他の県が共学化するから共学化するのは特性を失う事。別学を維持してください。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D
133	25	2 5 ページ『6 .共学化の推進』について、共学化には反対です。共学と別学を選択できる権利を侵害しています。きちんと県民の声を反映してほしいです。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
134	25	P 2 5 に「共学化の推進」が記載されたことについて 特色化に向けたアンケート結果をみても別学には一定のニーズがあることが分かります。にも関わらず、共学化を推進することは別学に行きたい子供たちの権利を奪うことになります。私自身は共学校を卒業していますが、全てを共学化することは反対です。別学も共学もそれぞれによりとところがあり個々に合う校風があります。例えば共学校の生徒に聞いても別学を共学化した方がよいと答える人は少ないはずで、当事者が納得しない政策はするべきではないと思いますので「共学化推進」の項目の削除を求めます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県立高校の特色化に向けたアンケートだけでなく、県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
135	25	県教委が行った各種中高生・保護者アンケート結果に反しているため、2 5 ページ（第 3 章 6 項）共学化推進の方針は全文削除すべき。女子校、男子校、共学があることは、埼玉県の高文化、伝統であり、女子校、男子校に行きたい生徒の選択肢、選べる権利も残すべき。共学に行きたい生徒には、地域に共学の学校もあるのだから、女子校・男子校を無くす必要性は全く無い。女子校出身者として、男女の役割の定型化概念の撤廃に別学の方が有効で、3 年くらい女子だけの環境にいるのは何の問題も無く、逆に貴重な経験だった。	1	高校の 3 年間で男女が互いに協力して学校生活を送ることは意義があると考えております。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
136	25	公立の別学は残すべきであり、伝統に裏付けされた教育は引き継がれるべき。また、県教委が行った各種中高生・保護者アンケート結果に反しているため、2 5 ページ(第 3 章 6 項)共学化推進の方針は全文削除すべき。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
137	25	2 5 ページに記載の共学化推進方針は、全文、削除頂きたい。 その理由は県教育委員会が行った中高生や保護者へのアンケート結果に反しており、『魅力ある県立高校づくり』につながらないためです。男女別学校の在学生及びその卒業生の多くは、男女別学であることに魅力を感じています。公立高校において男女別学校を存在させることは、多様性の観点からも、将来の学生にとって必要であると考えます。また、埼玉県に男女別学校が存在していることは、全国に誇れることであるとも考えます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
138	25	P 2 5 の共学化推進の方針は全文削除すべき。別学校を経験している在学生やO B、O Gの多くは反対しているのに無視して共学化を推し進めることはやめるべきだ。別学校（特に浦高、浦和一女）は伝統があり、その伝統は男子校、女子校だからこそ成り立つものである。男子校、女子校の両方が存在するのだから、差別でもない。これからの子供たちに選択肢を与えるためにも別学校を残すべきである。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
139	25	P 2 5 の共学化推進方針は全文削除すべき。理由として、 ・高校の選択肢を減らすことになるため。 ・「埼玉県立の男女別学校に関するアンケート」で共学化反対の割合が多い。特に当事者である高校生の反対の声が大きいため。 ・希望する高校が県内に無くなると、他県に生徒が流出することとなり、結果的に県内高校生の学力平均が下がることが予想されるため。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
140	25	P 2 5 共学化の推進に反対です。 埼玉県の別学校は歴史があり、生徒の学力に応じた学校がそろっているので、あえて共学化しなくても生徒にあった学校を選択できるからです。県立高校の特色化に向けたアンケートで、「別学であること」を選んだ約 6 , 5 7 0 人の中学生の意見は無視するけど、何人いるか分からない男女共同参画苦情処理委員に送られた苦情に過剰反応する姿勢に疑問を感じます。浦和高校に入学できなくても同じように歴史も学力も同様の浦和一女や、共学で浦高と偏差値が近い大宮高校もあります。この層の厚さが埼玉県立高校の強みであり魅力です。選択肢がたくさん用意されているので差別にはあたりません。多様性を推進するなら別学の選択肢を消す必要は無いでしょう。「女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃」をうたうなら、男性による差別を避けるために別学という環境を用意するのも必要ではないのでしょうか。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
141	25	県教委が行った各種中高生・保護者アンケート結果に反しているため、25ページ（第3章6項）共学化推進の方針は全文削除すべき。共学の選択肢がある状態で、定員を超えて別学校を受検しているのは、当事者である生徒と保護者の意見そのもの。継続的な定員割れが起きない限り、県民の声と生徒の気持ちに反する方針を立てるべきではない。別学校を魅了的と感じている県民の気持ちを無視しないでください。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
142	25	全校共学化は反対。望めば別学校が選択できるよう、存続させるほうが望ましいと思います。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D
143	25	2024年8月22日報告のアンケート結果では多数の埼玉県民は「共学化しない」を望んでいることは明らかであり、埼玉県男女共同参画苦情処理委員から「埼玉県立高校において、共学化が早期に実現されるべきである」との趣旨の勧告は、埼玉県民の意見を反映した結果となっていない。 男女別学校を共学化する事は、多様化している生徒の教育ニーズに対して「男女別学校に通いたい」という選択肢を狭めている。「個人の能力と希望に応じた選択肢を用意する」には逆行している。 以上の理由からP25の共学化推進の方針は全文削除すべきである。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
144	25	熊女生たちが皆伸び伸びと活発に過ごしている印象を受けました。これはほかの共学では見られませんでした。この素晴らしい環境をあえて壊すことは大反対です。アンケート結果を見ても共学化反対派が多数であることは明らかであり、P25の共学化推進方針は全文の削除を求めます。県民の声を無視しているとは思えません。魅力ある県立高校というのであれば、私学ではなく県立高校にもっとお金を掛けて、建物をきれいにしてほしいです。募集人数を減らしてでも地域NO.1の学力である伝統を守っていくのが魅力ある高校づくりであると考えます。同じ偏差値帯の共学も埼玉にはちゃんとあり、別学を共学にしたら何か違う魅力ができるとは思えません。共学化撤廃を強く求めます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められていると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、教育環境の充実に向けては、必要な予算の確保に努めてまいります。	D
145	25	男女共学を推進する方向性が、現役の学生をはじめとする多数の反対意見は無視する形で決定されました。これは男女平等を推進するどころか、学生の選択肢を奪い、別学各校が積み上げた長年の伝統を蔑ろにするあまりにも軽率な判断と言わざるを得ません。方針案においても同様に共学化推進が明記されており、全く賛同できません。 男女共学化を推進することは、一見、男女格差解消に資するように感じられますが、その実態は特に女性の権利を一方的に剥奪する、男女平等とは真逆の施策です。魅力ある教育には全くつながりません。（そもそも共学化がなぜ高校の魅力化につながるのか、標記方針においても記載がなされていません。）よって標記方針から「男女共学化の推進」を削除し、「男女別学の堅持」とすべきと考えます。県教育委員会には、魅力ある県立高校づくりの為に未来に残すべきものは何か、他県にはない当県の高校教育の特色と強みは何か、ということを改めて考え、正しい判断をしていただきたいと思います。	1	高校の3年間を男女が互いに協力して学校生活を送ることは意義があると考えております。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
146	25	県教委が行った各種中高生・保護者アンケート結果に反しているため、25ページ（第3章6項）共学化推進の方針は全文削除すべき。男女別学の存在が各種条約に違反していないことは明示されている。	1	高校の3年間を男女が互いに協力して学校生活を送ることは意義があると考えております。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
147	25,26,29	少子化に伴う合併や、未来を見据えた専門学科の選択肢を増やす事自体は賛成です。しかし、そこに歴史ある女子／男子校の共学化は含める必要性を感じません。ここまで築き上げた伝統は止めたら戻せないのでは安易な共学化に反対します。共学化しなくても、他の形で選択肢を広げる事は出来ます。ちゃんと声を聴いてください。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
148	25	浦高高校や一女が共学になるのは反対。県の上位校であり、特色があるにもかかわらずなぜ共学化してしまうのか。浦高の体育会系の校風は共学化されれば間違いなく維持出来ない。この学校を無くすのは本当にもったいない。社会に出たときに、必ず生きてくる大切な指導をしてくれる。他校や一女も同じ。少子化で統合するならば、定員割れしている高校をすべき。たった1通の苦情でこうなるのはおかしい話。それだけ魅力のある学校で嫉妬してしまうのだろう。若者の為にも我々の未来のためにも正当な良識ある判断をしていただきたい。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
149	25	以下の理由から別学の継続を望みます。 ・別学は、特徴ある学校に当てはまり、理由があって別学を望む学生がいる。 ・別学が学びの不平等には当たらない。専門学科が男女どちらかだけという場合は共学化もやむを得ないと思いますが、どの別学高校も普通科であり、他の共学高校でも学べる。 ・別学では男女の理解が深まらずに成長するという考えは当たらない。卒業生たちは社会で活躍している人もいますし、結婚も何ら変わりません。 ・学校現場での、管理職の男女比率が不平等になっているから共学にとの理由があったと思いますが、それは学校を共学にする事と別問題です。 ・共学にした場合、トイレ、部室など、改修する点が多々あり、相当な費用が予想されます。今の社会情勢で、多額の税金を掛けることに、県民の理解が得られるでしょうか。賛同出来ません。なぜなら、共学にしなければならない絶対的な理由が無いからです。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
150	25	これ以上の共学化に反対します。 女子高等学校に通学しております。周りの聡明な同性の方たちと、時には不安を共有しながら切磋琢磨（せっさたくま）していくことで、生きる力を身に付けました。男性がいれば頼ってしまいそうな力仕事でも、大人数で協働することで解決することができました。このような経験から、問題解決能力やリーダーシップも身に付きました。女子校という男女別学でしか学べないこともあります。近年、女性軽視をする社会人が目立ってきています。男性はおかしいことをしていると、女性はおかしいことをされていると、気づくべきです。これは、大人が教えてあげなければ気付かないことです。多感な時期の高校生たちは、異性がいる前でこのような教育を受けると茶化してしまいがちです。これらの性教育は根本的に見直され、きちんと教育されるべきです。別学では、共学で教えたときは違う意見や考えが生まれるべきはです。教育者は、同性しかいない場を利用し、正しい性教育をしていくべきです。また、近年私立では共学化が進んでいます。もう十分でないでしょうか。また、埼玉県にはたくさんの男女共学の学校があります。それらの学校の制服のスカートを廃止し、スラックス化にするなど、共学化を推し進める前にやることはあるはずです。これ以上、共学化を推し進めることに反対です。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 全ての高校において、生徒が性に関して正しく理解し、適切に行動できるようにすることが必要であると考えております。生徒の心と体のバランスに配慮した性に関する指導を進めてまいります。 なお、県立高校においては、令和5年度から全校でスラックスを導入しております。	D
151	25	県民の本当の声を反映していないP25の共学化推進方針は、全文削除して頂きたい。 魅力度の低い埼玉県において、数少ない魅力である男女別学の伝統を自ら無くすとは、取り返しのつかない事ではないでしょうか。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
152	25	別学校の共学化に向けて検討されているようですが、断固として反対します。社会が多様性を重視する流れに進む中、県当局がその流れに完全に逆行する政策を進めていることに県当局の良識を疑います。男子校に進学し、異性を気にする必要のない3年間を送ったことで女性との接し方を学び直すことができ、大学・社会において異性との接し方を向上させることができました。男子校・女子校が存在することで人生の可能性を広げる、あるいは正しい方向へ導く可能性があることを考えるべきだと思います。共学化政策は社会の流れに逆行しているだけでなく、若い世代の可能性を奪うことだと認識すべきではないかと思えます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
153	25	一部の苦情があったにせよ、アンケート結果等では県民の多くは男女別学校の共学化は望んでいないことが示されている。県民の理解が得られない中で進める共学化は、「魅力ある県立高校づくり」ではないと考えるため、P 2 5「6 共学化の推進」は項目ごと全て削除するべき。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
154	25	P 2 5 の共学化推進の方針は全文削除をお願いします。県立高校の内、既に 9 0 % 以上が共学校で、1 0 % にも満たない別学校を共学にする理由が納得できません。私は共学校の出身であり、その良い点があるのは分かります。同時に、男子だけの公立高校や、女子だけの公立高校を求める中学生は一定程度います。また、偏差値が高いと言われる県立高校は、男子校・女子校・共学校で、それぞれの多様な県立高校を選ぶことができます。しかし、県立高校が共学化されれば、高校の男子校・女子校に進みたい中学生は、私立高校へ進むしかありません。それゆえ、現在ある県立の別学高校の共学化は反対です。このことの出発点は、「埼玉県立の男子高校が女子が女子であることを理由に入学を拒んでいる事。女子の入学は当然認めるべきだ。女子差別撤廃条約に違反している事態は是正されるべきだ。」とする旨の苦情申出があった、とのこと。その申出者の、性別・年代など、また、何時苦情内容が発生したか、は公表されていないようですので、その苦情申出を受理すべきだったのか、その申出者が存在するのか、その申出者が高校受験予定の当事者か否か、その申出者が県立高校の共学推進による利害関係者又はその縁故者なのか、疑っています。埼玉県教育委員会が、県立高校の共学化によって利益を得る県内の私立高校利害関係者又はその縁故者とながっていないか、と勘ぐっています。なぜならば、日本政府としても、別学高校の存在は O K としており、「個々の公立の高等学校や、国立の大学が男女別学であっても、教育基本法や憲法第 1 4 条に違反するものではないと考える。」と答弁しているからです。埼玉県教育委員会は、上記の日本政府の答弁を無視し、中学生の県立高校の選択の多様性を拒否し、共学校をつぶそうとしています。中学の生徒数の減少による県立高校の整理統廃合の是非までは触れませんが、数少ない別学の県立高校は、普通科も含め、そのまま存続するよう要請します。「男女の役割についての定型化された概念」があるのは、1 0 % に満たない県立別学高校を潰し共学校にしていこうとしている貴教育委員会ではありませんか。	1	高校の 3 年間を男女が互いに協力して学校生活を送ることに意義があると考えております。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
155	25	県教委が行った各種中高生・保護者アンケート結果に反しているため、2 5 ページ（第 3 章 6 項）共学化推進の方針は全文削除すべき。 埼玉県立の別学高校に特化して共学化について騒ぐことがおかしいはないでしょうか。国立の女子大学、高校はそのままでいいの、別学であることに意義があるからその形態を保っているのではないのでしょうか。国立の別学のことに触れず埼玉県の別学高校をつるし上げることに合理的な理由はあるのでしょうか。埼玉県には同レベルの男子校、女子校、共学校がきちんと存在します。全てを共学化して均一化してしまうことは多様性を奪うことです。別学・共学を選択できることが個人の自由を守ることではないのでしょうか。別学には別学にしかなない経験を積むことができます、経験者はみな口をそろえます。在校生、卒業生、別学校を望んで目指している中学生たち、当事者たちを蚊帳の外にして議論を進めないでいただきたい。当事者の大多数が別学維持を望んでいます。その良さを実感し、後世に残したいと思っている者たちの意見や思いを踏みにじって、世の空気と一部の極論者の意見に流されないでいただきたい。一度共学化してしまえば二度と別学に戻ることはないのだから。どちらの意見も一方通行ではなく、建設的な議論をきちんと重ねて結論を出していただきたい。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
156	25	2 5 ページ「共学化の推進」項目全文を削除すべき。アンケート結果など県民の意見が反映されていない。	13	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
157	25	女子校、男子校を共学にする方針とのことですが、反対です。男子校に女子が行けないのは女子差別との意見があったようですが、女子校があるのに男子校に行けないから差別と考える事自体おかしいのではないかと思いますし、その意見を見て共学にしようとしている県はおかしいのではないのかと思います。また、反対の意見が多いようですが、意見を聞いて反対が多くても強行実施なら意見を聞く意味はありますか。単なる意見を聞きましたよというパフォーマンスでしょうか。共学に行きたいのなら共学の高校が既にあり、女子校に行きたいから女子校を選ぶのです。男子についても同様です。伝統がある高校を大人の都合で潰すべきではありません。潰したいなら名前を書けば誰でも入れるような偏差値底辺、外人ばかりの高校では。今の埼玉県はどこを向いて政策をしているのが甚だ疑問です。区別と差別をはき違えています。この案のどの辺りに魅力を感じればよいのか分かりません。 昨年には埼玉県の現役高校生から 3 万超もの別学維持の要望書を受け取っていると思います。それを男女共同参画社会苦情処理委員会に提出された 1 通の苦情から無視するのはおかしい話だと思います。それで被害を受けるのは子供です。もう共学化に向けて動き出してしまったから止められない…では無く、一度立ち止まってよく考えられた方が子供たちのためになるのではないのでしょうか。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
158	25	今のままの男子校である浦和高校に入学したいです。勉強だけではなく部活や学校行事にも全力投入し何事にも挑戦する浦和高校に魅力を感じています。どうか浦和高校の共学化をしないでください。たった1件の苦情で教育委員会が共学化を強引に行うことはおかしいと思います。浦和高校に行きたいと思って勉強を頑張っている友達もみんな共学化に絶対反対と言ってます。たった1件の苦情より私たちの希望を教育委員会は聞いてください。男子校と女子校の共学化に反対です。 p.25 6 共学化の推進 男子校・女子校・共学校それぞれ行きたい子がいるので全て残してほしいです。共学化には大反対なのでこのページ全部の削除をお願いします。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
159	25	共学化の推進項目全文の削除を要望します。別学が古い考えで共学が新しい考えという考えこそ、今では古い考えです。公立高校において別学も共学も選べるという多様性こそが現在及びこれからにマッチした考えです。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
160	25	p.25に記載の共学化推進の方針については、削除すべき。 「男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していく」としながら、アンケートや地域別での意見交換を実施する前に、「報告で示したとおりに推進していくこと」と記載していること自体、結論ありきで県民の意見を丁寧に把握する気がないのではないかと感じられる。推進方針を明記する前に、まずは県民の意見を把握するべきではないか。別学も共学も両方の選択肢がある現状から、別学の選択肢を奪う共学化を進めることがなぜ多様化する教育ニーズに応えることになるのか理解できない。県男女共同参画苦情処理委員からの勧告に対して、反対意見が多数ある中で「共学化を推進していく」と報告していること自体おかしいものであり、このような報告に基づき共学化を推進する必要はないと考える。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
161	25	p.25に記載の共学化推進の方針については、削除すべき。 「男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していく」としながら、アンケートや地域別での意見交換を実施する前に、「報告で示したとおりに推進していくこと」と記載していること自体、結論ありきで県民の意見を丁寧に把握する気がないのではないかと感じられる。推進方針を明記する前に、まずは県民の意見を把握するべきではないか。別学も共学も両方の選択肢がある現状から、別学の選択肢を奪う共学化を進めることがなぜ多様化する教育ニーズに応えることになるのか理解できない。県男女共同参画苦情処理委員からの勧告に対して、反対意見が多数ある中で「共学化を推進していく」と報告していること自体おかしいものであり、このような報告に基づき共学化を推進する必要はないと考える。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
162	25	基本は共学化反対ですが、やむを得ない高校の合併・廃校も仕方ない。旧制中学校5校（浦和・熊谷・川越・春日部・松山）及び浦和一女・熊谷女子・川越女子・春日部女子・松山女子の共学化は反対、現状維持を希望します。しかし、東松山を中心とした比企地方は少子化が著しい限りです。よって、松山高校と松山女子との合併は仕方なしと考えています。松山高校に合併後の高校を置く（松山高校の校名、校章や校歌等は松山高校を引き継ぐ）。松山女子の跡地は、埼玉県立松山高校附属中学校の創立。この意見は、公立の中高一貫校は北部地域、特に東武東上線沿線からの通学は不可能に近いので、不公平感の解消の為です。また、男子校の無い久喜・鴻巣女子は共学にするのが望ましいと考えています。 松山高校の校歌は100年以上唄い続けられているので、変更しないのが望ましいです。 松山は校名はそのままだしていただき、副校名を付けると更に魅力的になると考えます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 また、今後、更に生徒数が減少していく中で、一定の学校規模の維持に努めるとともに、社会の変化を踏まえて高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要だと考えております。 再編整備の対象となる学科・学校等については、全県を俯瞰（ふかん）しながら「再編整備の観点」を踏まえ総合的に検討してまいります。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
163	25	どうして消す方向に行くんですか。大切な母校がなくなるかもしれないと思うととても不快です。無くすのではなく1つの高校と1つの高校を合体させたり、もっと埼玉県から高校について宣伝すべきです。あなた達は一つ一つの高校の特色を何も知らない。そんな簡単に改変すると言わないでください。 女子校、男子校はあるべきです。共学化することで、より人が来なくなり退化していきます。高校について考える時は現在高校生の人達の意見も求めてください。大人が勝手に決めないでください。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上の学校規模が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、一定の学校規模の維持に努めるとともに、社会の変化を踏まえて高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要だと考えております。 また、今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
164	25	県教委が行った各種中高生・保護者アンケート結果に反しているため、25ページ(第3章6項)共学化推進の方針は全文削除すべき。別学校を無くし、全て共学校にしてしまうことは、「共学校には行きたくない」という子たちの希望する進学先を奪うことになります。公立高校として子供たちの希望する進学先を奪う事は、あるまじき事態だと思います。多様な形態の学校を選ぶことこそ「魅力ある県立高校づくり」と言うのではないのでしょうか。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
165	25	子供の数が減少しているからこそきめ細かい配慮が必要である。中学生までに自分の適性があるのか、人生の方向性を決められる人は少ないので普通科を多く残してほしい。男子校でやっとやりたい事ができると期待している子供がいる。勉強が得意と分かって埼玉で1番のあの学校に行きたいと希望を持って生きていける子もいる。都内まで通学出来ない人はどうするのか。弱い者の立場になってほしい。社会は理不尽だけれどもせめて高校まではチャンスを与えてほしい。一方的に書類で決まった事を報告するのではなく、きちんと話し合いを対面で設けてほしい。	1	社会が変化し、多様な課題が生じている中で、各教科等の学びを基盤としつつ様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく学びが求められます。 このため、普通科においても教育課程の特色化・弾力化を推進するとともに、教科等横断的な学びや探究活動などを通した実践的な学びを推進します。 また、将来の農業・工業・商業などの産業を支える人材を育成するため、実践的で高度な専門的知識・技能の習得を図る専門学科は重要だと考えております。普通科、専門学科、総合学科それぞれの学びの充実に取り組み、生徒の希望する進路の実現に向け多様な学習機会の充実に努めてまいります。 また、今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
166	25	p25「主体的に共学化を推進していく」ことに反対。 ①「男女の教育機会均等を確保する」ことをその目的とするならば、県内では現在女子校の数の方が男子校よりも多く、女子が差別されている状態ではない。 文章中、それ以外の理由で共学化を推進する理由は探せなかった。 ②女子差別撤廃条約 第十条cから共学すなわち差別撤廃ではないにもかかわらず、主体的に共学化を推進するとの県の回答は的外れである。 ③女子が男子校に入学を許可されないことが女性差別なのか。伝統として県民が受け入れている合理的な区別を差別とはいえない。	1	高校の3年間を男女が互いに協力して学校生活を送ることは意義があると考えております。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
167	25	共学化推進について反対です。女子校出身者として、以下で理由を述べます。男女混合社会があるべき姿だとは思いますが、今の男性中心の社会では、男性の価値規準の中にうまく溶け込めない女性は、能力があっても十分活躍できないのが現状だと感じております。そのような社会にあって、人間形成がされる多感な時期に、男性の価値規準から切り離されて、自身と純粋に向き合える期間が持てたことは、とても貴重な体験でした。男性に依存したり、従属することなく、協力関係を構築していくという姿勢を得ることにつながったと感じております。自分の足で立つという感覚を養えたのは、高校時代でした。入学してみると、上記のような思いもかけない体験を得ることができたのです。中学生の意見を重視すべき、という考え方がありますが、体験していないことを正確に判断することはできないと存じます。過去の人間の意見など意味がない、とは言わずに経験者の体験に耳を傾けて頂けるようお願い申し上げます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
168	25	県民の声を反映していないため、P25の共学化推進の方針は全文削除すべき。やはり、男女別々の学校はあるべきです。良い部分と悪い部分はありますが、男子高校は良い経験になりました。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
169	25	男女別学高校は、それぞれよい特色があり、非常に魅力ある県立高校であり共学化するべきではない。大勢いる共学化反対の声が尊重されないのには納得できない。県教委が行った各種中高生・保護者アンケート結果に反しているため、25ページ(第3章6項)共学化推進の方針は全文削除すべき。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
170	25	p.25 共学化の推進について 女子差別撤廃条約に違反しているという旨の苦情申入れが共学化の早期実現推進のきっかけであるという文言を掲げられていますが、女子差別を共学化の目的とされているのなら、その根拠が不足しているか、逆に解釈しているように見受けられます。文言内に「女子差別撤廃」と銘打たれていますが、女子に絞って別学と共学の環境下で与える影響について検討した先行研究においては、むしろ別学環境が思春期の少女たちの自尊心や理系の学業成績に対して好影響を与えることが示されています。もちろん、これらの研究結果は文化的背景が異なることを念頭に置く必要がありますが、それを加味したとしても真逆の結果が示されている事実を受け止め、女子差別撤廃を前提とした共学化の推進には慎重になるべきではないでしょうか。少なくとも、令和7年時点での埼玉県内の高校生のジェンダー意識や自尊心、学業についての調査を行い、別学・共学環境下で与える影響を検討するなどしていただき、根拠を明確にしてから判断してほしいと思います。また同じく先行研究においては、ジェンダー統合において重要なのは別学・共学の差異ではなく、ジェンダーバイアスに捉われない教育実践者の手によってサポートを受けながら男女が協力して課題に取り組むことだと述べられています。上記を根拠とすると、女子差別を目的とするなら共学校であったとしても内部の課題への取り組み方へ改正の目を向けたり、別学であれば別学同士の交流を積極的に行うことで十分に目指せるのではないかと考えます。	1	高校の3年間を男女が互いに協力して学校生活を送ることに意義があると考えております。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、男女共同参画の視点に立った教育については、全ての県立高校において推進することが重要であると考えております。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
171	25	県教委が行った各種中高生・保護者アンケート結果に反しているため、25ページ(第3章6項)共学化推進の方針は全文削除すべき。当事者である中高生の声を無視して、本当に「魅力ある」県立高校ができると考えなのではないでしょうか。魅力は中高生や保護者にとってのものではないのですか。それに加え、県内には男女別学高校の近隣に、同じ偏差値帯の公立共学高校が存在します。つまり選択肢はあるのです。「選択肢のある」埼玉県でなぜ選択肢を消すのでしょうか。男女別学は差別でも性の多様性無視にもなりません。むしろ多様性が叫ばれている時代、男女別学はなくてはならない選択肢なのでは無いでしょうか。これ以上中高生や保護者の意見を無視しないでください。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
172	25	一律共学化に反対です。共学、男子校、女子校など、選択肢が多いのが、埼玉県の公立高校の良さではないでしょうか。公立高校は、男子高校、女子高校に行きたい学生を、今後受け入れないということでしょうか。差別的だと感じます。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
173	25	共学化を推進する団体が提出した早期共学化推進の要望書を県の教育長が直接受領していることなどに対し、埼玉県教委は公序良俗に反している（信義誠実義務違反）と指摘されても、埼玉県側は現時点で反論できないのではないのでしょうか。この点は埼玉県教委に対し我々が指摘をすることで論理的におかしな共学化検討を抑止できる可能性があると思います。	1	御意見として承りました。 今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	E

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
174	25	「教育ニーズ」とは具体的に何を指しているのでしょうか。一般に教育学において「教育ニーズ」とは、障害を持つ生徒による特別支援のニーズ、いじめ・不登校等の生徒指導上のニーズ、帰国・外国人生徒への日本語教育のニーズなど元来様々なニーズを指すわけですが、「多様化」という表現によりさらに曖昧な文章表現となっていることは否めません。仮に具体的な「教育ニーズ」を想定して記述されているのだとしたら、それが何であるかを示したうえで、どの属性がどの程度の割合で希求しているのかを定量的に提示すべきでしょう。また、この文言において、「教育ニーズが多様化していく」と、「主体的に共学化を推進」するべき根拠が十分に示されているとは言い難いです。ここでいう多様化する「教育ニーズ」に埼玉県教育委員会が十分に応える意思をお持ちならば、むしろ男女別学校を存続させた方が論理的整合性を損ないません。以上、多様化する教育ニーズに応えるために男女別学校を廃止することには、いかなる客観的な裏付けがあるのかをご教授願います。 「今後、中学校卒業人数が減少し、（中略）主体的に共学化を推進していく」ことについて 人口地理学の観点からみると、「中学校卒業人数が減少し、（中略）主体的に共学化を推進していく」という文言には、論理の飛躍があるように見えます。なぜなら、少子化には少なからぬ地域差が存在し、たとえ同じ県内であったとしても一律に問題視しえない側面があるからです。 少子化が男女別学校を共学化する根拠であるとお考えであれば、男女別学校12校が立地する自治体における年少人口の規模とその将来推計値を最低限踏まえたうえで、慎重に議論するべきでしょう。仮にそうだったとしても依然として男女別学校を共学化する根拠として乏しいことが目に見えています。男女別学校が2校立地するさいたま市は埼玉県全体と比較すれば、人口減少が緩やかです。埼玉県「南部」（県教育委員会の区分による）でみても、その推移は比較的ゆるやかであるといえます。「北部」は、県全体と比較すると、人口減少が深刻です。仮に少子化が比較的進行していることを理由に一部の男女別学校を共学校にするとすれば、新たな教育格差、すなわち、地理的な理由により男女別学校を選択しにくい状態を生み出す弊害もあります。 以上より、文言中の「中学校卒業人数」の減少は、男女別学校を共学化する根拠とはなり得ず、また、必ずしも埼玉県全体で一律の水準で進行しているわけではなく、県南部を中心にある程度ゆるやかに進行している地域もみられるため、なおさら「主体的に共学化を推進」することの根拠として不適切であると考えられます。繰り返しますが、もし仮に「中学校卒業人数」の減少を「主体的に共学化を推進」する論拠にあげたいのだとしたら、どのようなデータあるいは分析に基づいて判断されたもののかを示すと同時に、統計及び県教育委員会が実施した(する)アンケート調査等から、今後20年から30年にわたる県内12の男女別学校への入学希望者数を推計するなどして、共学化を推進しなければならないことを示す明確なデータを提示するべきでしょう。ただし、先述したように、仮に少子化が進行している地域に所在する男女別学校を共学校化することが万一の可能性であるとすれば、新たな教育格差を生み出す可能性がありまますから、その妥当性についても広く県民に納得のいく説明を求めます。 同資料p.25 の8 行目以降に書かれた文言全体の妥当性： 「男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、（中略）意見聴取などを実施していく」と男女別学校を維持するべきであるとする県民に一見譲歩しているようにみえますが、「（中略）県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していく」としており、結論ありきで議論が進められているように見え、大変強い不信感を覚えます。将来を担う子供たちに範を示すべき県教育委員会が“たった一枚の苦情”をもとにまるで男女別学校の共学化が県民の総意であるかのように、そしてこの文言では多様な意見を尊重しているようにみせかけて、「主体的に共学化を推進していく」と結論付けることは、果たして民主主義を体現する教育機関としてあるべき姿でしょうか。もし県教育委員会に他者の意見を尊重する気持ちが少しでもありならば、せめて「主体的に共学化を推進するかを検討する」とすべきではないでしょうか。県教育委員会は、男女別学校を共学校にしなければならない学術的な裏付け、県内各地域の実情を地域単位でかつ中長期的に捉える視点、教育政策実施後にみられる効果と弊害を想定するための包括的な視点が全体的に欠けていると言わざるを得ず、「県民の意見を丁寧に把握する必要」性を認識していながら、県教育委員会の方針やその意図を十分かつ丁寧に説明しているとは言えません。 埼玉県教育委員会が民意をくみ取り、科学的な根拠に基づき教育政策を実行し、将来を担う子供たちに恥ずべきことのない機関であることを強く望みます。	1	「教育ニーズの多様化」については、学校生活上の困難を抱えている生徒や家庭の経済状況が困難な生徒など様々な背景を持つ生徒への支援など、教育をめぐるニーズの多様化のほか、社会の変化に応じて県立高校に求められる学びの内容が多様化していることも含めて認識しています。 今後、中学校等卒業人数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
175	25	P25 6「共学化の推進」について強く反対いたします。 ・別学の現役の高校生の過半数以上が共学化に反対していること ・公立高校を選ぶ際の選択肢が減ってしまうこと ・別学高校の生徒や教職員が築き上げてきた伝統が失われてしまうこと ・他県の例を見ると、共学化した場合、校名が変更されるのは女子校のみであり、ジェンダー平等の観点に反していること 以上の理由から、県立高校の一律共学化は反対いたします。	1	今後、中学校等卒業人数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
176	25	性的マイノリティ当事者団体の立場から「共生化の推進」に係る意見を申し上げます。 ジェンダー平等や多様性の理解・尊重がまだまだ実現していない日本社会において、別学の環境は一部の性的マイノリティにとって、サンクチュアリのような役割を果たしているという側面があります。例えば、トランスジェンダーでは制服による男女別の性別を常に意識しないで済むことや望まない性別に割り振られないこと、ゲイ・レズビアンでは典型的な男女規範の恋愛基準に日常的にさらされないことなどを理由に、別学を選択する者が少なからず存在します。 ゆえに、共生化の目的がジェンダー・マイノリティの救済も含めているのであれば、現時点での共生化はその目的の達成にはそぐわないものであると言えます。 当事者は今この瞬間も苦しんでおり、現在の共学校において「今この瞬間、多様性への理解の深まりが現にある」状態にするのが急務であり、その実現が無いまま別学を無くすことは「子ども達の選択肢を たた奪う」ことに他ならないため、私たちは現時点での共生化には反対です。 （「理解を進めていく取組の実現」では、当事者の今この瞬間 は救われない） 共学校においても同様の環境構築を目指すことに全く異論はありませんし、当会の目指す社会や学校のあり方は、県教育委員会の目指すビジョンと同じであろうと考えます。 ですが、別学を先に廃止してから同様の環境構築を目指すことは、今ある一部の当事者にとっての少しでも安全な環境が一度途絶えることとなります。それはとても危険なことです。別学校・共学校ともに、ジェンダー平等に向けた人権教育や包括的性教育が急務であり、そのような環境がしっかりと整ってから共生化を進めることを切に希望します。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共生化を推進していくことが必要だと考えております。 男女別学校の共生化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、全ての県立高校で、男女共同参画の視点に立った教育や、様々な人権課題に対応した教育、生徒の心と体のバランスに配慮した性に関する指導などを推進してまいります。	D
177	25	県全体として共生化推進に向かう流れは時代の変化に伴い、致し方ないのかなとは思いますが、一律に全ての別学校を廃止し共生化するというのは手放しで賛成できないと考えております。なぜなら、各学校には、今まで積み上げ、培ってきた貴重な校風、伝統、文化、教育環境があると思うからです。それらを鑑み、別学が共学がどちらが相応しいのか各学校の現状に照らし合わせ慎重に丁寧に検討する必要があると強く感じております。特に女子校に関してはあらゆる理由から別学を必要としている生徒もいると思います。女性の活躍を推進するに当たり、別学での経験が女性のリーダーを育成する上で大変有効であると強く感じます。共学においてもそのような成果が得られることが望ましいとは思いますが、思春期の３年間くらい異性の目を気にせず、力を発揮できる環境はかけがえのないものになるはずで。将来的に男女が本当の意味で同じように活躍できる未来を切に望んでおりますが、現在はまだ道半ばです。そのような未来が実現したとき、改めて共生化に向けて動いても遅くはないと思います。教育環境の多様性という観点から考えても、様々な選択肢を持つ県の現在の状況は子供たちにとってもむしろ豊かでめくれたものと考えます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共生化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共生化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
178	25	P25、関係者（在校生、OBOG、保護者、中学生）が望んでないことがアンケートで明らかになった県立高校共生化について、県教委が主体的に進める必要は全くない。特に定時制課程の女子校は様々な事情を抱えた生徒が様々な地域から通う貴重な場所、女子生徒にとって安心して高校課程の勉強ができる最後の砦と言っていい。こんな貴重な環境を共生化で失うのはナンセンスだと思ってしまう。昼間部の女子高校普通課程が志望生徒不足で保護者や生徒が望む共生化なら納得もするが、全くそんな状況ではない。断固撤回を望みます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共生化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共生化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
179	25	なぜ多様化が叫ばれている世の中で、別学を無くそうとするのでしょうか。別学が少なく、ほとんどが共学です。別学の存続を望む声が多い中、なぜ無くそうとしているのか全くわかりません。高校生たちが共生化反対の署名を多数集めたにもかかわらず、形だけの公聴会だけ開いて、共生化を推し進めるのはなぜなのでしょう。埼玉県は、最初から共生化ありきではないと言っていました、流れからは、最初から共生化ありきしか思えません。一度壊したものは戻すことはできません。ちゃんと県民、特にこれからの人たちの意見を聴き、検討してもらいたいと思います。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共生化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共生化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
180	25	P25 6. 共学化の推進について。 女子差別撤廃という理由。全く訳が分からない。文部科学省が公立/私学共に全て女子差別撤廃の為、男女別学高校認めないということであれば理解できる。ないのであれば、不合理な差別被害主張に埼玉県教育委員会は過度に反応し過ぎである。むしろ、少子化で男子校の定員が埋まらないという理由であれば納得できる。別学によっても「魅力ある高校」ができると思う。決して差別被害主張の理由で別学を廃止すべきではない。男女別学を望んで自ら志願してくる人の自由を奪わないでほしいと切に思う。	1	高校の3年間を男女が互いに協力して学校生活を送ることは意義があると考えております。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
181	25	2 5 ページの共学化の推進方針は全文削除すべきである。県教委が行った各種中高生・保護者アンケート結果に反していて、県民の声を反映していない。選択肢は多い方がよいと思います。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
182	25	教育委員会に対する勧告を読みました。第一に女性管理職や職員数の偏りの是正があるようですが、これは別学生徒とは直接関係なく、別学高校で学びたいという権利を侵しています。第二に「男女の定型的な役割の撤廃」とありますが、むしろ一緒に存在することによる甘えの発生があるかもしれません。異性に頼ることなく必要なことを自分で考え、準備し、後片付けもする。全ての事を自分でやりきるといふ3年間は貴重な体験ですし、いろいろなことに気付くことのできる大人になると思います。第三に女子が男子校への進学を許されないのは差別という苦情が、たった一件あったようですが、別学高校の存在は差別に当たらないという政府見解が出ています。 別学高校に行きたいという多数の意見を踏みにじらないでいただきたいです。 別学高校出身の私から「別学高校の効能」について書きたいと思います。女子高校で文化祭をやるとする。先輩を見ながら企画、立案、予算、準備、後片付け（必要ならプレゼン）……これぜんぶを男子に気を遣わず自分たちでできるんです。この経験ってすぐ会社とか自営とかで役に立ちますよね。そういう学校生活での経験が自信となり行動力になるのです。つまり、別学高校は男女共同参画にプラスに働くのです。皆さん別学高校の様子を理解していません。必要枠です。	1	高校の3年間を男女が互いに協力して学校生活を送ることは意義があると考えております。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
183	25	県立高校の共学化の推進に反対します。県男女共同参画苦情処理委員からの勧告書において、共学化推進の理由として「男女の役割についての定型化された概念の撤廃」が挙げられていますが、男女別学の学校において、「男女の役割についての定型化された概念」があるとは言えません。男女共学の学校では、男子と女子で、ある程度学校生活における役割が固定化されてしまっています。しかし、男女別学の学校では、共学校において異性が担っている役割を、男子あるいは女子のみで担うようになるため、男子と女子の役割についての概念は共学校よりも柔軟になります。そして、共学化推進の理由として「男女における教育の機会均等を確保」することも挙げられていますが、男女ともに、「同性のみの環境で教育を受ける機会」は確保されており、何ら問題はないと考えます。男女別学の環境でも男女共同参画社会づくりの視点からも問題は無く、現存する男女別学の学校を共学化する理由はありません。今後の人口減少に伴い、男女別学の学校を統合し共学にすることはともかく、すべての学校を共学化することは、教育の多様性を損なうと同時に、「男女別学に行きたい」という学生の声を無視することになります。現在、男女別学の県立高校は全体の8%に過ぎません。この状態から更に高校の共学化を推進していくことに強く反対します。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
184	25	共学化の推進について、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められるとあるため、男女別学を希望する生徒の選択肢を奪って共学化を推進することに疑問を感じます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
185	25	埼玉県は公立高校は、男子校・女子校・共学校が全てあるため、選択肢があることは良いことだと思います。高校生の時期に女子校に行って学んだことは勉強以上に女性として生きていくことへの自信と自立だと思います。卒業生が多様な分野で活躍していることは、長年にわたって培われた校風のたまものです。良い歴史と伝統は、一朝一夕にはできあがりません。是非、この良い歴史と伝統ある男女別学の選択肢を無くさないでください。私立中学・高校は、学費もかかります。埼玉県は東京都のように、私立高校無償化も行っていないです。男女別学に行きたい埼玉県民の選択肢を無くさないでほしいです。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、県では、高校に通う生徒の修学を支援するため、学費負担を軽減する制度など様々な修学支援制度を用意しております。リーフレットを配布するなど、支援制度の内容の周知に努めてまいります。	D
186	25	埼玉県は県立高校でも共学と別学を選べるすばらしい環境にあると思っていました。県立に男子校女子校が存在することが差別に当たるとは思えません。現役の学生さんたちが忙しい時間を割いて署名活動をして訴えたにもかかわらず、引き続き共学化を推進していくとはどういうことでしょうか。それぞれの学校の個性を大切にしてほしいと願っています。伝統ある高校にはたくさんの卒業生も居て、母校のその後をずっと見守っているものです。誰一人として共学になってほしいと思う方はいらっしゃらないはずです。	1	高校の3年間を男女が互いに協力して学校生活を送ることは意義があると考えております。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
187	25	県立高校の共学化に反対します。 共学化に関する卒業生の意見561通を、2024年1月以降3回に分けて県教委にお送りしました。意見の96.6%は共学化に反対です。しかし、措置報告書は「主体的に共学化を推進していく」という結論となっており、極めて残念です。一方、措置報告書には、男女共同参画苦情処理委員が求めていた「男女共同参画推進のために共学化する」という文言は見当たらず、「共学化で平等は実現せず、むしろ女子校は男女共同参画に貢献している」という主張は聞き入れられたと受け止めています。男女共同参画推進のために共学化するのでないのなら、県教委は勧告を一旦退け、別の理由による共学化の是非を県民に問うべきでした。魅力ある県立高校づくりの方針（案）には、別の理由として、「少子化」「多様なニーズ」などが挙げられていますが、それらについて納得できる説明はなされていません。よって、25ページ「6共学化の推進」は削除することを求めます。別学校の維持・発展こそ埼玉県立高校の魅力を高める方策である、と発信を切り替えていただくことを希望いたします。	1	高校の3年間を男女が互いに協力して学校生活を送ることは意義があると考えております。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
188	25	魅力ある県立高校づくりの方針（案） 25ページ「共学化の推進」について 女子高校の卒業生です。当時は常に男子がリーダーで女子はサプリーダーという位置付けでしたが、女子校では女子でもリーダーになることができ、とても刺激的で楽しい高校時代を過ごすことができました。別学と共学にはそれぞれ良い面があるので、人によっては個性を伸ばすには別学が良いと考える人もいます。公立高校で別学と共学のいずれも選択肢があるという環境が非常にすばらしいと考えます。是非、埼玉県の特色ある高校づくりの一環として、別学校の存続を要望します。全ての高校を共学にはしないでほしいです。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
189	25	「男子高校が女子の入学を拒むのは不適切だ」の苦情から始まった共学化への動きだが、昨年実施した中高校生、保護者のアンケート結果は、別学維持の意見が圧倒的に多かった。それなのに教育委員会は共学化を推進するとの方向性だが、アンケート結果を全く考慮していない。強いては、一人が発した上記の苦情を県民の多くのアンケート結果より尊重することは民主主義にも反してゐるのではないか。在校生からも提出された意見書の数と一人の苦情、そこを教育委員会はどのように考えているのか説明が必要。県民の皆様御意見を考慮し「魅力ある県立高校づくりの方針」を策定するというこの施策もまた形だけの素振りでないかと疑念を持つほど、今までの対応に不信がある。少子化が進む中、高校の編成をしなくてはならないのは理解できる。倍率が1を常時切っている学校の編成、商業、工業、農業高校などを統合し総合高校へ移行するなどやり方はいろいろあるだろう。たった一人の苦情、苦情委員会の意見で、埼玉県伝統である別学、伝統校の存続支持が多い中、こうも簡単にかじ取りを変えてしまう教育委員会は理解できない。そこをしっかりと説明できるのか。別学、共学は生徒たちにとって学校選択する上で大きな要素であり、選択の自由を大人数で奪うべきではない。公立校で別学、共学それぞれに利点があり、選択できる埼玉県の環境は素晴らしいこと。現在ある別学校は長くの伝統があり、それぞれ培った校風、行事もある。SSH校で進学実績も良い。別学の伝統校に誇りを持って通学している在校生、卒業生のことをもっとしっかりと考えてほしい。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
190	25	共学化を進めていく上で、川越高校と川越女子高校をそれぞれ共学化した場合、中学生は川越女子高校の方に人気が集まるのではないかと。川越女子高校の方が駅から近い。また、男子校からの共学化は例が少なく女子が入学するのに躊躇してしまうように思う。そこで、川越高校は中高一貫校にして、中学校に入学する際に男女で募集をかけることを提案いたします。そうすることによって女子も抵抗なく入学することができるのではないかと。また、川越高校と川越女子高校の差別化を図ることになり、共に進学校として魅力ある学校になるのではないかと。	1	男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 具体的なことをお示しすることはできませんが、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えています。 また、更に生徒数が減少していく中で、一定の学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 再編整備の対象となる学科・学校等については、全県を俯瞰（ふかん）しながら「再編整備の観点」を踏まえ総合的に検討してまいります。 中高一貫教育校の設置については、今後の児童生徒数や近隣中学校への影響などを考慮しながら、検討してまいります。	D
191	25	県立高校の共学化を推進しているとのことですが、もし共学化されれば別学を希望する生徒の選択肢は私立高校ということになるかと思いますが。県では給付型の奨学のための給付金や貸与型の奨学金による支援のほか、入学金や授業料の減免など様々な対応をしてくださっていますが、高校での教育費のうち入学金や授業料はほんの一部です。私立高校では更に別の部分での出費が大半を占めます。家庭の経済状況が困難な生徒には共学という選択肢しか残されない状況になるでしょう。 異性が苦手で学校に通うのが困難な生徒も含め、経済的理由から県立高校を望む生徒にも様々な選択肢を残していただきたいと思います。共学化によって新たな差別、経済的差別による教育の機会に差が生じることのないよう御検討いただければと思います。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、県では、高校に通う生徒の修学を支援するため、学費負担を軽減する制度など様々な修学支援制度を用意しております。リーフレットを配布するなど、支援制度の内容の周知に努めてまいります。	D
192	25	共学化の方針についての異義があり、このように意見を述べさせていただく次第でございます。共学化に当たって、「県民の意見を丁寧に把握する」という事項がありますが、以前から行われている県民アンケートの結果があまり把握されていないような気がいたします。また、「教育ニーズが多様化していく～個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意する」のであれば、むしろ別学は残しておくべきであると考えます。別学校の志望倍率は県内平均を超えているところも多く、少子化の波に囚われず高倍率を維持している。県民からのニーズは十分にあると捉えられます。別学校は埼玉県の魅力であり伝統です。失われた伝統は2度と元には戻りません。どうか今一度、共学化という判断の重みを認識していただたく存じます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
193	25,26	1. 共学化推進の発端となった苦情を見ると、これを取り上げたことの経緯や理由が不明瞭である。 2. アンケートを実施したにもかかわらず、P25の内容には、全く反映されていない。 3. 少子化対策として、県立高校の統廃合を進めるために、共学化を利用している。共学化と統廃合は同じ次元で捉えるべきものではない。埼玉県の別学校の歴史と文化を壊すことは、県の財産を失うことと同じである。歴史文化を守ることは大変ではあるが、これも教育の一つではないだろうか。 1・2・3の理由により、P25共学化推進の削除を求める。	1	県教育委員会としては、県男女共同参画苦情処理委員からの勧告は、埼玉県男女共同参画推進条例に基づき、県男女共同参画苦情処理委員が当該苦情について調査した結果、勧告の必要があると認めてなされたものと受け止めています。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。 また、再編整備は、今後更に生徒数が減少していく中で、一定の学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図るために実施する必要があると考えております。	D
194	25	P25「6 共学化の推進」に記されている、県教委が「主体的に共学化を推進していく」旨の方針に反対である。現在の別学校を継続維持していくべきである。 理由は、当同窓会が既に提出している「意見書」3通（令5.12.1.付、令6.7.8.付、令6.11.18.付）に記載のとおりである。	1	貴団体から頂いた意見書については、拝見させていただいております。御意見として承りました。 引き続き県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
195	25	熊谷高校の共学化には強く反対します。 その理由として、第一に、埼玉県を代表する男子校として数多くの優れた人材を輩出してきた歴史と伝統を有しています。この伝統を守ることは、地域や卒業生にとって大きな意義があります。 第二に、男子校ならではの教育環境には、異性を意識することなくのびのびと学び、自由に意見を交わすことができるという特長があります。この環境が、生徒たちの学問的・人格的成長に寄与していることは疑いありません。また、部活動や生徒会活動で発揮される団結力や一体感も、男子校の独自性によるものです。 さらに、共学化には施設改修費や文化調整など多くの課題が伴い、学校や生徒に大きな負担を強いる可能性があります。熊谷高校の歴史と男子校の良さを守り、埼玉県全体の教育の多様性を維持するためにも、共学化は再考されるべきです。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
196	25	少子化による生徒数の減少という物理的な事情に対応するには共学化はやむを得ないだろう。中学も大学、社会も男女が併存する場なのだから、高校だけ別にいることにどれだけの意義があるというのか。社会は男女が協働し、官公庁、主な企業はいずれもジェンダー平等を方針としている。そのような状況で高校のときだけ別学でいたら弊害の方が大きい。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	B

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
197	25	p.25 6 共学化の推進 は全文削除されるべきであります。その理由は下記①-④の通りです。 ①アンケート結果をはじめとした県民の直接的な声が反映されておらず、長期間にわたって地域住民に親しまれている別学校を廃止する合理性がありません。 ②"男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していく。今後、中学校卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められる。”ことが、“主体的に共学化を推進していく” ことと論理的整合性があります。具体的には下記のa-fの通りです。 a 県教育委が行った各種中高生・保護者アンケートでは別学維持が支持されています。 b オンライン署名でも別学維持に約2万9千件の署名が集まっています。 c 2 0 2 4 年 1 2 月 2 6 日に浦和駅付近で行われた別学維持を求めるデモには平日日中にもかかわらず 2 5 0 人もの参加者が参加していることから別学維持を求める強い民意が存在すると考えられます。 d 中学校卒業生数の減少と別学校の共学化とは無関係です。 e 教育ニーズが多様であれば、別学校はコストをかけても維持するべきです。 f 日本の教育のジェンダーギャップ指数は0.993（2024年）であり、既に国際的に高い水準で教育の男女の機会均等が達成されています。 ③苦情申出は、そもそも無効です。その理由は、この制度で調査できない場合として人権を侵害された旨の申出が当該申出に係る人権の侵害があった日から1年を経過した日以降にされたとき、に該当するからです。具体的には、当該苦情等の申出の概要（具体的な内容と経緯）の①いつ が1「女子差別撤廃条約」に日本が批准した時点から、とあります。1985年6月25日から1年以上が経過していることは明白です。 ④ 県男女共同参画苦情処理委員からの勧告書にある、「人格形成において・・・問題を起こしている」及び「男女共同参画社会づくりの視点から・・・問題を起こしている」については 国の見解とは異なります。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 県男女共同参画苦情処理委員からの勧告は、埼玉県男女共同参画推進条例に基づき、県男女共同参画苦情処理委員が当該苦情について調査した結果勧告の必要があると認めてなされたものであると受け止めております。また、勧告書に記載のある「人格形成において・・・問題を起こしている」及び「男女共同参画社会づくりの視点から・・・問題を起こしている」という部分は、平成13年度の県男女共同参画苦情処理委員の勧告の趣旨を述べたものと受け止めております。	D
198	25	男女別学校の共学化について反対を述べさせていただきます。 ・好んで女子校を希望している女子への差別につながるのではないかと。男子においても同じことが言えるのではないかと。 ・埼玉は共学、男女別学、中高一貫等、まれにみる多くの選択の自由があります。これこそが多様性です。 ・欧米では行き過ぎてポリコレを見直す動きが出ています。遅くらず日本でもこの動きは出るはず。一度誤った判断をしても再度見直すことが難しくなるのではないかと。 ・他県では既に男女共学にしたために、学力のレベル低下の例が出ています。 ・全国的にみてもトップクラスの学校を無くすと、優秀な学生が私立に流れると思う人もいるかもしれないが、私立は学費以外にも多額の費用が掛かります。経済的に私立に行ける家庭ばかりではないことを理解いただきたい。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 また、県では、高校に通う生徒の修学を支援するため、学費負担を軽減する制度など様々な修学支援制度を用意しております。リーフレットを配布するなど、支援制度の内容の周知に努めてまいります。	D
199	25	男女別学の共学化推進に反対します。 署名活動やアンケートで多くの現役生徒たちや卒業生たちが送った共学化反対の意見を反映させていただきたいです。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
200	25	男女共学化に反対します。 男女別学の高校はどれも伝統校であり、その高校独自の校風があります。その伝統、校風に憧れて志望してくる生徒たちの自由を奪わないでいただきたいと思います。卒業生は皆、自分たちの母校に誇りを持ち、社会に出てからも活躍している方は多くいます。 別学、共学は共に切磋琢磨（せつさたくま）する関係にあると思います。共学にすることのみが教育の選択の自由だとする考えには賛同できません。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
201	25	共学化を実施するには、その目的及び現時点の教育委員会の検討、説明が不十分であることより、25ページ「6共学化の推進」の削除を求めます。 ・少子化に伴う高校数削減と別学校の共学化は主旨が異なります。 ・ほとんどの別学校は入試倍率も高く、それは、受験者がその学校に魅力があると感じているからです。アンケートには反映されていませんが、在校生、卒業生が別学維持を支持するのは、その魅力を誰よりも実感しているからです。 ・現在の埼玉県立高校における別学、共学のバランスは他県に比類のない、理想的な形態と感じています。単位制や専門学科等選択肢があり、多様なニーズが考慮されていると思います。 ・別学校の多くは、埼玉を代表する高校であり、埼玉の顔として誇れる教育機関であり、将来を担う人材を育成してきた実績、伝統、文化があります。別学校を維持し更にブラッシュアップを図ることにより、埼玉県発展に寄与するものと考えます。 ・共学化推進の教育委員会の検討過程、特に発端となった苦情処理が1件であり、別学校在籍者1万人と比較すると、あまりにも偏った意見の採用です。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。 なお、再編整備は、今後更に生徒数が減少していく中で、一定の学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図るために実施が必要であると考えております。共学化の推進については、「第3章 県立高校における教育活動・教育環境」に記載しており、「第4章 県立高校の再編整備」には記載しておりません。	D
202	25	県立高校の共学化に反対です。 ・埼玉県立別学校は、伝統、名門校がほとんどです。このような学校は、その伝統、文化、校風を引き継ぎ、埼玉県のみならず、中央省庁、政財界、医療分野、その他様々な分野で活躍されています。県の宝である高校の長所を壊すことには賛成できません。貴案では、特にこのことについて説明がなされていず残念です。目に見えないものこそ大切にすべきです。 ・公立高校の統廃合が進められている大阪においても、難関大学への進学率が高い、伝統/名門校は、マイナーな変更はあれど伝統を破壊するような統廃合の対象とはなっていません。 ・共学校出身ですが、思春期の一時期を別学で過ごすことに何ら悪いことはなく、むしろ、生徒各自の個性によっては、別学でこそ伸ばすことができる能力、資質があるのではないかと感じております。 以上より、貴案25ページ「6共学化の推進」は削除し、再検討を希望します。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
203	25	男女別学の共学を推進していますが強く反対します。多くの子どもたちが望んでいるわけではなく、少子化に向けての安易な統廃合であると考えられます。これまでの伝統歴史を大切にしたいです。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
204	25	共学に移行についてですが、私立は共学・男子校・女子校と選択する事が可能です。志望する上で重要な点だと思います。この選択肢は公立校にも残してほしいと思います。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
205	25	公立高校の共学化への反対意見及び県教委への要望 埼玉県男女共同参画苦情処理委員から提出された勧告書(以下、「勧告書」とする)は以下の点で不適切であり、その勧告内容を反映させた「魅力ある県立高校づくりの方針(案)」もまた不適切である。 ・勧告書の第5 1で挙げられた各法令について 性別に基づいた異なる取扱いが直ちに不合理な差別に当たると考えているように見受けられるが、それは判例の立場ではなく誤解を招き得る表現である。また、後述するが、民意や伝統以外にも十分に法的に正当化し得る価値を保っている。女子差別撤廃条約上、男女別学は直ちに同条約違反にならないということそれ自体が、同条約の目的を達成するための手段の多様性や締約国ごとの対応の幅を認めるという趣旨が反映されているのであり、もし同条約に基づいて男女別学を廃止するのであればそれこそ同条約の趣旨に反するものであるから、同条約は直接の理由にはならない。仮に条約を引き合いに出すのであれば、男女別学では同条約の目的を達成できないと主張する必要がある、その理由こそが説明されるべきである。しかし、勧告書はこの点について一切説明していない。男女共同社会参画法については、主として教職員の男女比率や配置に関する指摘だったが、男女別学とは直接には無関係な事情であるので、まず分けて考えるべきである。男女別学が原因で一定の歪みが生じるのであれば、その部分を明らかにするべきであり、解消のためにどうしても男女別学を維持できないことを明示すべきである。次に勧告書がカバーしきれなかった論点について述べていく。憲法や条約を持ち出してこの苦情に向き合い、また男女別学を廃止するのであれば、特に埼玉県内の男女別学の私学においては県から補助金を得られるか否かの議論にもなり得るため、いかなる理由で男女別学を廃止するのかについては俯瞰的体系的な議論が欠かせない。もう一つの点として、私学の男女別学を認めたまま公立の男女別学がなくなることで生じる別の差別についても言及しなければならない。端的に言えば、男女別学への進学を希望する生徒は私立高校しか選択肢がなくなり、資力に富む家庭の生徒しか男女別学を選べないという状況が発生する点だ。男女別学が好まれる理由としては、心身の成長が伴う多感な時期に異性の目を気にせずに済むことや、小中学校時代に異性の生徒児童への苦手意識を抱えてしまったままでも高校に進学できる点が挙げられる。公立高校がこの要望に沿わなくなるとことは、様々な事情を抱える生徒にも幅広く教育の機会を提供するという使命を放棄することにもなる。つまり、当初の苦情においては男子校に入学したい女子生徒とそれを拒む男子校側という公法関係が問題とされたが、実態としては異性への苦手意識を抱えたままでも男女別学校において高校教育を受けたい子女と男子校に入りたい女子生徒との間で権利の衝突が起きている側面をもつ多面的問題なのである。このように複雑な問題にあって、機械的な男女平等の取扱いの論点だけを切り出して考えること自体が不適切と言わざるを得ない。勧告書の不適切な点として、公立高校の男女別学の存続は法的に許されないのか否かについて言及がないこと、あるいは女子校は許容されるのではないかなどの各論がぼやけている点であるので、県教委としては法的判断と政治的判断を混交することのないように留意されたい。 ・第5 2 社会的な動向・他県の状況についての反論 勧告書は「2 社会的な動向・他県の状況について」の最終段落において「男女共同参画のために共学化が必要であるとの認識は、すでに社会共通の認識に成熟しているものと考えられる」と結んでいるがこれは大きな誤りである。 「男女共同参画のために共学化が必要である」という主張自体がま全く誤っており、したがって「社会共通の認識に成熟している」のではなく誤解がまん延しているのである。2 0 2 4年のジェンダーギャップ指数において、イートン校などの名門男子校が多くの首相を輩出している英国は総合1 4位を占めており、これは男女別学を残したままでも男女共同参画社会を構築し得ると評価して良いはずである。真に男女共同参画社会の実現を図るのであれば、むしろ真っ先に手を付けるべきは政治・経済分野であって、既にトップクラスの評価を得ている医療・教育分野ではないはずである。 そして、勧告書においても指摘があったとおり、公立の男女別学は減少傾向にある。私学以外に男女別学が無くなっていくということは、男女別学文化を共有できる者が有資力者の子女に限定されていくことを意味する。このことの文化的、政治的影響は否めないと考えている。文化的影響においては、共学出身者の友人と話はするが、別学はやはりなかなか異世界であるらしい。ゆえにそのまま残しておくことが求められると考える。政治的には、ゲーテッドコミュニティ化を助長しかねない点である。このような政策的配慮として、私学における男女別学が維持されるうちは、公立学校においても男女別学を一定程度維持するのむしろ必要だ。以上に挙げた諸価値は、公的機関が性別に基づいて異なる取扱いをすることについての正当化事由に十分なり得るはずである。共学化をするのか別学を維持するのかの主体は各校設置者において判断するべきというのが政府解釈ではあるが、その判断について県民に対して説明責任を負うことは言うまでもない。そして、説明責任を果たす際には、法的判断と民意のしんしゃく結果は分けて述べる必要がある。というのも、法的判断は常に白か黒かだからである。特に、男女別学の維持は不可能と言う憲法判断を下し、民意によらずに出した結論なのか否かはこれを明示する必要がある。勧告書のような法と民意との合わせ技一本にも読み得るとことはあり得てはいけい。最後に、勧告書の不適切性の中核は、法的判断と政治的判断が混濁している点にあるということとは重ねて申し上げる。	1	県教育委員会としては、県男女共同参画苦情処理委員からの勧告は、埼玉県男女共同参画推進条例に基づき、県男女共同参画苦情処理委員が当該苦情について調査した結果、勧告の必要があると認めてなされたものと受け止めています。県男女共同参画苦情処理委員からは、男女別学であることだけでは条約違反とされていないものの「男女共学その他の種類の教育」を奨励することにより、男女の役割についての定型化された概念の撤廃が求められており、共学化が早期に実現されるべきとの勧告を受けました。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D
206	25	埼玉県独自の魅力ある特色として、別学校を残してほしいし、親としては、子供たちの多様な選択肢を狭めないでいただきたいと思います。少子化なのは分かりますが、だからこそ一人一人に充実した教育を受けさせられる環境を作ってほしいなと思います。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D

番号	該当ページ	御意見の概要	意見数	県の考え方	反映状況
207	25	共学化に反対です。男性と女性は、たとえば体力や生まれつきの成長の違いがあります。女子だけの高校で、女子にあった教育で能力が伸びると思います。県立で別学があり、それぞれの良さを伸ばせるのに共学化してしまうのは、今後の日本の発展にも、とてももったいないです。共学がよいと思う人は、共学の学校を選べばいいです。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
208	25	県立高校には既に他の県が持つことの出来ない魅力ある県立高校が存在していることに、気が付いていないのではないかと思えてなりません。方針案では、別学高校の共学化について明記されていませんが、再編成を考える段階では、対象になることはあり得ると言っています。埼玉県公教育の質を高め、けん引してきたのは、この別学高校であることを忘れていませんか。埼玉県には、高い学習意欲を持つ優秀な子供たちがたくさん育っています。それを支えているのは両親から祖父母へと続く長い世代の人々と地域の人々です。100年を超える伝統校、別学高校を支えてきたのは、教育委員会ではありません。勉強をしたいという子供たちの強い意志とそれを支えてきた埼玉県の地域の人々の力です。その大切な学校の存続を、数年単位で任期の切れる教育委員が決断をするなどありません。どの高校も圧倒的な知名度を持っており、書ききれないほどの実績のある魅力的な高校です。これら高校は埼玉県民の財産といえるでしょう。これらの高校の魅力を更に広げていく案がなぜないのですか。もったいないとしか言いようがありません。県内の子供たちが、別学高校を残してほしいと34,000筆あまりの署名を提出していますね。2027年までを期間とする国の第4期教育振興基本計画において誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進と国は言っていますが、これとは違うように思います。国が進めていることをなぜ埼玉県ではできないのですか。34,000人の子供たちの勉強したい場所を奪い、学習意欲を削ぎ、更には子供たちの学ぶ権利の侵害になっていないでしょうか。また、一人一人の多様な可能性を伸ばす、と言っていますが、別学高校でなければ伸びない才脳、個性があります。「主体的に共学化の推進」を推進していく、という教育委員会の文章は削除していただくことが適当と考えます。多様性の時代と言われています。男子高校、女子高校、共学高校それぞれを今の埼玉県の子供たちは選択することができます。是非伝統校も生かした埼玉モデルを作してほしいと思います。公教育に別学高校は有り得ないなどと共学化ありきの議論はやめていただきたいです。強引に共学化を進めれば、優秀な別学高校志望者は東京に進学し、埼玉県の公教育の質は低下することになるでしょう。そのようなことも思慮に加えていただきたいと思います。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。 学科改編や学校の統合など再編整備は、今後更に生徒数が減少していく中で、一定の学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図るために実施する必要があると考えております。 なお、共学化の推進については、「第3章 県立高校における教育活動・教育環境」に記載しており、「第4章 県立高校の再編整備」には記載しておりません。	D
209	25	25ページの「共学化の推進」について、以下の理由で一律的な共学化には躊躇します。 ・共学を望む声は、本来現場から上がるべき 現在別学の高校に通う現役の高校生・現場の教員から共学化を強く求める声が上がっているならば、現場の意見として真摯に取り上げるべきです。埼玉県に残る別学制度は、全国的に見ても貴重な存在であり、それは維持すべきと考えます。 ・共学化による伝統の消滅があまりにも大きいこと 別学高校がそれぞれ培ってきた伝統は非常に大きく、重く、大切なものです。卒業生たちは母校に誇りを持って社会に羽ばたいています。伝統の消滅を「共学化」という単純な時代の流れ「だけ」で推し進めてはあまりにも惜しいと考えます。 ・埼玉県らしさが失われてしまうことへの危惧 近年、全国では共学化が進む中、別学を維持してきた埼玉県は、全国に対して「自分たちらしさ」を維持できた稀有な自治体と言えます。もし世の中の流れにのまれて埼玉県も共学化になれば、再び別学高校に引き返すことはできません。単に男女平等を目指すというのが目的であれば、むしろ県知事や自治体トップ、各種役職の女性就任率をまずは高めることが先決と考えます。埼玉県は埼玉県として気持ちを強く持ち、県民にとって大切な財産である別学を保持していただけたらと願っております。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
210	25	P25「共学化の推進」の項目全体の削除を要求する。 政府は別学を認めている。埼玉県で別学が認められないのはおかしい。 県民による反対のウォーキング、県民アンケート、別学校当事者の意見聴取会、どれをとっても民意は総じて反対である。 県民の意見を無視し、共学化の推進を進めることは、「こども・若者基本条例」第12条（こども・若者等からの意見聴取及び意見反映）に違反している。県民や別学に通う生徒の意見を反映させるべきだ。共学化を推進する理由の説明を求める。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当ページ	御意見の概要	意見数	県の考え方	反映状況
211	25	男女別学は魅力ある施策。共学、別学がどちらも選べる都道府県は少なく、埼玉県はとても魅力があると思います。是非、別学の県立高校を残してください。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D
212	25	P25「共学化の推進」の項目全体の削除を要求する。 政府は別学を認めている。埼玉県でも認められるべきである。 「県立高校の特色化に向けたアンケート」結果から、明らかに男女別学を支持する値が高いことを示す結果となっている。別学を無くすことは多様性を望む県民のニーズに反している。共学化反対署名が民意である。 私立の共学と別学、県の共学と別学と、選択肢がある現在の埼玉県は他県と異なり「魅力がある」といえる。民意は共学と別学の共存を求めている。共学化反対の署名提出、意見交換会、250人以上の県民による共学化反対ウォーキング、中高生・各保護者へのアンケートを無視し共学化を推進することは、「こども・若者基本条例」第12条（こども・若者等からの意見聴取及び意見反映）に違反している。 県民や別学に通う生徒の意見を反映させるべきだ。共学化を推進する理由の説明を求める。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
213	25,30	25ページの「6 共学化の推進」を削除し、この点について30ページに「（6）別学校の共学化」を加え、以下のとおり付記すべきである。 「共学化を目的に再編しますが、検討の中で別学校が再編の対象となり、共学化を検討することはあります。」 令和5年の勧告は、苦情申出の内容を逸脱し「共学化を早期に実現されるべき」とした違法なものである。さらに、令和6年の報告は、この違法な勧告に呼応して「主体的に共学化を推進していく」とした違法なものである。また、今回の意見募集に際し、県教育委員会は「共学化を目的に再編しない。検討のなかで別学校が対象となり、共学化を検討することはありえる」と述べていることからみても、25ページの記載を削除すべきである。	1	県教育委員会としては、県男女共同参画苦情処理委員からの勧告は、埼玉県県男女共同参画推進条例に基づき、県男女共同参画苦情処理委員が当該苦情について調査した結果、勧告の必要があると認めてなされたものと受け止めており、措置報告書はその措置状況を報告したものです。 今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 学科改編や学校の統合など再編整備は、今後更に生徒数が減少していく中で、一定の学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図るために実施する必要があると考えております。 なお、共学化の推進については、「第3章 県立高校における教育活動・教育環境」に記載しており、「第4章 県立高校の再編整備」には記載しておりません。	D
214	25	25ページに記載の「6.共学化の推進」について反対いたします。 別学においては、アンコンシャスバイアスから生じる性別による役割分担もなく、女子であってもリーダーに積極的になることができます。意見も自由に述べられる環境であるし、趣味も男子だから、女子だからということ意識せず公表することもできます。この3年間で培った考え方が、その後、男性がいる社会においても臆することなく対応することができるようになります。そのような高校が県立高校で存在していることが、むしろ、とても魅力あるものと考えます。 近くに共学校もある中で全ての県立高校を共学化とする動きを取ることは、魅力を失うことにつながると考えます。	1	高校の3年間を男女が互いに協力して学校生活を送ることは意義があると考えております。 今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
215	25	P25 共学化の推進について反対します。 ・女子差別撤廃条例では男女別学校の存在は違反とされていません。 ・勧告では上記を誤認して提出されていますが、最終的に修正がなされています。修正後も共学化を結論としていますが前提が崩れている以上、論理が破綻していると考えます。 ・“男女の役割についての定型化された概念の撤廃”については、共学化ではなくむしろ男女別学の環境を用意しておくこそ男女の役割の固定化を防ぐ一助になると考えます。別の性が存在しない環境下で、共学校であれば男女それぞれが担当しがちな役割を必ず片方の性が全て担うことになります。その経験により自信や関心を得られるだけでなく、進路・職業の選択上必ず次につながります。社会全体の性別による役割の固定化を防ぐことに一定の効果があると考えます。 ・男女別学校については各校いずれも比較的高い偏差値を示していることは周知の事実であり別学高校のニーズを裏付けています。需要のあるものをなくす必要はないと考えます。	1	県男女共同参画苦情処理委員からは、男女別学であることだけでは条約違反とされていないものの「男女共学その他の種類の教育」を奨励することにより、男女の役割についての定型化された概念の撤廃が求められており、共学化が早期に実現されるべきとの勧告を受けました。県教育委員会としては、県男女共同参画苦情処理委員からの勧告は、埼玉県県男女共同参画推進条例に基づき、県男女共同参画苦情処理委員が当該苦情について調査した結果、勧告の必要があると認めてなされたものと受け止めています。 今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 また、男女共同参画の視点に立った教育については、全ての県立高校で推進していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
216	25	県立高校の共学化に反対します。 なぜなら別学は魅力ある県立高校だからです。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D
217	25	P25「今後県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していく」としている。今後丁寧に意見を聴取していくというのであるから、「共学化の推進」という方針は、最新の県民の意見を反映されているとは言えず、項目自体を削除してほしい。 ・別学校には文教都市としての特色を形成してきた歴史と意義があり、県内首長の中にも別学維持の意見を持つ方も出てきているので、別学地域の首長の意見も聴取の範囲に含めてほしい。 ・埼玉県県の県立高校には、男子校、女子校、共学校という他県には見られない多様な進路選択肢が用意されており、この多様性を存続することこそ、「魅力ある県立高校づくり」の柱の一つである。たった1件の苦情に基づいた勧告よりも多くの県民の意見（世論）を重視するのが民主的手続きである。結論ありき、先走りの方針決定であり、行政手続きの面からも重大な問題な点があるため、項目自体の削除を求める（より丁寧に慎重なプロセスが必要）。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
218	25	25ページの"共学化の推進"に反対します。埼玉県の進学校上位3校には男女別学校と共学校があり、選択が可能です。これこそが魅力ある県立高校であると考えております。共学にも別学にも、それぞれ短所と長所があり、個人の好みもあるので、一律に共学化を推進する事には納得がいきません。 また昨今は男子校は共学化、女子校はそのまま残すという世間風潮がありますが、その場合は女子校だけが存続しても魅力ある県立高校づくりの方向性とは異なってくると思います。民意を確認して、県民の納得のいく方法で検討いただきたいです。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
219	25	P25の共学化の推進については、断固反対で全文削除してください。県教育委員会が行った各中高生・保護者アンケート結果、あれだけ反対の声が上がったのに、なぜ共学化推進を進めるのですか。横暴極まりないです。県民の声を全く反映していない。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
220	25	埼玉県立の女子校の卒業生です。共学化に賛成です。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	B
221	25	埼玉県立の女子校の卒業生です。母校の名前が無くなってしまうことは寂しさを感じますが、最近の流れから共学化にはなっても良いと考えてます。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	B

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
222	25	2030年4月までに別学校を全て共学にすること。特に浦和高校の共学化は必須である。東京大学に男子だけでなく、女子も多数送り出すためである。今現在、東京大学の学生男女比は、男子8割、女子2割で男子に偏っている。合格者の多数が男子校出身者であるからである。それゆえ、一番手っ取り早い解決法は、東大に多数の男子を送り出している学校に、女子も入れるようにすることである。実力があるならば、女子であっても、東大に行くべきである。大手企業の役員や官公庁、政治家、大学教授などの日本社会を担うリーダーに女性を積極登用したいのであれば、東大に女子を多く送り出さないといけない。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えております。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 具体的なお示しすることはできませんが、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えています。	D
223	25	魅力ある県立高校をつくるなら男子高校、女子高校を存続させるべきです。県民の声を全く反映していないのは明らかです。（アンケート、署名より）県民の大多数は共学化に反対しています。このまま、共学化を推進する姿勢を保持すると本当に埼玉県は潰れてしまいます。共学が いい人は共学の高校を選べばいい。別学がいい人は別学を選べばいい。国立、私立の別学があるように、法違反ではありません。男子高校、女子高校ならではの、伝統の行事は無くしてはなりません。歴史は財産です。高校生は伝統を守り、プライドを持っています。希望であふれる若者の未来を奪わないでください。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
224	25	私は埼玉県立の女子高校の卒業生です。共学化に反対します。在籍時も共学化の論調がありましたが、保護者等の反対で無くなったはず。不登校でしたが、私は女子とは関係よくできていたので、女子校を選びました。多様性をうたうならば、選択肢を奪わないでください。不登校が増えているので、ここなら通えそう、頑張れそうと思う生徒を受け入れる学校を無くさないでください。 P25の共学化推進方針は全文削除すべきである。県教委が行った各種中高生・保護者アンケート結果に反して、県民の声を反映していない。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、別学校・共学校にかかわらず、全ての生徒が安心感、充実感を得て、有意義な学校生活を送ることができるよう努めてまいります。	D
225	25	政府が別学を認めているのに、埼玉ではなぜ認められないのでしょうか。反対の署名、県民へのアンケートでもどの年代も共学化を進める意見は少ないです。民意は共学化を求めているからです。91%は既に共学なのですから、12校を共学化したところで、男女共同参画は実現するのでしょうか。問題は別にあると考えます。 よって、P25「共学化の推進」の項目全体の削除をすべきと考えます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
226	25	共学反対。異性が周りにいることが、勉学の妨げになる。多様性の時代において、全て男女共学にするというより、個性があり、女性がのびのび学べる女子校を残すべきである。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 また、別学校・共学校にかかわらず、全ての生徒が安心感、充実感を得て、有意義な学校生活を送ることができるよう努めてまいります。	D

番号	該当ページ	御意見の概要	意見数	県の考え方	反映状況
227	25	埼玉県公立別学高校の共学化に反対です。 埼玉県の別学高校はどれも評判がともよく、年月を重ねて培われた伝統もあります。優良な学校として確立している高校をわざわざ解体してしまうのは、未来の子供たちにとって非常にもったいないです。 共学に行きたい子供には共学の選択肢が、別学より多くあります。 男女共同参画が日本よりも進んでいる、英国やニュージーランドでも公立高校で男女別学と共学の選択肢がありますが、不平等問題になることはありません。 男女別学の存在が男女共同参画推進に影響を与えることはないと思います。 県実施のアンケートで高校生も別学維持を希望している結果が出ているのにもかかわらず、強硬に進めると、若者の政治離れに拍車を掛けてしまいかねません。声を上げても無駄だという体験を埼玉県の若者に持つてほしくないです。	1	高校の3年間を男女が互いに協力して学校生活を送ることに意義があると考えております。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
228	25	P25の「6 共学化の推進」は、別学校であることが一般の社会常識に照らして、何ら問題が無いにもかかわらず、たった一人の苦情を取り上げ、多くの別学校に学んでいる生徒、これから入学を希望する子供たち、そして卒業生、生徒の両親等の意見を無視しているという点で、全文削除を求めます。「県立高校の特色化に向けたアンケート」では約15%が別学を、また、約30%が共学を望んでいるように見えますが、埼玉県の別学校は伝統的に偏差値も高く、希望してもなかなか入れないため、始めから選択の対象とする人はそう多くないものと思われます。だからといって、「県立なんだから共学だ！」はあまりに乱暴に過ぎるのではないのでしょうか。別学校を希望する生徒にとっては、選択肢が無くなることは、大きく失望させられるものと思います。また、特色ある高校を作るのが共学化ではないはずです。既にある埼玉の伝統校としての別学校の価値を更に高める方策を求めます。途絶えた伝統は元には戻りません。性急な対応は後に禍根を残すことにもなりかねません。世界では行き過ぎたリベラル思想が社会を分断していることが明かです。多様な選択肢があることが、魅力ある県立高校の大前提だと思います。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 「県立高校の特色化に向けたアンケート」の高校選びの観点については、高校を選ぶ際に様々な観点がある中で、中学生・高校生や保護者がどのようなことを重視しているかを伺いました。学科・コースや通学の便利さ、授業以外の活動内容など、複数ある高校選びの観点の一つとして、共学又は別学であることについて意識している方の割合を把握できたものと理解しています。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
229	25	男女別学、共学、専門学科といういろいろな選択ができると思います。特に別学の共学化が言われていますが、別学は希望者がいる限りなるべく続けていてほしいと思います。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D
230	25	全てが共学校になると、県立浦和だけが突出し、あとは、徐々に今ある特色が失われるだろう。学力の序列だけが助長されれば、教諭の仕事は同一化規格化される。管理職は管理しやすくなるものの、教員の仕事の魅力は無くなる。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D
231	25	25ページの共学化の推進について、一律の共学化の推進には反対です。少なくとも、定員を超える希望者がいる別学については、埼玉県立高校での別学を選ぶ選択肢を残しておくべきだと考えます。 男女理解、協力というのはもちろん学が環境も大きいですが、家庭環境で浸透するものではないでしょうか。ただ共学、別学で分ける話ではありません。これまで男子校や女子校として培ってきた歴史、教育、背景があります。共学にすれば男女理解が進むとか、共学希望者が多いから、という簡単な問題でもありません。また、埼玉県立高校で別学を第一希望する子供たちがいるということを知っていただきたいです。できましたら埼玉県立高校の別学進学を希望する生徒、在校生、卒業生、地域の住民の意見を丁寧に聞いて、その意見が反映された方針を是非作っていただきたいと思います。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
232	25	男子校、女子校、共学など様々な選択肢の中で、選んだ学びの環境に子供たちは満足しています。子供たちの学びの環境を自ら選択する機会を奪わないであげてほしいです。私立には男子校、女子校ありますが、経済的な理由で選べないこともあります。せめて浦和高校、浦和女子については最後の砦として残してあげてほしいです。 別学だからこそ良さを今一度考えていただきたいです。女子校で男子がいないからこそ、力仕事やリーダーシップを自分自身で取っていくことを学べます。男子校で家庭科、裁縫を自分ごととして取り組めたこと貴重な経験です。どうか一律に共学化しないでください。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
233	25	25ページの共学化の推進について、一律の共学化の推進には反対です。少なくとも、定員を超える希望者がいる別学については、埼玉県立高校での別学を選ぶ選択肢を残しておくべきだと考えます。金銭的なことや各学校の特色を含むなんらかの理由で、私立の別学ではなく、埼玉県立高校で別学を第一希望とする子供たちが相当数いるということだと思われるからです。埼玉県立高校の別学への進学を希望する生徒、在校生、卒業生、地域の住民の意見を丁寧に聞いて、その意見が反映された方針を是非作っていただきたいです。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、県では、高校に通う生徒の修学を支援するため、学費負担を軽減する制度など様々な修学支援制度を用意しております。リーフレットを配布するなど、支援制度の内容の周知に努めてまいります。	D
234	25	なぜ公立高校で男女別学ではいけないのかの理由が分からない。 男女共同参画社会と大分長く聴く言葉であるが『魅力ある高校づくり』と唱えているのに何かおかしい。 私立に男女別学がたくさんあるのに公立に少ない。この特徴を持つ埼玉県は誇らしいと思う。 スポーツが得意な子、芸術が得意な子、勉強が得意な子、男だけの学校、女だけの学校に行きたい子、家庭が貧しくて私立に行けない子、公立はそんな子たちを受け入れるべきではないのか。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、県では、高校に通う生徒の修学を支援するため、学費負担を軽減する制度など様々な修学支援制度を用意しております。リーフレットを配布するなど、支援制度の内容の周知に努めてまいります。	D
235	25	魅力ある県立高校を目指すのはよいですが、共学化の推進を、当事者である高校生や卒業生、先生方の意見ではなく、一部の方の差別であるとのことと理由に行っているとのことですが、これは民主主義なのでしょうか。埼玉県立の別学高校には高偏差値の名門が多数あり、これは埼玉が誇る伝統であると思っております。少子化で統合しなければならぬ等の理由で受験生、保護者、卒業生等が希望しているならまだしも、一部の方の意見に迎合するなんて考えられません。今一度伝統校の継続をお願いしたいと思います。多様性を語るならば、男女別学も選択肢に入れるのは当然のことと思います。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
236	25	女子校での経験が大きく、皆でやり遂げたことが自信やノウハウとなって、卒業生ほとんどがジェンダーの平等を遥か前から体現してきました。 埼玉県教育局は、別学をむしろ「埼玉教育の特色」とすべきです。私立なら別学OK、公立はNOというのはあまりにも考えが古く時代錯誤。時代を先取りしてジェンダーの平等に寄与する人材を育てたと考えるべきです。ましてや入学希望者が減少しての統廃合ならいざ知らず、男子校、女子校で学びたいという希望者が多くいる現状で統廃合する理由がどこにあるでしょう…。埼玉県教育局は胸を張って男女別学を維持すべきと考えます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
237	25	「共学化の推進」に関して、「県民の意見を丁寧に把握したうえで、個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意する」ことには全く賛成です。アンケートにおいて多くの県民とりわけ高校生が別学の存続を望んでいる状況を鑑みて、「主体的に共学化を推進する」ことが、別学高校の廃止推進につながらないことを望みます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
238	25	P 2 5 の『共学化の推進』について。 共学化を推進するための理由が記されていると思うが、ほとんどの理由について別学校でもならん問題ない。なぜこんな理由で別学校の共学化が推進されなくてはいけないのか全く納得ができない。 ・「男女共学その他の種類の教育」を奨励すること 『その他の種類の教育』は別学校の教育も入っていませんか。 ・男女の役割についての定型化された概念の撤廃が求められている 男女別学の方が定型化された概念が撤廃されると思います。理由としては、男しかいない女しかいない環境なのですべての役割をこなさなければならないからです。 ・教育ニーズが多様化 多様化しているのなら共学校も別学校もあってよいのですか。 ・希望に応じた進学先の選択を用意すること 別学校を希望している中学生は多くいると思います。毎年の別学校の志望倍率は高いですよ。アンケートも取りましたよね？署名も受け取りましたよね？その子たちの希望した進学先を無くすことが教育委員会がやることですか。 ・中学校卒業生数が減少 これが別学校を無くす理由になるのなら、まず志望倍率が1.0倍を切っている高校を先に再編することが先ではないですか。到底納得できるわけがありません。こんな突っ込みどころ満載の理由しか出せないということは、別学校を共学化したい理由がほかにあるのではないかと勘ぐってしまいます。各別学校には長い歴史があります。誇りがあります。それを潰すわけですから、それ相応の理由や対応を求めます。県民の声を聴いてください。アンケートの結果、署名の数きちんと見てください。	1	高校の3年間を男女が互いに協力して学校生活を送ることは意義があると考えております。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
239	25	明治の世、廃城令もありまして川越のお城は、人の手で取り壊されました。旧幕時代の物は悪であり、それが時代の流れでした。150年経ち、その判断は正しかったのかと問われれば、答えは「否」です。今この令和の時代、埼玉県に川越城があれば、と惜しい気持ちでいっぱいです。その当時はそれが正しかったのです。今、この多様性の時代に、別学を無くせという声があります。100年先200年先にそれが正しかったのかどうかは分かりません。長く続いた伝統を無くすのは一瞬、でも一度壊したものは二度と元には戻りません。どうぞ、時代の風潮や世界の常識などと言う主張には流されず、御判断くださるようお願いします。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
240	25,48	・2 5 ページ「6. 共学化の推進」は、全項削除すべきである。理由を以下に述べる。 1. 県教育委員会の行った中学生・高校生・保護者へのアンケート結果は、別学維持であり、共学化は県民の意向を反映していないのみならず、逆行しており、適切でない。 2. 加えて、県民からは、共学化反対、別学維持を求める署名が提出された。 3. 以上の2つの県民の意思表示にもかかわらず、共学化が推し進められるのは、手続きとして不適切である。 4. そもそも、この、共学化自体が、県男女共同参画苦情処理委員に提出された、「男子校が女子生徒の入学を拒否するのは男女差別である」との、ただ1通の苦情文書に端を発している。 5. そして、「別学校が、性別による役割分担の固定化の概念に基づく教育をしている」という見解自体、実態を表していない。 6. 県立女子高校出身の自分の経験を述べる。 別学校は、男子のみ、女子のみの環境である。異性がおらず同性のみの環境で、それぞれが自分の得意や強みを生かして役割分担をしているものである。むしろ、共学校以上に、性別役割分担の考え方から自由であると言える。 よって、別学校が男女差別に基づいた教育をしているから共学化すべきであるという勧告自体、どこをもって出されたものか、根拠不明と言えるだろう。 7. 県民の意見を無視して、このような、根拠も不明確な苦情が根拠になり、勧告が出されるほどの影響力を持つのは適切ではない。 8. そもそも、苦情処理委員会が勧告したからと言って、十分な理由の説明もせずに共学化を進めること自体、適切でない。 9. これでは、苦情処理委員が、教育委員会に優越する権限を持つことになる。 10. 教育委員会にチェック及び修正ができないのであれば行政として不適切である。 11. 以上のことから、共学化反対、別学維持の県民の意向に従い、共学化の項目を全項削除し、共学化自体を白紙撤回するべきである。 ・4 8 ページ「高校選びの観点」。 この数字をもって、「別学校であることを重視する県民よりも、共学校であることを重視する県民の方が多数である」としているのなら、不適切であり恣意的であろう。	1	県教育委員会としては、県男女共同参画苦情処理委員からの勧告は、埼玉県男女共同参画推進条例に基づき、県男女共同参画苦情処理委員が当該苦情について調査した結果、勧告の必要があると認めてなされたものと受け止めています。 高校の3年間を男女が互いに協力して学校生活を送ることに意義があると考えております。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、「県立高校の特色化に向けたアンケート」の高校選びの観点については、高校を選ぶ際に様々な観点がある中で、中学生・高校生や保護者がどのようなことを重視しているかを伺いました。学科・コースや通学の便利さ、授業以外の活動内容など、複数ある高校選びの観点の一つとして、共学又は別学であることについて意識している方の割合を把握できたものと理解しています。	D
241	25	ジェンダー平等や多様化は大切な考え方ですが、本件に関しての議論はむしろ真逆をいっている気がしてなりません。多様化とは様々な選択肢があり、それを自分の意思で選べる、という事だと思います。 全ての県立高校を共学化の方へ持っていくというのは、多様化ではなく統一化であり、選択権を奪うことになると思いますがいかがでしょうか。他者が自分の考えを押し付けてよいものではありませんね。今回の共学化問題も、とにかく共学化してしまえば多様化やジェンダー問題が解決すると思っている一部の人の短絡的な考えに引きづられている気がしてなりません。ジェンダー教育とは、多様な性を認めるということであり、それは社会全体として様々な選択肢を提示し、選び取れる環境を整える事だと思いますし、そういった環境を整えるのが行政の役割だと考えます。去年より、現役の生徒や保護者、これから高校生になろうとする子供たちが、選択肢を無くさないでほしいと懸命に動いていますが、なぜ彼等の意見を聞き入れず、共学化を推し進めているのか理解できません。県立であるからこそ平等に選択肢を残してください。本当の多様化、ジェンダー教育とは何かを今一度よくお考えになり、誤った方向へ進まないよう、修正をお願いいたします。	1	高校の3年間を男女が互いに協力して学校生活を送ることに意義があると考えております。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
242	25	別学は差別だという意見があるようですが、別学を必要とする方もいると思います。共学校もたくさんあるわけですし、多様化の時代、むしろ選択肢として別学を残すべきではないでしょうか。埼玉の伝統として今ある別学校を残していただきたい。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D

番号	該当ページ	御意見の概要	意見数	県の考え方	反映状況
243	25	県立高校の共学化推進について意見を述べます。 この間の苦情処理委員会の勧告、そしてそれをそのまま受け入れる県教委の態度と考え方に疑問を感じます。 ・共学化について国も特にこれを推進しているわけではありません。県民の希望や各地域の必要に応じた教育を認めています。別学も伝統的に日本や世界で行われて来た教育形態です。これが男女差別であるとは言えません。どこに問題があるのか明確な根拠を示してください。根拠薄弱なまま、共学を進めることには反対です。 ・男女別学が学習や発達に障害があるとは言えません。むしろ勉学や部活動に集中することを可能にして、高い満足度を生徒に与えていますし、浦和一女がスーパーサイエンスハイスクールで最高の賞を取ったことに示されるように、高い学力を生んでいます。 ・別学に対し、生徒や保護者の希望が強くある。別学校の生徒たち自身が別学維持を求める署名活動をしているのは御存知のとおりです。保護者の方々からも強い支持があります。無理矢理に別学に行かされたのではなく、自ら選んで進学しているのです。それをごく少数の利己的な要求を理由に、多数の人々のはたまたまに押し付けようとするのは間違っています。 ・多様な教育ニーズに応える県立高校をこの方針案でうたいながら、男女別学を多数が望んでいるにもかかわらず共学化しようとしているのは、矛盾であり、別学という文化を潰そうとしていることに等しい。 ・勧告を受けたとして教育委員会が主体的に共学化を進めると決定したのは、どのような権限によるものか。これまで見るように当事者及び県民は反対の意思を強く表明している。苦情処理委員会は選挙で選ばれた代表でもなく、県民の意思を代表する機関ではない。一つの意見を示すものに過ぎず、方針を決定する権限はない。この組織(ごく数人)が述べた内容を、明確な根拠なく進めることは県民の意志に反した非民主的な強制である。教育委員会もまた、このような重大な決定を「主体的に」進めると述べているがこれはおかしい。そのような権限は無い。権限の元は県民にある。本来、主権を持っているのは県民であり、教育委員会ではない。県民が運動を起こして反対している事柄を強行することは教育という名前を冠する委員会の自己矛盾である。 以上のことから、共学化には断固反対します。県は、県民の意見を丁寧に聞き、その意思の実現に努めるべきであり、少数の特定機関の意見に従って県民に強制するべきではありません。	1	県男女共同参画苦情処理委員からは、男女別学であることだけでは条約違反とされていないものの「男女共学その他の種類の教育」を奨励することにより、男女の役割についての定型化された概念の撤廃が求められており、共学化が早期に実現されるべきとの勧告を受けました。県教育委員会としては、県男女共同参画苦情処理委員からの勧告は、埼玉県男女共同参画推進条例に基づき、県男女共同参画苦情処理委員が当該苦情について調査した結果、勧告の必要があると認めてなされたものと受け止めています。 高校の3年間を男女が互いに協力して学校生活を送ることは意義があると考えております。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
244	25	第3章中「6 共学化の推進」を削除するべきと考える。 本方針（案）においては、埼玉県男女共同参画苦情処理委員3名による「勧告書」（令和5年8月30日）に対する措置報告書（埼玉県教育委員会教育長名 令和6年8月22日、以下「報告書」という。）を引用し、「この報告で示したとおり推進していくこととします。」とあるが、その報告書には次のような重大な欠陥がある。 ・公表後、県議会での議論（県民の代表者による議論）を経ていない ・報告書取りまとめの過程において実施されたアンケート（高校生、中学生やその保護者など）の結果を公平に反映していない。 ・勧告書にある「高校生活の3年間を一方の性に限ることは、人格形成からも、また男女共同参画づくりの視点からも問題である」という、極めて非論理的、独断的で偏見に満ちた考え方に何ら言及なく、結果、そのような考え方を肯定したものとなっており、県政史上まれにみる「汚点」ともいえる報告書となっている。 かかる報告書に基づく方針（案）（第3章6「共学化の推進」）は削除するべきであり、再考をするのが県民に対する義務であり、県政への信頼の基礎となるものである。	1	県男女共同参画苦情処理委員からの勧告は、埼玉県男女共同参画推進条例に基づき、県男女共同参画苦情処理委員が当該苦情について調査した結果、勧告の必要があると認めてなされたものであると受け止めております。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、勧告書に記載のある「高校生活の3年間を一方の性に限ることは、人格形成からも、また男女共同参画づくりの視点からも問題である」という部分は、平成13年度の県男女共同参画苦情処理委員の勧告の趣旨を述べたものと受け止めております。	D
245	25	別学の経験はその後の人生に多くの示唆を与えてくれました。また伝統に育まれた校風は今も私の中の中核になっています。 母校が無くなってしまうのは本当にかけがえのないものが無くなってしまう、なんとしても残していただきたい思いでいっぱいです。後輩たちにも様々な影響を与えるすばらしい高校です。様々な選択肢があってこそその魅力ある県立高校であると思います。別学の選択肢も残していただけますよう、また、伝統ある高校をここで無くしてしまうことは多くの財産を失うことになることをお考えください。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
246	25	共学化が進められているようですが、画一化した教育に魅力を感じません。義務教育で共学を経験してからの選択です。選択肢を狭めることは個性を伸ばさないとします。校風が魅力的で生徒も活動的でした。選択の自由を奪わないで下さい。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D
247	25	少子化を理由に、別学校を統合再編する学校の中に否応なしに組み込むことはルール違反であり、県民や関係者への裏切り行為に他なりません。丁寧に、オープンに、誠実に、県民や関係者の意見を吸い上げ、協議し、多くの県民が納得する共学化の結論を求める必要があります。今回の魅力ある県立高校づくりのプロセスと、別学校の共学化とは、別のフェーズだと考えるべきです。したがって、25ページの記載の中に、「共学化の検討に当たっては、県男女共同参画苦情処理委員への報告書で示したとおり、地域の意見反映や県民アンケート、関係者との十分な協議を得て推進していくこととします。」という文言を入れるべきです。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、再編整備は、今後、更に生徒数が減少していく中で、一定の学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくために実施するものです。今後、具体的な再編整備校を検討する際には、周辺の高校の設置状況や交通の利便性など方針案に記載した「再編整備の観点」を踏まえ、総合的に検討することとしております。その決定に当たっては実施方策（案）を公表し、県民の意見をお聞きしてまいります。	D
248	25	現在の別学は維持すべきです。県立浦和高校、浦和第一女子高校等は別学がベストです。在校生、卒業生も皆共学化に反対しており、デモ等の活動が行われているのは有名です。政治に関心な日本でここまでやられるのは本当に恥ずかしいです。また学校や塾の教師も共学化することに強い疑問というより共学化する意味が分からないと言っています。是非私たち県民や在校生卒業生の意向をくみ、共学化は止めるようにして下さい	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
249	25	25ページの「共学化推進」についての再検討、そして削除を希望します。共学化の議論の発端となった、たった一通の申出で、別学校存続を訴えるのは数万人とでは隔たりがある。共学、別学の選択肢こそ、教育の多様性を実現できる。希望者も多く、進学実績も高く、伝統ある高校をあえて無くす意味はあるのか。将来にわたり、個人の能力と希望に応じた選択肢は今の埼玉県には正に残されていて、メリットと捉えられること。生徒数減少に起因する統廃合と共学化は、論点が異なる。共学化とは離れるが、既に統廃合が着手されている高校を見ても、近隣だからと言う理由で統合されている。伝統を維持しながらとあるが、学力も校風も極端に違う高校を統合するのは疑問。共学化に関してのアンケートは反映すると言いつつ、何ら考慮されていないということ。別学校志望者が少なからずいる点を考慮して、伝統を残しつつ新たな学科やカリキュラムを設けるなど、更により良い環境を作り上げ、魅力ある県立高校を構築する手立てもあると思います。埼玉県は共学、別学、私立、都内私立国立等選択肢が多数あって恵まれています。別学校にもそれぞれに、伝統、校風があり、卒業生も多岐に活躍されています。魅力ある県立高校づくりのためには埼玉県の共学、別学の希望者にそれぞれの選択肢を残していただきたいと願います。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
250	25	公教育でありながら埼玉県は、伝統の男子校女子校、各レベルの共学校、農業工業デザインなどの専門高校と多様な教育の選択肢を持つ強みがあります。施設改修や更なる教育内容の充実等で、より魅力のある公立王国として全国に誇れるものになり得ると思います。魅力ある埼玉県立高校の観点からも、男女別学校の共学化に反対します。むしろ県の特徴として生かすべきと考えます。公立が別学という選択肢を持つこと自体が強みです。いずれも100年前後の伝統歴史を有し引き継がれ、地域にも親しまれてきました。画一的な共学化は、校名は残しても教育方針や理念は別物になり伝統は壊され途絶えてしまいます。定員割れもほぼ起こさず今も人気があるのは、根強いニーズがあるからです。国会議員による内閣委員会での質問に対する大臣答弁でも「全ての学校における男女の共学を一律に強制するものではない」との明確な、教育の多様性を守る上で大変重要な政府見解が示されています。なお、3万4千筆以上集まった共学化反対署名、県教育委員会が行った中高生や保護者へのアンケートの結果や共学化反対ワークなども無視する行為は「埼玉県こども若者基本条例 第12条」に反しています。規定にのっとり子供たちの意見を聴取反映していただきたいです。また、県議選で共学化は争点ではなく、政治や思想に左右されず公平に子供たちの多様な学びの権利を守れるのは県教育委員会です。生徒たちが安心して勉強や部活にまい進できるよう、大勢の別学校を目指す子供たちの夢を砕かぬようP25の共学化の推進は全て削除白紙撤回していただきたいと希望します。	1	高校の3年間を男女が互いに協力して学校生活を送ることに意義があると考えております。 今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
251	25	2 5 ページ第 3 章の 6「共学化の推進」について、将来的には平等性やLGBTQの生徒への配慮などの観点から全校の共学化を目指すべきだろうが、短期的には交通事情等で高校の選択肢が限られている地域について、速やかに共学化を進めるべきだと考える。例えば、南部地区などは別学校と同レベルの共学校が複数選択できると考えるが、比企地区ではいわゆる進学校を選ぼうとすると、実質的に別学校しか選べないという現状があるのだ。常識的に考えて、別学校を選びたくても共学校しか選べないという状況よりも、共学校を選びたくても別学校しか選べないという状況を優先的に解消していくべきではないだろうか。いくら伝統があっても、また学校選択問題を採用していても、定員を充足できない別学校は共学化へと切り替えていくべきである。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えております。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 具体的なことをお示しすることはできませんが、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えています。	D
252	25	共学化に反対します。公立高校で地域の進学校は大変貴重です。学びに対する一種の伝統的なアプローチが確立し引き継がれているからです。先輩・後輩がいて地域に根付いているからです。それは一朝一夕では作り得るものではありません。また一度無くなった後、再生することはできません。少しでも子供たちがはい上られるような機会を残してください。埼玉県県の財産を毀損しないでください。膨張する東京に飲み込まれ人材が埼玉に戻ってごなくなります。埼玉県で、我が町で、教育が受けられる環境を残してください。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
253	25	県立高校共学化に反対し、現在別学の高校は現状のまま男女別学としてください。 他県の別学高校は文武両道・ばんからの学風で、地域のリーダーを多く輩出しています。それが、共学になり、学風がすっかり変わり、卒業生たちは嘆いています。憧れの存在であった高校を、違う存在にしてしまうことは、許してはならないと考えます。何でもかんでも同じに、は無理があります。高校もみんな違っている、個性のある高校であってほしいです。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
254	25	別学校の共学化に反対します。私立ではまだたくさん別学があります。お金がある人なら、別学が選べるのに、公立ではそれが叶わないというのは、おかしい話です。選択の自由があるはず。共学にすることが、必ずしも男女平等というわけではないと考えます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 また、県では、高校に通う生徒の修学を支援するため、学費負担を軽減する制度など様々な修学支援制度を用意しております。リーフレットを配布するなど、支援制度の内容の周知に努めてまいります。	D
255	25	2 5 ページの共学化の推進方針は全文削除すべきである。県教委が行った各種中高生・保護者アンケートの結果に反して、県民の声を反映していない。何の問題も起きていない別学の伝統を壊すなんて絶対に許せない。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
256	25	「魅力ある県立高校づくりの方針（案）」の25ページ「6 共学化の推進」の項目を削除するよう求めます。理由は既に行った生徒や保護者向けアンケートで男女別学校への理解や一定のニーズがあることが分かっているにもかかわらず、民意を無視した政策を押し進めようとしているからです。私は埼玉県立の女子校出身ですが、私が在学中にも共学化の論争があり、そのときは多くの先輩たちの呼び掛けによってその問題に気付くことができ、共に反対の声を挙げ、母校を守ることができました。今回は、在校生たちがこの問題に気付き共に声を上げる暇もないままに強引に共学化が推し進められようとしています。あまりに強引で横暴です。もし定員割れを起こして生徒が半分になったり、在校生の中で共学化投票を行って過半数を超えたりしたら時代の変化を素直に受け入れます。ですが現状そうではありません。なのに、たった一件の申出と現場にはいない大人たちの都合によって別学校が無くなるのはあまりにも不条理です。少子化や男女平等への対応も分かりますが、男子トイレと女子トイレが混ざることのないように、性別を分けることによってうまくいくことや助かる人がいます。どうか在校生、これから進学する中学生のために共学化をやめていただくよう、よろしくお願いいたします。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
257	25	P25の共学化推進方針について、削除を求めます。学区のない現在において、共学校の方が圧倒的に数が多く、「教育の機会均等」は十分に果たされていると考えます。また、「男女の役割についての定型化された概念」というのは、両方の役割を果たす必要のある別学でこそ果たされていると考えます。選挙の争点になっていない政策において、多数を占める自民党の考えをそのまま民意と受け取る教育委員会にも疑問を感じます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、男女共同参画の視点に立った教育については、全ての県立高校において推進することが重要であると考えております。	D
258	25	一方的な理念の押し付けによる共学化の推進には反対です。男女別学であることが男女差別に当たるとするのは、多様性を求められる現代において、片寄った考えではないでしょうか。その片寄った理念に基づいて、早急に共学化を進めるとは、県民の意向よりもほかに優先すべき都合があるからなのか。「県民の声をないがしろにしていませんか。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
259	25	25ページについて、高校生活の3年間をどの学校で誰と過ごすかは、人生において重要だと思います。ジェンダーレスの時代だからこそ、別学、共学が選べることが大切で、そこが埼玉県の誇れるところだと思います。共学化よりも別学維持に力を注いだ方がよいと思います。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D
260	25	別学校を共学化すること 男女共同参画社会実現のための啓発活動は全ての学校に求められるところですが、県教委の共学化方針を進める上での具体的なスケジュールを示すことを求めたい。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えております。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 具体的なことをお示しすることはできませんが、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えています。	D
261	25	埼玉県立の男子校、女子校を共学化することに反対です。共学化が意味があるのだとすれば、公立私立にかかわらず、全て共学化を進めるべき。男子校、女子校に良い面があるからこそ、私学に別学校が多いのではないのでしょうか。それぞれの良い面に目を向けてほしい。	1	この方針は、県教育委員会が令和7年度からの中長期的な視点で、県立高校を対象とした今後の魅力づくりに向けた方針を示すものです。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
262	25	「6 共学化の推進」に対する意見 結論：共学化の推進に対して反対いたします。 理由1：選択肢の不公平化 県内全ての公立高校の共学化によって、公立の男子高校・女子高校を希望する人々の選択肢が一方的に奪われてしまう。共学校のみしか選べない体制というのは、それを望まない人々に対する逆差別的行為である。 理由2：「男女の役割についての定型化された概念の撤廃」と「共学化」の直接の関係性が不明である。科学的に根拠がないことを推進することに意味はあるのか。人口減少に対応するなら、まず133校ある公立共学高校の統廃合から着手した上で、共学校と男子校・女子校の比率が同数になったところで、「男女の役割についての定型化された概念の撤廃」について議論すべきでは。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、男女共同参画の視点に立った教育については、全ての県立高校において推進することが重要であると考えております。	D
263	25	共学化の違和感 多くの声を無視してまで、共学化に舵を切ると言うことは魅力ある高校にしようという方針に逆らうものと思わざるを得ません。しかもその理由が男女共同参画であり、高校の女性管理職の割合を増やすことなどと言われると生徒や保護者のニーズは全く無視されてしまっていると言わざるを得ません。県立の共学高校が嫌なら私立高校に行け、と言わんばかりの共学化方針は「魅力ある県立高校づくり」に完全に逆行するものです。ただし、県立高校ですから利益優先ではないとは言え、あまりに経営的に成り立たないのであれば、近隣高校との統合はあり得るでしょう。その過程で別学校が共学化とならざるを得なくなることは納得できます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、再編整備は、今後、更に生徒数が減少していく中で、一定の学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくために実施するものであり、「再編整備の観点」を踏まえて具体的な再編整備校を検討する中で、男女別学校が再編の対象となることもあり得ると考えています。	D
264	25	共学化の推進（p.25） 男女別学は法的にも道義的にも何ら問題はなく、男女共同参画や男女における教育の機会均等の確保といった観点は、公立の共学化を推進しようとする根拠には全くなり得ません。これらの観点は、既に広く社会的に重要な普遍的価値観となっており、例えば、公立の男女別学が問題であるとするならば、同じように、私立の男女別学についても、公的な助成を含めその存在は当然に問題となってきます。この点を含め、男女共同参画苦情処理委員の勧告には、明らかに論理の飛躍・破綻と重大な誤びゅうがあります。また、それに対する県教育委員会の措置報告書においては、教育ニーズの多様化や「将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められる」ことに言及しつつも、「男女における教育の機会均等の確保」を指摘し、別学のニーズや進学先の選択肢としての別学を考慮対象外とするかのように「主体的に共学化を推進していく」と結論付けており、県民をミスリードするおそれがあるのではないかと考えます。したがって、男女共同参画苦情処理委員の勧告内容やそれに対する措置報告の内容を引用している「6 共学化の推進」の内容には同様の問題がありますので取下げを求めたいと存じます。その上で、県民に、男女別学に対するニーズが相当程度あり、合理的な理由が示されて男女別学の存続を求める意見が多数あることについては、県教育委員会においてこれを十分認識されているものと理解しますが、それでもなお、「県教育委員会として、主体的に共学化を推進していく」として、共学化の推進を方針とするのであれば、まずは、その理由（別学が問題である理由など）を具体的に明らかにしていただきたと存じます。現状では、共学化の必要性や意義を見出すことができません。県教育委員会は、共学化反対の声をどのように評価し、どのように対処するお考えなのでしょうか。	1	県教育委員会としては、県男女共同参画苦情処理委員からの勧告は、埼玉県男女共同参画推進条例に基づき、県男女共同参画苦情処理委員が当該苦情について調査した結果、勧告の必要があると認めてなされたものと受け止めており、措置報告書はその措置状況を報告したものです。 高校の3年間を男女が互いに協力して学校生活を送ることは意義があると考えております。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
265	25	少子化の影響もあり、県立高校の統合に着手しなければならない事情も理解できます。だからと言って全ての県立高校を共学にする事が唯一の解決策ということで片付けてしまうのは如何でしょうか。乱暴ではありませんか。伝統校には脈々とつながる歴史、誇り、団結等一言では言い表す事の出来ない熱き血潮を感じる事が多々ありました。どうか一括りの統合とかを考える前に、もう一度小さな声にも耳を傾けていただけるよう切望しております。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
266	25	魅力ある高校作りのためには、あらゆる選択肢が必要。伝統のある魅力ある男子校や女子校を守りながら、その特色を活かしていくことが重要。生徒の個性を尊重し自由に生き生きと学んでいける環境作りが必要と感じます。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
267	25	男女別学が男女差別になるという考えが理解できません。男子校、女子校、共学校、それぞれに良い点も悪い点もあり、それを選べる自由があることが、平等なのではないでしょうか。その点、今の埼玉県は、県立高校で男女別学を選ぶことができる数少ない県の一つで、多様性を求められる今の時代に、貴重な存在だと思います。埼玉県の特徴として、残してもらいたいです。私に通えない家計の人が、男子校女子校を選ぶという点も素晴らしいと思います。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
268	25	共学化推進方針に断固反対いたします。別学/共学とも現状どおり存続すべきです。それぞれの進学を望む子供たちからその選択肢を奪わないでください。伝統校の歴史や文化に敬意を払い、それを継承・維持していくことの大切さを理解してください。別学高の在校生たち並びに卒業生たちの反対意見・行動を見れば、何が方針として適切なのかは明らかだと思います。当事者である彼ら、彼女らの生の声に耳を傾けるべきではないでしょうか。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
269	25	方針案策定の根拠が不明であるから、明示してほしい。 方針案が、埼玉県教育の振興に関する大綱及び埼玉県教育振興基本計画をどのように具体化したのか不明である。対比表等で細部を説明すべき。 P25の「6 共学化の推進」を削る。	1	「魅力ある県立高校づくりの方針」は、法令に基づき策定を求められているものではなく、県教育委員会が「第4期埼玉県教育振興基本計画」を踏まえ、令和7年度からの中長期的な視点で、県立高校を対象とした今後の魅力づくりに向けた方針を示すために作成したものです。方針案の第2章は同基本計画の第1章及び第2章を、方針案の第3章は同基本計画の第2章を、方針案の第4章は同基本計画の第2章施策18を踏まえて作成しています。 今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D
270	25	男子校、女子校の維持を求める。異性がない環境だからこそ個性を伸ばせる。別学のニーズがあることはアンケートその他で明らかである。一度共学化すれば、別の学校になってしまい、元には戻せない。男女平等と共学化は同値関係ではない。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、別学校・共学校にかかわらず、全ての生徒が安心感、充実感を得て、有意義な学校生活を送ることができるよう努めてまいります。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
271	25	令和6年10月に制定された「埼玉県こども・若者基本条例」第12条では、「こども・若者等からの意見聴取及び意見反映」が、また第16条によれば「こども・若者の居場所づくりの推進」がうたわれている。 一方、「県立高校の特色化に向けたアンケート」「埼玉県立の男女別学校に関するアンケート」では、別学維持が多数であったことや、男女別学校が中高生の「居場所」となっていることが理解できる。 ・上記を踏まえると、「6 共学化の推進」は「埼玉県こども・若者基本条例」の第12条「こども・若者等からの意見聴取及び意見反映」および第16条「こども・若者の居場所づくりの推進」違反である可能性が高く、当該項目については項目全体を削除すべき。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、別学校・共学校にかかわらず、全ての生徒が安心感、充実感を得て、有意義な学校生活を送ることができるよう努めてまいります。	D
272	25	公立男子校の共学化の道程の制定・発表。可能な限り早く整備してほしい。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えております。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 具体的なことをお示しすることはできませんが、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えています。	D
273	25	これまでのアンケート結果や、意見聴取の結果から、県民の意見に反しているため P25.「共学化の推進」は項目全体を削除すべきです。 また、これまで実施してきた意見交換会や意見聴取会は、いずれも当事者全員が参加したわけではなく、県民の意見を正確に把握できているとは言い難いと考えます。したがって、県教育委員会は県民の意見を正確に把握するため、県立男女別学校12校に在籍する生徒全員及びその保護者、卒業生、中学生全員及びその保護者とその他の無作為に抽出された県民に対しアンケートを実施し、男女別学校全12校に出向いて生徒への意見聴取会を実施するべきです。 これらの意見聴取が完了し、県民の意見を正確に把握できるまで、P25「共学化の推進」は項目全体を削除し、聴取した意見の内容に則って「魅力ある県立高校づくりの方針」を再度策定すべきです。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
274	25	「共学化の推進」に反対です。 埼玉県内には公立の共学校、男子校、女子校がそれぞれ存在しており、偏差値や校風などに基づいて選択できる環境が整っている点が良いと考えます。 男子校や女子校としてこれまで築き上げられてきた伝統は、今後も大切にしていきたいと考えます。何よりも、共学校、男子校、女子校と選択できる自由があることこそ、良いことだと思います。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
275	25	「魅力ある県立高校づくりの方針（案）」における「共学化の推進」について、この方針に反対し、文言の見直しを強く求めます。資料のp25における「共学化の推進」及び「推進していく」という表現は、別学を廃止する姿勢を示唆しているため、「推進」という表現は不適切であり、「個々の学校ごとの状況を鑑み必要に応じて検討する」等の表現に改めるべきです。 共学にも別学にもそれぞれの良さがあり、どちらを選ぶかは個々の生徒や保護者の判断に委ねられるべきです。片方に統一してしまえば、選択肢が減ることになります。教育の多様性を重視するならば、選択肢を維持し、多様な学びの場を提供することこそが重要です。別学は正に特色ある学校であり「高校の特色化を図る」方針にも合致します。一方で、「共学化の推進」は選択肢の縮小を意味し、教育の本質に反するものです。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
276	25	2 5 ページの共学化の推進方針は全文削除すべきである。生徒を含む県民の声を反映していない。	9	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
277	25	共学化、絶対反対です。男子校を選ぶ選択肢を公立高校に残してください。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
278	25	2 5 ページの共学化の推進方針は全文削除すべきである。生徒を含む県民の声を反映していない。それぞれの高校の歴史を大切にしたい。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
279	25	25ページに記載の「共学化の推進」は行うべきではないと考えます。男女別学校にも一定のニーズがあることは、これまでのアンケート結果からも明らかであり、別学校を希望する中学生の選択肢を閉ざすことは、埼玉県として行うべきではありません。 全ての高校を共学化するのではなく、現状を維持することこそが、「魅力ある学校づくり」につながるものと考えます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
280	25	アンケートでは別学存続賛成の意見が多かったにも関わらず、なぜ共学化を推進していくという結論になるのか理解しかねます。特色ある高校作り、多様性への対応の観点からも、男女別学の意義があると考えます。高校生世代の減少による学校の再編の必要性和、共学化は同じではありません。 P25の共学化推進方針の削除を求めます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、再編整備は、今後更に生徒数が減少していく中で、一定の学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図るために実施する必要があると考えております。共学化の推進については、「第 3 章 県立高校における教育活動・教育環境」に記載しており、「第 4 章 県立高校の再編整備」には記載しておりません。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
281	25	今回の改定案では共学化を推進していくようですが、そのために特色ある学校を減らしてしまうことはしてほしくないです。少子化だからこそ、子供たちの将来を見据え個性豊かな人材の育成につなげる教育の場を提供できる自治体であってください。共学校、別学校で男女差別だと思ふ考え方こそ差別している意見なのではないでしょうか。少なくとも今の学生は別学校だから男女差別と考えているとは到底思えません。選択肢がある方が魅力的ではないでしょうか。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
282	25	25ページの共学化の推進方針は全文削除すべきである。生徒を含む県民の声を反映していない。選べる選択肢を残してほしい。私立高校に補助金を出すならもっと県立高校のためにお金を使って欲しい。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、県立高校の教育環境の充実に向けて、必要な予算の確保に努めてまいります。	D
283	25	埼玉県立高校の共学化に反対します。男女の協力は『高校』でなくても十分にできます。中学校までもそうしてきましたし、大学以降の人生もそうであります。高校生活は子供たちが、それぞれ思い思いの自分の未来を描く大切な3年間です。どんな高校に行って、どんな高校生活を送るのか。自分で選ぶ権利があります。全国の流行りに流されず、埼玉県は埼玉県で、今まで消えずに続いてきた『別学を選ぶ自由』を守り抜いてほしいです。	1	高校の3年間を男女が互いに協力して学校生活を送ることに意義があると考えております。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
284	25	25ページ「共学化の推進」項目全文を削除すべき。アンケート結果など県民の意見が反映されていない。少子化と共学化の問題は全く別問題です。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
285	25	共学化の推進を方針から削除してください。「魅力ある県立高校づくり」のために、是非、共学・別学の選択肢の維持を切望します。アンケート結果は、むしろ「別学校」の選択肢を残してほしいという意見が多かったように受け取れます。他県にはない県立の別学校が埼玉にはあるということが、埼玉県の「魅力」になっているとは思えません。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
286	25	「魅力ある県立高校づくりの方針（案）」P25に記載されている共学化推進方針は、全文削除すべきです。 理由として、県教育委員会が実施した中高生及び保護者へのアンケート結果では、共学化を求める意見が多数派とはなっておらず、県民の声を反映した方針とは言えません。また、男子校・女子校の特色ある教育を支持する意見も多く、性別に応じた教育環境の選択肢を残すことが望まれています。共学化の推進は、伝統校のアイデンティティの喪失や、現在の教育環境に適應している生徒・保護者の意向を無視することにつながります。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
287	25	共学化に反対である。 ・選択の自由を保障する教育環境作り 様々な教育環境を備えた個性豊かな学校が豊富にあることで、子供たちは自分が行きたいと思う学校を選ぶ「選択の自由」が確保され、一人一人の多様な可能性を伸ばし、個性豊かな若者に育っていくことにつながる。「男子校」「女子校」というのも学校の特色の一つであり、「県立高校の特色化に向けたアンケート」の結果を見ると、別学校を無くすということが「別学校に進学したい・させたい」と希望する子供や保護者の気持ちを否定してしまうことにほかならないということを物語っている。 男女平等の観点から高校を全て共学にするべきだという意見をそのまま受け入れて全ての高校を共学化してしまうことは、子供や保護者たちの選択の幅を狭め、彼らの選択の自由を奪ってしまうこととなるのである。 ・現役の生徒たちの意見を尊重すべき 県内の男子校や女子校、それに共学校の生徒たちが、高校の共学化についてディベートを行い、その内容や結果を真摯に受け止め、県の『魅力ある県立高校づくりの方針』に反映させていくことが、現役の生徒たちの意見を尊重し『魅力ある県立高校づくり』を望ましい方向に進めていく一助になると考えるが如何だろうか。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
288	25	魅力ある学校づくりとは画一的なものではなく、それぞれが培ってきた文化を認め合う多様性を含めたものであるべきだと考えます。私立に行かなくとも公立校の中で男子校、女子校、共学校、を選べる埼玉の教育環境は誇るべきものです。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D
289	25	浦和エリアは男子校、女子校、共学校と選択できる特色メリットを生かすべきである。別学を尊重すべきで、未来の子供たちに多様な教育環境があってよい。生徒を含む県民の声を反映していない。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
290	25	25ページの共学化の推進方針は全文削除すべきである。生徒を含む県民の声を反映していない。 共学校でなく別学校を希望する生徒のことも考えて、選択肢を残して欲しい。 長年の伝統により育まれた別学校それぞれの素晴らしい校風を失うことは大変遺憾。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D

番号	該当ページ	御意見の概要	意見数	県の考え方	反映状況
291	25	P25の共学化推進方針は全文削除すべきである。生徒を含む県民の声を反映していない。 ・県教委は誰の顔を見ているのか。議会なのか県民なのか。 ・中高生、その保護者に対しての「アンケート」で、男女別学維持（一律共学化反対）を希望するものは一定数いたにもかかわらず、共学化を推進する理由を示せ。 ・男女別学を廃止してまで共学化を推進するメリット、明確なエビデンスを示せ。 ・もっと丁寧に県民の意見を聞くべき。もう一度、項目を追加してアンケートを取ってほしい。	1	高校の3年間を男女が互いに協力して学校生活を送ることは意義があると考えております。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
292	25	別学だからこそ、男子だけだからこそ、女子だけだからこそ、ジェンダーに捉われることなく、あらゆる役割を担うことができます。 どの別学高校も、歴史的に発展過程の違う都市にあり、別学だからこそ、その土地の風土と結びついた個性を発揮していると思っており、伝統に基づく校風、個性は守り継がなければならないと考えます。別学こそ多様化社会における多様な選択肢の提供につながると考えており、埼玉県個性として、別学の県立高校を残していただくことを希望します。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
293	25	「県立高校の特色化に向けたアンケート」の数値は、明らかに別学を支持する値が高いことを示す結果となっている。「県立高校共学化に関する中高生・保護者アンケート」では「県立高校を共学化しない方がよい」「共学化した方がよい」を上回った。県教育委員会が令和6年8月22日に発表した措置報告書には、アンケートや意見聴取の結果も踏まえ、『男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かった。』と明確に記載がされている。埼玉県5か年計画では、「針路 5 未来を創る子供たちの育成」に多様なニーズに対応した教育の推進とある。教育局の共学化推進方針は、別学校を望む生徒を取り残すこととなり埼玉県の目指している理念に反している。P25.「6共学化の推進」は項目全体を削除すべきである。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
294	25	25ページの共学化の推進方針は全文削除すべきである。県教委が行った各種中高生・保護者アンケート結果に反していて、県民の声を反映していない。 男女共学化を進めることにより、男女の役割についての定型化された概念が撤廃されるという理論に疑問がある。共学化推進方針とは別学各校の意見をきちんと聞いた上での判断なのか。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、全ての県立高校で、男女共同参画の視点に立った教育を推進していきます。	D
295	25	男女別学校の存在は埼玉県の個性であるとともに、良き学びの場であることは揺るぎない事実です。ジェンダーフリーの観点からもマイノリティばかりがクローズアップされますが、マジョリティもジェンダーの一つです。P25の共学化推進方針は全文削除すべきであり、生徒を含む県民の声を反映していないと考えます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
296	25,26	県立の男女別学廃止に反対いたします。 共学で育つ情緒面は義務教育終了の15歳という年齢までに十分育ちます。男女共学高校であることが、生徒を「男らしさ」「女らしさ」という型にはまった旧体制の枠にはめ、社会に出てでもその考えに縛られてしまうとも言え、男女共同参画ということには逆効果です。人生の中の3年間に男女別学で過ごすという選択肢もあることが、本当の意味で教育の公平さを守ると存じます。これは埼玉県長の長所です。「男女別の学校は教育差別」という考え方こそ男女差別とも言えます。男子高校、女子高校、男女共学高校が存在することこそ教育の多様性です。柔軟なお考えで男女別学存続をお願いいたします。 合併や廃校は、絶対に必要なことでしょうか。ある一定の生徒数を保っているのであれば、各学校内で少子化に対応する策を考えていくことも政策に加えていただきたく、前向きにご検討をお願いします。合併という形であってもその伝統は途切れます。単純に男子校と女子校を合併させればいい、というような考えは是非ともお止めください。	1	高校の3年間で男女が互いに協力して学校生活を送ることは意義があると考えております。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。 また、生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要であると考えております。	D
297	25	男子校女子校と分かって、望んでいる志願者がいるにもかかわらず、なぜ共学化しないといけないの分かりません。これだけ署名活動しても共学化反対の意見が多くてもどうして受け入れてもらえないか不思議です。 男子校女子校が良くないと言うならば国立がなぜ全て共学にならないのか。多様性を否定する動きは時代にそぐわないと思います。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
298	25	共学化しないでください。高校などで、女子校に入りたいと思っている人もいますから、これから高校生などになる子の意見を優先として考えてほしいです。 ほかの県に合わせて共学化させたいんですか。今まであった行事だって、共学化したらきつなくなってしまうことだってあります。生徒の声も知っているはずなのに、どんとんと話が進んでいる気がします。自分は勉強が好きというわけではないけれど好きな場所好きな環境で勉強がしたいです。 別学維持を強く希望する小学生がいるということをご理解いただけたら幸いです。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 引き続き、県立高校の特色化・活性化を進め、魅力のある高校づくりに努めてまいります。	D
299	25	現況、男女における教育の機会に格差が存在しているとは到底思えないため、共学化推進の方針について、断固反対致します。 異性にいじめられた経験から男女別学校に進学したいと思っている生徒もあり、私立に進学する金銭的余裕がない家庭もある。 多くの卒業生達、現役高校生、中学生、保護者達が県や教育委員会が生徒たちに寄り添った賢明な判断をすることを待っています。直ちに、共学化推進は取り消してください。 子供たちの選択肢を狭め、安心して通える学校という、当たり前の、平等に教育を受ける場所を奪わないでいただきたい。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、別学校・共学校にかかわらず、全ての生徒が安心感、充実感を得て、有意義な学校生活を送ることができるよう努めてまいります。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
300	25	無理やり共学化するような方針は、多様性の時代である現代にあつて、明らかに時代に逆行するものだと思います。 学校の統廃合の議論をする中で、別学校の共学化を考える必要は出てくるかもしれませんが、共学化ありきで進めていく議論ではないと考えます。この「共学化の推進」の部分は、そっくり削除するか、あるいは、別の内容に書き換えるなどして、埼玉県は、高校生をはじめ県民の声を真摯に受け止め、多様性を尊重する県であることを示していただきたい。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
301	25	生徒が好きなことを思い切りできる学校こそ、魅力ある学校といえるのではないのでしょうか。 多様性の名の下、全ての県立高校を共学化し、均質化された特徴のない（＝魅力のない）学校へと変えてしまうことは、埼玉県にとって大きな損失となると憂慮しております。選択肢が多くあること、それこそが埼玉県の高校の魅力であると思います。多様な学校を選択できる、魅力ある埼玉県であり続けてほしいと切に願っております。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
302	25	昨年県教育委員会が行った中高生・保護者のアンケート結果は「共学化しない方が良い」が多数意見だったはずであり、多くの反対署名も提出されており、当事者の意見も県民の民意にも反しているため、別学を維持し、共学化推進方針は全文削除すべき。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
303	25	共学化については教育委員会において主体的に推進していくとのことですが、在校生やOBを中心に別学維持について強い要望が出ています。実際に影響を受ける学生やその保護者の意見を軽視すべきではないのではないのでしょうか。子供たちの意見を何よりも大切にしていきたい。丁寧かつ慎重な対応を求めます。我が国の男子校・女子校の成り立ちは男女差別とは全く異なるところではないかと思ひますし、結論ありきで動いているように感じ、昨今の埼玉県の対応には強い憤りを覚えます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
304	25	埼玉県教育委員会が行った各種中高生・保護者アンケート結果に反しており、到底県民の声を反映したものとは言えないため、P25の共学化推進方針は全文削除し即刻撤回すべきだ。 埼玉県内は公立の共学校・男子校・女子校がバランスよく存在しておりそれぞれのスタイルを「選べる」ことが大切なのである。 現在残されている埼玉県立男女別学校には守られてきた伝統と校風があり共学化が強行されれば「選ぶ」自由はなくなり守られてきた伝統と校風は失われ取り戻すことができなくなる。異性恐怖症で男女別学の環境でのびのびと生きていける環境が必要なものもある。さらに、2024年12月18日の内閣委員会での発言で政府側から「男女共同参画は男女別学を直ちに否定するものではない」という見解も示されている。（第216回国会 内閣委員会 第4号（令和6年12月18日（水曜日）））	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。 男女別学校・男女共学校にかかわらず、全ての生徒が安心感、充実感を得て、有意義な学校生活を送ることができるよう努めてまいります。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
305	25	2 5 ページの共学化の推進方針は全文削除すべきである。県教委が行った各種中高生・保護者アンケート結果に反していて、県民の声を反映していない。公立で別学校に通えることは埼玉県の最大の魅力であり、強みです。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
306	25	高校別学は、伝統と勉強に運動に励む若い方々の方向、選択性の重要な道であるため、別学の継続は必須です。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D
307	25	中学受験して共学に行っていて、あえて別学に受験して高校に行くという選択をした子もいます	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	E
308	25,26	共学化には賛成だと考えている。 別学12校のうち、対を成している10校は統合して共学化を行うべきであると考えている。 統合後は各地域の進学拠点校と位置付け、学科名は普通科から進学科(仮称)とすることで他校と差別化を図る。また、16～18学級程度のマンモス校にし、必要があれば既存の2キャンパス制を採り、付属中学校(2学級程度)の併設も視野に入れるというものである。また、校名は分かり易さの観点から男子校側に合わせ、制服は両校のものを足し合わせたものにする。入学試験は独自試験を行い他校と差別化を図るというものである。残る2校に関しては、まず、鴻巣女子高校は元々同じ高校であった鴻巣高校と再統合し、保育、家政の特色を持たせた高校とする。久喜高校は、単独での共学化か、近隣の高校(久喜北陽高校か鷺宮高校)との統合を行うべきであり、単独、または鷺宮高校との統合ならば、専門的な学科を設け特色を持たせ、久喜北陽高校との統合ならば、総合学科を活かして専門的な学科を設けるべきであると考えた。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えております。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 具体的なことをお示しすることはできませんが、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えています。 また、再編整備は、今後、更に生徒数が減少していく中で、一定の学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図るために実施するものと考えております。学校規模については、生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1 学年当たり 6 学級以上が望ましいと考えています。	D
309	25	浦和一女の存続を希望します。理由は、浦和一女の伝統と未来の学生のためです。女子校には、共学にはない良さがあると思います。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、再編整備は、今後、更に生徒数が減少していく中で、一定の学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくために実施するものです。 再編整備の対象となる学科・学校等については、全県を俯瞰（ふかん）しながら「再編整備の観点」を踏まえ総合的に検討してまいります。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
310	25	別学をなくしたら、男女別学を希望する中学生の自由がなくなる。「全国で男女別学は埼玉県だけだから」など根拠のない共学化は反対する。 男女別学校の伝統、文化、これを守り発展させてきた在校生の自覚と自立心は他校に秀でている。伝統校が無くなったら 優秀な生徒は東京の私立校へ流れて埼玉愛が失われてしまう。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
311	25	生徒を含む県民の声を反映していないため、P25の共学化推進方針は全文削除すべきである。真の男女平等は男子校・女子校を共学化することではなく、男子校・女子校・共学校全ての選択肢から子供たちが自身に合った学校を選択できる自由を与えられることと考えます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
312	25	共学化の推進が項目に挙がったことは歓迎ですが、具体策がありません。ジェンダー平等社会の実現に世界が動いているときに、共学化することは避けられません。少子化対策の一つとして共学化を計画するのではなく、教育委員会の意志で別学校の共学化を進めるべきです。共学化の計画を早急に示してください。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えております。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 具体的なことをお示しすることはできませんが、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えています。	D
313	25	今後、高校無償化が進むならば、公立離れがおきるのは容易に予測できる。別学は高校選びの魅力の一つであるということを、むしろ埼玉モデルとして発信してはどうか。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D
314	25	今の在校生が創り上げた魅力ある校風は貴重なものです。中学生が目指す高校は、学力のレベルだけでなく、そこに吹いている伝統、生徒が創り出す風だと思います。今までの良き校風を壊して、新しさを強調した共学校設立を推進しようとしている画一的な県教育委員会の方針に反対いたします。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
315	25	生徒を含む県民の声を反映していないため、P25の共学化推進方針は全文削除すべきである。一人の意見のために、別学を選択する権利が奪われるのですか。現在の埼玉県に存在する子供たちにとって素晴らしい“別学を選ぶ権利”を奪わないでください。多様性が叫ばれる今の社会、一律に共学化することは、それこそが社会の流れに逆行する行為ではないでしょうか。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
316	25	県教委が行った各種中高生・保護者アンケート結果では「別学高は共学化しない方が良い」という意見が多数派であり、上記方針（案）の共学化推進方針は県民の声を反映していない。また、県立高校を志望する生徒の大多数は中学まで共学校に通っていると思われるが、その中で経験からあえて異性のいない高校を選びたいと考える生徒も一定数おり、その希望は無視してよいものではないと考える。 別学校の人気が落ちているわけでも無く、高校や中学生以下の当事者から共学化の要望が湧き上がってきたわけではない現時点で、共学化推進を県の方針として決定することは暴力的にすら感じる。 P25の共学化推進方針は一旦全文削除し、幅広い県民の意見を積極的に募り時間をかけて丁寧な議論をすることが必要と考える。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分りました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、別学校・共学校にかかわらず、全ての生徒が安心感、充実感を得て、有意義な学校生活を送ることができるように努めてまいります。	D
317	25,26	高校統合・縮小について、現状把握が、中学卒業生の将来的な減少という一要素のみを前提として構成され、統廃合ありきの方針案となっている。生徒の縮小要素として、人口自然減だけではなく、私立中学・高校への生徒の流出がどの程度あるのか、また、他県での取り組みや私学助成の状況なども比較し、どこまでは到達でき、何を取り組めてきていないのか、より俯瞰的・広域的な視点での振り返りが必要。 共学化にかかる県民アンケート結果や署名提出状況も踏まえた総括も含め、県民ニーズ・社会ニーズとの関係性における合理的な説明がなされていない。その検討・判断プロセスをオープンに行い、魅力ある県立高校づくりと県民ニーズ・社会ニーズとの関係を合理的に納得でき得る方針を作り上げていく必要があると考える。	1	再編整備校数については、令和20年4月時点の公立中学校等卒業生数の推計を基に、一定の学校規模を維持した場合に必要な高校の数を試算し、算出しました。その際、地域内の県立高校の1学年当たりの学級数が6学級を大きく下回る地域などの状況や私立高校と県立高校への進学者数の状況も考慮し算出しました。 今後、具体的な再編整備校の検討に当たっては、全県を俯瞰（ふかん）しながら、周辺の高校の設置状況など「再編整備の観点」を踏まえ総合的に検討してまいります。 共学化については、今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分りました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
318	25	全て共学にするのは反対です。国立は良くて県立はダメって矛盾してます。男子校女子校を残して子供たちに選ぶ自由をあげてください。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D
319	25	男女別学の存続を希望します。全ての学校を共学化する必要があるとは思いません。公立学校でこそ選択肢の多様性を残すことが必要だと思います。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D
320	25	共学化に反対である。 理由としては、男女共学が男子校、女子校かは、自分に合った学校を選ぶ「選択の自由度を拡げる」一助となり一人一人の多様な可能性を育み、伸ばし、個性豊かな若者を育てる事につながり、ひいては『魅力』つまり若者の心を高校に惹きつける重要な要素となると考える。 また、今の若者が県立高校は男女共学にすべきと考えているとは思えない。生徒の意見を真摯に尊重すべきである。そのためにも、県内の男子校女子校の生徒、更には共学の男女生徒と共学化についてディベートを行い、その結果を真摯に受け止め、教育方針に反映させるべきである。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分りました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
321	25	共学化推進方針に反対します。全文削除すべきと考えます。 男女の役割についての定型化された概念は、共学で漫然と踏襲される場面も多く、即撤廃に結び付くものではないと考えます。また、別学は、異性の目を気にせずに勉学に打ち込めるという大きな利点があるため、別学の存続を強く希望します。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 また、別学校・共学校にかかわらず、全ての生徒が安心感、充実感を得て、有意義な学校生活を送ることができるよう努めてまいります。	D
322	25	25ページの共学化の推進方針は全文削除すべきである。県教委が行った各種中高生・保護者アンケート結果に反していて、県民の声を反映していない。男子校を共学に変更するにはお金がかかります。公立で共学校、男子校、女子校揃っているのは素晴らしいと思います。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
323	25	共学化推進方針に断固として反対いたします。 素晴らしい伝統は、男子校であるという前提の上に成り立っていることが多々あります。共学化によってそれらが失われてしまうのは心苦しい限りです。 県立の男女別学というのは埼玉県の大きな強みであり、魅力です。その選択ができる現在のシステムは非常に魅力的で、そんな素晴らしい埼玉の伝統をわざわざ潰す必要はないと思います。県民の意見がしっかりと反映される結果になることを心より願っております。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
324	25	県教委が行った各種中高生・保護者アンケート結果に反していて、県民の声を反映していないため、「魅力ある県立高校づくりの方針(案)」P25の共学化推進方針は全文削除すべきである。 共学的な環境がジェンダーバイアスを生徒たちに植え付けてしまうケースも大いにある。別学校で学ぶ中では性差に関係なく、自分自身の学びを得ることができる。性別役割分担意識に関する問題は共学か別学かで語れない以上、共学化を推進する理由がない。 特に女子校では義務教育の中で男子生徒から嫌な思いをさせられた生徒が男子生徒のいない中で伸び伸びと自分の個性を発揮している姿が見られるため、県立にもそのような場を残し、心身の成長をさせてほしい。	1	高校の3年間を男女が互いに協力して学校生活を送ることに意義があると考えております。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、男女別学校・男女共学校にかかわらず、全ての生徒が安心感、充実感を得て、有意義な学校生活を送ることができるよう努めてまいります。	D
325	25	P25の共学化推進方針は全文削除すべきであると思います。 在校生、保護者、OB、OG、中学生、県民の声を完全に無視したこの方針には断固反対です。別学、共学を選べる埼玉県の魅力ある県立高校を、なぜあえて魅力をなくす方へ誘導するのですか。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
326	25	苦情が事実誤認であり、勧告が支離滅裂なものであって、それに対する措置報告書を基に新たな行政方針として今後共学化を推進することとなると、県教育局が主体的に「事実誤認を基にした苦情を前提とした施策を進める」ことを認めることを意味しており、極めて不適切な行政運営を行うと宣言することと同義となる。 また、教育局主導で実施されたアンケート調査の回答では「男女別学校は共学化すべきでない」という意見が過半数を上回っている上、その割合も、「男女別学校は共学化すべきである」と拮抗しているとは到底言えない差をつけての結果となっている。本アンケートを抛り所にするのであれば、アンケート結果とは真逆の「男女別学校の共学化推進」とはならない。EBPMに基づいて施策を実行するのであれば、少なくとも共学化の「推進」という文言は本方針に掲載できないはずである。 「男女共同参画の推進」は具体的教育内容等で推進していくべきものであり、「共学化」とは全く関係がない。本県においては全国的にも貴重となってきた公立の男女別学校が存在しており、私立高校へ通うことが難しい家庭でも男女別学校を選択できるという点で進学選択の幅は他県に類をみないほど多様性を有しており、こうした多様性を共学化により狭めてしまうことは教育行政による愚策である。 共学化を行うことは、現存する女子校に進学したい女子や現存する男子校に進学したい男子に対して、ある種の不利益処分を新たに行政が行うことを意味する。共学化の「推進」時点で直ちに行政手続法に違反するかどうかは議論が必要などころではあるが、行政手続法の趣旨を鑑みれば、施策の実施は単に県教育局が意思決定をすればよいというだけでは不十分であり、その決定に至るまでのプロセスは透明性をもって県民が検証可能であることが求められ、施策の決定は慎重に判断をする必要がある。 上述のとおり共学化の推進を本方針に掲載すること自体に多数の問題点が含まれている。共学化問題についても問題点を含むまま進めるのではなく、全ての問題が解決できる道筋が立った時点で初めて方針として計上できるものであり、現時点で方針に掲載することは、時期尚早というだけにとどまらず不適切な行政運営であると考ええる。 共学化の推進に関連して県教育局の対応にも苦言を申したい。教育局の対応として、これらの団体等から意見書を受け取る際は教育長自らが受け取っている一方、共学化問題の当事者である高校生たちからの意見を受け取る場には教育局側は高校改革統括監の参加にとどまっており、公務員としての政治的中立性に疑義が生じる振る舞いとなっている。 行政運営の観点で言えば当事者の意見を踏まえるべきであり、「意見を聞く」は「外形として聞いた」という意味ではなく、対峙して重要視せよという意味と解釈できる。今後は行政官としての矜持を持って職務に励んでいただくことを願うとともに、公務員の振る舞いとして疑義が生じる事態が二度とないよう猛省を促したい。	1	県教育委員会としては、県男女共同参画苦情処理委員からの勧告は、埼玉県男女共同参画推進条例に基づき、県男女共同参画苦情処理委員が当該苦情について調査した結果、勧告の必要があると認めてなされたものと受け止めており、措置報告書はその措置状況を報告したものです。 今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、県では、高校に通う生徒の修学を支援するため、学費負担を軽減する制度など様々な修学支援制度を用意しております。リーフレットを配布するなど、支援制度の内容の周知に努めてまいります。 教育委員会における措置報告書作成に至る協議等の議事録は、埼玉県情報公開条例に基づき、開示の対応しております。 男女別学校・男女共学校にかかわらず、全ての生徒が安心感、充実感を得て、有意義な学校生活を送ることができるよう努めてまいります。	D
327	25	県立高校の共学化に断固反対します。 「ジェンダー平等」の観点からこのような議論になっているものと解釈していますが、一方で現在は「ダイバーシティ・多様性」の時代です。共学化はこの流れに反するものであり、断固反対します。各高校のOBOGからの意見書や、「埼玉県立の男女別学校に関するアンケート結果」でも共学化反対が多いことが明確であるにもかかわらず、その推進には大いに疑問を感じます。男子校・女子校は埼玉県の誇るべき素晴らしい伝統です。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
328	25	「共学化推進方針」に断固、反対します。 アンケートや署名活動からも、生徒たちはこれに「反対」の意見であり、これが現場の答えにもかかわらず、なぜそれが反映されないのか。 「別学だからこそ」のこれまで培われてきた伝統や思いが潰される危機にさらされている。 県内に共学校はあるにもかかわらず、多数の意見を無視して、これを推進していくとしていること自体、別学、共学を選ぶ権利、生徒から多様性を剥奪する行為ではないか。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
329	25	共学化された後、それぞれの学校の持つ伝統がなくなってしまうと思います。 県立高校を共学のみにしてしまうと、ますます私立の男子校、女子校に生徒を取られてしまい、中学受験がますます過熱すると思います。どうぞ今のまま、男子校女子校の現状維持をお願いいたします。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
330	25	各高校の個性や他校との差別化をむしろ今後も積極的に図るべきではないかと考えますし、今や数少ない別学をなくすメリットがないため、p.25「共学化の推進」を挙げていることについて、反対いたします。 学校の校風というものは一つの文化です。別学の高校の校風は別学であったことと切り離せません。共学化してしまえばその文化は消え去り全く別のものになってしまうでしょう。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
331	25	魅力ある県立高校づくりについて、少子化の折、統廃合は仕方ないと思います。しかし、だからと言って多様性を狭める選択肢を取ることに反対です。共学校、男子校、女子校を併存し、経済的に難ありの家庭でも別学を選ぶことは、この先の人生にも影響を与えるからです。 別学では、矢面に立つのも内助の功も同性です。共学では、まだまだ長が男子、副が女子が全体として多いことは事実です。これは性別役割分業を強化しています。これではいつまでも女子は補助的役割から脱却できません。 人生の中で高校の3年間くらい、希望者だけが別学に行って安心して自分の可能性を伸ばせるような余地を残しておくことは必要なことだと思います。	1	高校の3年間を男女が互いに協力して学校生活を送ることに意義があると考えております。 今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
332	25	社会的に活躍している方も浦和高校は多いです。諦めずに挑戦続ける人間が、日本のリーダーとなり、日本の未来を支えていくのではないのでしょうか。そのような人間を育てる浦和高校をなくすのは日本の大きな損失です。 一律の共学化の推進には反対します。いろいろ問題はあのは理解できますが、少なくとも、定員を超える希望者がいる別学については、埼玉県立高校での別学を選ぶ選択肢を残しておくべきだと考えます。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、再編整備は、今後、更に生徒数が減少していく中で、一定の学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくために実施するものです。 再編整備の対象となる学科・学校等については、全県を俯瞰（ふかん）しながら「再編整備の観点」を踏まえ総合的に検討してまいります。	D

番号	該当ページ	御意見の概要	意見数	県の考え方	反映状況
333	25	別学によって実現されている多様性が損なわれることを軽く見てはいけなとを考えます。 共学に生きづらさ、学びにくさを感じる生徒も少なくはないはずで、別学は居場所として必要とされる存在です。高校生という未熟で多感な時期だからこそ、自分の可能性を広げるためにどのように3年間を過ごしたいか、選択肢を多く用意してあげることが大人がしてあげられる少ないことのひとつだと思います。別学は維持し、今ある共学・別学の個性を高めていくことを推し進めることが大切です。 別学が県内にあることが埼玉県の魅力につながり、県外からも別学を求めて入学希望者が訪れる日が来るかもしれません。 最後まで諦めずに話し合いを続け、生徒たちの願いに添った答えを探し続けてください。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
334	25	共学・別学についても、多様性の一環として選択肢がある方が、むしろ魅力ある県立高校づくりになるのではないのでしょうか。 別学を残すことに賛同いたします。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D
335	25	・県内でも、親や子どもを含めて大きな関心事となっている共学化問題についてですから、一定数の、反対意見を持っている人を含めて議論すべきです。 ・アンケート結果を根拠として方針が述べられていますが、共学化についてのアンケートに触れていないのはなぜか、ご説明をお願いいたします。 ・別学でないと安心して過ごせないという子供たちの権利も忘れないで欲しいです。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 「県立高校の特色化に向けたアンケート」の高校選びの観点については、高校を選ぶ際に様々な観点がある中で、中学生・高校生や保護者がどのようなことを重視しているかを伺いました。学科・コースや通学の便利さ、授業以外の活動内容など、複数ある高校選びの観点の一つとして、共学又は別学であることについて意識している方の割合を把握できたものと理解しています。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
336	25	・勧告書の引用として掲載されている「男女別学であることだけでは条約違反とはされていないものの」の部分については、令和6年度になってから指摘を受け「条約違反」との記載から修正したものであり、当初提出された勧告書の論拠として大きな要素であった部分を欠きながら結論を導くためのプロセスの再考がなされていないものであって、その妥当性には大いに疑義があることから、引用としての掲載部分全体を省くべきである。 ・措置報告書からの引用において、「今回のアンケートや意見聴取等では、（中略）男女別学校について、「学校の伝統や校風に魅力がある」との意見も多かった。そのほか、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かった。このことから、」の部分が省略されている。この後段にある「男女別学校の共学化に当たっては、（中略）実施していく」については前後のつながりを鑑みても明らかにこの前段を踏まえての表現であり、この部分を削除すると「実施していく」の目的が読み取れなくなってしまう。本問題は別学校か共学校かという、多感な時期の生徒に与える影響の大きい重大な問題であることから、正確を期しこの省略部分についても記載するべきである。 ・「この報告で示したとおりに推進していくこととします」との表現は、措置報告書からの引用部最後にある「主体的に共学化を推進していく」のみにかかったものであるように誤解を招くおそれがあり、同引用文中にも「アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していく。」とあることから、「この報告で示したとおりに実施していくこととします」とすべきである。	1	県教育委員会としては、県男女共同参画苦情処理委員からの勧告は、埼玉県男女共同参画推進条例に基づき、県男女共同参画苦情処理委員が当該苦情について調査した結果、勧告の必要があると認めてなされたものと受け止めており、措置報告書はその措置状況を報告したものです。 県男女共同参画苦情処理委員からは、男女別学であることだけでは条約違反とされていないものの「男女共学その他の種類の教育」を奨励することにより、男女の役割についての定型化された概念の撤廃が求められており、共学化が早期に実現されるべきとの勧告を受けました。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 「6 共学化の推進」は、措置報告書の要旨を抜粋しておりますが、この報告で示したとおりに推進していくことを示しております。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
337	25	共学化の目的を明確にしてください。そして全校を共学化してください。 県教委作成の中学生向けリーフレット「埼玉県立高等学校に入学を希望するみなさんへ」には、「県内どこに住んでいても、全ての県公立高等学校に志願できます」とあり、出願資格に性別要件はありません。しかし、女子が男子校に出願したら願書は受理されません。どの県立学校でも志願できる権利を守るために全校を共学化してください。	1	高校の３年間で男女が互いに協力して学校生活を送ることは意義があると考えております。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えております。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 具体的なことをお示しすることはできませんが、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えています。	D
338	25	県教育委員会が行った各種中高生・保護者アンケート結果に反する内容であり、県民の声を反映していないため、p25の共学化推進方針は全文削除するべきと考えます。自治体が共学と別学という多様な選択肢を示している素晴らしい制度と考えます。 公立学校は公教育の場であり、別学がいわゆる男女差別の象徴といった理由なき攻撃対象になることは卒業生として看過できない考えであります。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
339	25	多感な高校時代、生活のほとんどを過ごす場所は居心地のいいところでなければならないと思います。その中の選択肢に男子校、女子校、共学校があると思うのです。３年くらい男女別の学校があってもいいんじゃないでしょうか。共学化とジェンダー教育は関係ない結果が出ていませんか。そんな中で男子校、女子校という別学はあってもいいのではないのでしょうか。 少子化が進み、倍率割れる学校は統合されるのは仕方ないことだと思います。でも、今はまだ受験して落ちる生徒がいるわけですから時期尚早ではないかと思います。魅力ある学校とは、子どもの権利条約にもあるように、「子どもの最善の利益(子どもにとって最も良いこと)」が守られるような学校運営、すなわちどんな子どもにも居場所が作れるような学校だと思います。少なくとも、全て同じように共学化してしまっは行き場を失う子どもが出てくると思うのです。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 別学校・共学校にかかわらず、全ての生徒が安心感、充実感を得て、有意義な学校生活を送ることができるよう努めてまいります。	D
340	25	多様性が求められる時代に共学のみにすることは、時代に逆行していると考えるため、「共学化の推進」に反対です。 中学時代に異性にいじめられたことから別学を選択した人もおりました。別学の維持は不登校等の防止にもつながる考えます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 別学校・共学校にかかわらず、全ての生徒が安心感、充実感を得て、有意義な学校生活を送ることができるよう努めてまいります。	D
341	25	いわゆる伝統校の別学も存続させてほしいと考えます。共学ありきではなく、男子校、女子校、共学校のある県立高校は選択をする子供たちにとって選択の幅を狭めるどころかむしろ広げてくれると思います。それぞれの特色、よさを吟味し、未来に向けて主体的に選ぶことができる環境づくりをぜひお願いします。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
342	25	・「魅力ある県立高校づくりの方針」に「男女における教育の機会均等」や「主体的に共学化を推進していく」旨が明記されたことを評価する。 ・公立男子進学校の閉鎖的な言論空間や過大な同質性は、在籍者に対する過大なエンパワメントや卒業後の社会的影響力の格差と併せて問題であり、機会均等に反する。 ・女子進学校における校風や進路選択を変化させる処方箋がない限り、少なくとも男子進学校については共学化実現まで至ることを次世代のため強く希望する。 男子校時代、教員・保護者・卒業生・生徒会や代表委員会・一般学生のいずれも声高な反対派の存在感が大きく、それ以外は無関心層が主であり、共学化賛成論を公の場で公表することははばかれる環境がありました。 上位公立校において、男子校在籍者に対する過大なエンパワメントがあり、それが卒業後・OB組織に至るまで持続し、女性がそこから締め出されている構図、機会不均等の顕れとして深刻に捉える必要があろうかと存じます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えております。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 具体的なことをお示しすることはできませんが、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えています。	D
343	25	「共学化の推進」項目全文を削除するべき ・2000年・2024年の2度にわたる参議院における質問趣旨書に対する答弁からは、日本国政府が公立の別学校に対して日本国憲法第14条・女子差別撤廃条約・男女共同参画社会基本法のいずれにも違反するものでないことを認識していることがわかります。また、2024年12月には内閣府特命担当大臣が「すべての学校における男女の共学を一律に強制するものではない」と答弁しており、公立・私立を問わず、別学という教育体系があることは何ら問題のないことも示されています。 ・県内の中高生・その保護者、つまり一番の当事者を対象にしたアンケートではいずれの категорияでも別学維持の声が共学化推進よりも多かったはずで、高校生が自分の手で教育委員会に渡した共学化反対・別学維持の署名、そして教育委員会が主体となって行ったアンケート結果、これらこそが県民から寄せられた生の声であり、行政が政策を決定・推進するときのevidenceとなるはずで、episodeやemotionなどではなく、明確な、数値などの客観的なevidenceと県民の生の声に寄り添った決断がなされることを切に願います。	1	国会答弁については承知しておりますが、高校の3年間を男女が互いに協力して学校生活を送ることに意義があると考えております。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
344	25	男女別学高校は魅力がないということでしょうか。世間で話題になる程、県立男女別学高校が存在することが悪いことなのでしょうか。 教育委員会で取ったアンケートで男女別学在校生の意見が全く反映されないで共学化推進されていくことに憤りを感じています。意見を聞くだけでなく、聞いた意見を反映させなければ意味がないと思います。 県立高校の選択肢の中で、共学と男女別学高校が選べることも魅力ある高校づくりの一つなのだと思うので、県立男女別学高校全て欠けることなく現状維持を望みます。「魅力ある高校づくりの方針」に「県立高校共学化推進」を明記することは、やめてください。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
345	25	賛成しません。反対です。県立男女別学高校の存在は、埼玉県誇るべき魅力です。県立高校の共学化方針を取り下げ、これからも埼玉県の特長を維持することを求めます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D
346	25	魅力ある県立高校のために男女平等のための共学化に反対である。定員割れを起こしているなど非効率な学校運営をしている学校などはその学校の伝統を尊重した上で共学化することは賛成ではあるが、男女平等といって定員割れを起こしてもいい学校を無理に共学化させるようなことは到底許されないものである。したがって私は共学化には慎重になるべきであると提案する。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
347	25	共学化推進も、県立高校の削減も、魅力ある県立高校とは関係のないことだと思いますので、この方針からは、P25「共学化推進」の項目は全文削除してください。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 また、再編整備は、今後更に生徒数が減少していく中で、一定の学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図るために実施する必要があると考えております。	D
348	25	「魅力ある県立高校づくりの方針」の中に「共学化の推進」について明文化してください。 ・『別学校が再編整備の対象となった場合、共学化についても検討の必要がある』程度では統廃合の結果、共学化する学校もあるだろう程度にしか取れません。県教委の理念を実現するためには再編成計画の中にはっきりとした共学化の計画を示していただきたいです。 ・これからの教育は多様な人々とお互いを尊重する姿勢の育成が大切です。共学校の中で「異性が苦手」を含め「人との付き合いが苦手」な生徒への対応を考えていくことは十分できるはずです。 ・性の多様性について、教職員用パンフレットには「性のあり方は男性女性だけではなく（中略）厳密には一人一人異なっていると言えます。」とあります。この姿勢と男女別学が存在（これは男女2つに分けている）を解消しない姿勢は二枚舌と言わざるを得ないと思います。 ・「別学校と共学校の両方が選べる多様性」を主張する方がいるようですが、全てが共学校になることによって、生徒が選べない学校が無くなるわけで、学校選択の多様性が拡大する事になると考えられます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えております。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 具体的なことをお示しすることはできませんが、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えています。 また、再編整備は、今後、更に生徒数が減少していく中で、一定の学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図るために実施するものと考えております。共学化の推進については、「第3章 県立高校における教育活動・教育環境」に記載しており、「第4章 県立高校の再編整備」には記載しておりません。	D
349	25	25ページの共学化の推進方針は全文削除すべきである。県教委が行った各種中高生・保護者アンケート結果に反していて、県民の声を反映していない。「県立高校の特色化に向けたアンケート」結果の概要の【高校選びの観点】の中で「学校のイメージ・校風」が比較的高いことに注目する必要がある。各校が築いてきた校風を生かすことが大事であり、再編して一から魅力づくりをする必要はない。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
350	25	p.25 共学化を進めると、どう魅力ある高校につながるのか、この文章からは判断できない。多様なニーズに対応するというならば別学も貴重な選択肢の一つなのではないか。男子校・女子校は古からの伝統校で、県立高校の魅力を高めてきた実績がある。共学化することによって、そのパワーが落ちてしまえば、県内の優秀かつ私立に通わせる財力がある家庭の中学生が都内の男子校・女子校に流れるだけで終わってしまう。幅広い成績の中学生に対応できる魅力ある県立高校の選択肢が必要だと考えるのであれば、安易な共学化は避けるべきである。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
351	25,26	特定の宗教に縛られたり、周囲の家庭の経済状況を気にしたりせずに高等教育を受けることができる県立高校を維持していくことは大変重要なことだと考えている。少子化が進む中、県立高校の数を減らす必要が生じることは理解できるが、別学は貴重な選択肢の一つであることに加えて地域の中心や誇りになっている県立高校を減らすことに対してはより慎重な論議が必要。本当に少しずつしか減らしていいはいけないと思う。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
352	25,26	県内の別学男子高校には、お隣さんでありライバルでもある名門女子公立校もあります。それぞれが文化気風に誇りを持って競い合い、講し合う良い関係です。違うもの同士が隣り合い存在していくこそが多様性です。 公立高校の再編を行うなら、定員割れの続く学校から手を付けるべきではないでしょうか。現状では別学の学校のほとんどは高い倍率を維持しています。そこに無理やり手を入れる理由などありません。どうか県民の声に耳を傾けてください。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。 学科改編や学校の統合など再編整備は、今後更に生徒数が減少していく中で、一定の学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図るために必要があると考え、実施しようとするものです。今後、具体的な再編整備を検討する際には、各県立学校の生徒数の現状や周辺の公立中学校等卒業生数の見込みなど方針案に記載した「再編整備の観点」を踏まえ総合的に検討することとしております。	D
353	25	男女別学の共学化推進に反対します。 女子校だったからこそ経験できたこともありました。署名活動やアンケートで多くの現役生徒たちや卒業生たちが送った共学化反対の意見を反映させていただきたいです。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
354	25	できる限り各個人に合った又は各個人が望む教育の場を提供することも重要な教育ニーズであり、共学か否かを選ぶこそが機会均等ではないでしょうか。埼玉県内の意欲ある優秀な男女中学生が都内私立高校等より、魅力的な個性的な埼玉県立高校を選ぶようよろしくお願いします。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D
355	25	県教委が行った各種中高生・保護者アンケート結果に反していて、県民の声を反映していないため、「魅力ある県立高校づくりの方針（案）」P25の共学化推進方針は全文削除すべきである。埼玉県立別学校の共学化に断固として反対する。 異性がないことで友人たちと素の自分で接することができ、充実した学校生活を送っている。県立の別学校か共学校かを自分で選べるという、埼玉県ならではの素晴らしい環境を残してあげたい。 新しい魅力を創ろうとするのではなく、既にある魅力をしっかり認識して、守ってほしい。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
356	25	埼玉県には大宮高校や浦和一女という同程度の学力の魅力ある高校があり、女子の選択肢が狭まっているわけではないと考える。特色ある男子校、女子校はそのままで十分目的を達成できるし、むしろ共学化することで個性ある魅力が半減すると思う。共学化することでごく平均的な、どこにでもある、面白みのない、薄っぺらいものになってしまうことを危惧している。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
357	25	方針、方向性と現在の状況を鑑みた内容と感じられました。ただし、最後の『共学化の推進』のみが取って付けたような内容で違和感を感じました。多様性がキーとなっている中で、逆行する内容かつ、アンケートでも共学化が必要とされているとは判断されていないものであったと認識しています。「共学化の推進」は、魅力ある県立高校づくりの方針に不要な項目であると思います。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分りました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
358	25	県立高校共学化の推進方針についての意見です。別学で生き生きする子は少なからずいると思います。県内には共学校はたくさんあり、別学はそこまで多くないのではないかと思います。なぜ、強硬に共学化を推し進めるのでしょうか。男子校だからといって男女差別を助長する教育など、現在どこも行っていないと思います。別学を希望する子供たちを置いてけぼりにしないでください。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分りました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
359	25	男子校に行きたい人、女子校に行きたい人、共学に行きたい人が、それぞれ選択できることが大切になっていくかと。一律に共学にして同じ高校を増やしていいかと強く思います。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分りました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
360	25	男女共同参画を実現するために現在ある県立高校の別学を維持するべきと考えます。大学進学等自らの人生設計を考えると、各性に特化した指導を受けられるのはとても魅力に感じます。埼玉県は、経済的問題に左右されことなく自由に別学共学を選択できるととても良い環境だと思います。男性が日本社会において圧倒的マジョリティであることを自覚する教育をするべきです。	1	高校の3年間を男女が互いに協力して学校生活を送ることは意義があると考えております。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D
361	25	25ページの共学化の推進方針は全文削除すべきである。生徒を含む県民の声を反映していない。共学、別学を選ぶことができる埼玉県の県立高校はとても魅力的であり、すばらしい特長です。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分りました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
362	25	P25の共学化推進方針は全文削除すべきと思います。県教委が行った各種中高生・保護者アンケート結果に反していて、県民の声を反映していないのではないか。 ・クイズ番組で私学御三家に勝るとも劣らない浦和高校を、埼玉県の誇りとして残すべきではないでしょうか。 ・私の母校の制服は浦和一女を模したものでした。一女に続けという意欲の表れでした。同一県内でそのように憧れとされる学校を無くしてしまったら取り返しがつきません。 もっと時間を掛けた議論が必要だと思います。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
363	25,26	「6.共学化の推進」が理解できませんでした。学校統合と共学化は別ものです。この（案）に載せるべき項目ではないと思います。別学のメリットを十分理解できていないと思います。共学化はあくまでも反対です。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 また、再編整備は、今後更に生徒数が減少していく中で、一定の学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図るために実施する必要があると考えております。	D
364	25	男女別学高校を早急に共学化するべきである。男女共同参画の理念から逸脱している。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えております。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 具体的なことをお示しすることはできませんが、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えています。	D
365	25	P25の共学化推進方針は全文削除すべきである。県教委が行った各種中高生・保護者アンケート結果に反っていて、県民の声を反映していない。共学化後の影響などの説明もなされていない。 どのような論理で共学化を推進しているのか明言し、反対意見に対し、逃げずに論理的に反論すべき。	1	高校の3年間で男女が互いに協力して学校生活を送ることは意義があると考えております。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
366	25	これまでの再編整備でも、県教委・高校づくり課の執政には拙速かつ強硬的な側面を感じるとともに、遺憾の意を抱かざるを得ません。さて、今回の（案）改訂においても、プロセスに問題のある点が散見されます。特に、別学高校の共学化推進についてです。ジェンダー教育の推進自体には大いに賛同するところですが、そのために別学校を共学化するという手段を取るのはいさぎよく飛躍しています。その効果の証左足り得る学術的な根拠も明らかではありません。現状の提示（案）から共学化推進の文言を削除し、現役高校生らへの意見に正対し、建設的な議論の場を設けてください。 1 「魅力ある県立高校づくりの方針（案）」25ページにおいて記述された、共学化推進方針について、当該部全文を削除することを強く求める。県教委が実施した中高生や保護者を対象とした質問紙調査（アンケート）の結果を無視しており、県民の声を参考にしていないと到底判断できない。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
367	25	「6 共学化の推進」 県立高校であるからこそ、女子校の存続が必要と考えます。私学において別学校が多く存在し、そこを選択する生徒も多いことから、女子校を残すことが差別となるという主張に合理性はないと考えます。そもそも教育の機会を均等にすることが必要であり、別学であることにより教育の質や機会が異なるのであるならば、別学に対する議論の前に検討すべき課題です。生徒の多様性への対応を主眼とする改革であるならば、女子校の存続こそは多様性への対応の一つと考えます。女子校を選択したいが高額な私学に行くことしか選択できなくなれば、機会の喪失となり、本来低額の学費できちんとした教育をする県立高校の存在意義から外れると考えます。トランスジェンダーの生徒への入学許可も考慮する必要があると考えます。女子校では通常男子がやるであろうことも女子が率先して実施しており、将来社会に出てからも自主的に動き、活躍する準備ができると思います。このことは女性活躍に寄与すると考えます。男子生徒との共学で学べるであろう社会的構造との折り合いの付け方などは大学で学ぶことも遅くはないと考えます。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、県では、高校に通う生徒の修学を支援するため、学費負担を軽減する制度など様々な修学支援制度を用意しております。リーフレットを配布するなど、支援制度の内容の周知に努めてまいります。	D
368	25	教育委員会が示した県立高校の見直し案の中で共学化を主体的にとりましたがその結論を出す経緯にとても納得感がありません。学生たちにとったアンケートの結果を細やかに分析や意見のくみ取りがされず、別学を望む声が無視されているのではないのでしょうか。この先、少子化が進むことにより学校編成の見直しは必然であり魅力ある県立高校づくりがなされることは分かります。しかし、そのためには、1校ずつしっかりとヒアリングを県民がどういった県立高校を望んでいるのか、これから県立高校を目指す子供たちに必要な学校はどんなものなのか、キチンと議論を公開して欲しいです。別学校が長い時間をかけて築き上げた教育環境は、一度原型を根本的に無くすと埼玉の魅力ある教育環境を失うことになりかねません。共学化推進の文面には納得できません。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
369	25	共学化に反対します。県立高校で共学と別学が選べる自由と選択肢があつてこそ、本当の魅力ある県立高校であると思います。在校生の意見を聞かずに共学化するのは、横暴です。男女平等は、共学で実現できるものではありません。共学化とは別問題です。全国的にも知名度の高い浦和高校を学力的に落とすことになりかねません。各学校、長く引き継いだ伝統精神があります。共学化しては、名前を残したとしても、中身が変わります。共学化して学校がなくなれば、伝統も消えます。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
370	25	共学化反対 ・埼玉県は、別学が選べる魅力を残すべき ・別学が選べなければ、東京の私立に行くしかない者が出てくる。金銭的に余裕がない家庭の子が、別学を選べず、共学県立高校で我慢するしかないのは、不平等。 ・埼玉県の特色ある別学こそ、重要文化財。定員割れしていなければ、需要があり、価値があるということ。 ・埼玉県のトップ別学高校は、全国的に知名度が高く、東京有名私立校に対抗できる学校である。これこそ、埼玉県の魅力ある県立学校。 ・価値ある伝統高校は、変革より守り引き継ぐもの、それこそ、魅力が高まるもの。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
371	25	P25「共学化の推進」の項目全体の削除を要求します。希望する人には通う権利があるべきだと思います。公立だけ、なぜ別学を無くすのか理解できません。男子校、女子校、共学と選べる埼玉県の魅力を壊さないでください。県民や別学に通う生徒の意見を反映させるべきです。県民の意見を無視し、共学化を進めることは、「こども・若者基本条例」第12条（こども・若者等からの意見聴取及び意見反映）に違反しています。共学化に賛成している意見の数と反対している意見の数を発表してください。絶対に反対している人の方が多いはずだ。今ある学校の伝統を壊さないでほしいです。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
372	25	別学を尊重します。男子校、女子校、共学それぞれの特色メリットを大いに生かすべきです。子供たちが選ぶ選択の自由を尊重してほしいです。男子校、女子校の伝統と良さがあります。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
373	25	男女共学校、男女別学校それぞれ良さがあり子供たちも選択肢があるのが尊厳を守ってあげられることと思います。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D
374	25	共学化の推進の撤回を求めます。 ・県民や生徒の意見を取り入れるならば、アンケートの結果をより重視するべきであり、現状では、県民の意見が尊重されているとは言えません。 ・埼玉県の県立別学高校には尊ぶべき伝統と、それに連なる人のつながりがあります。これらの伝統こそ埼玉県立高校の魅力であり、引き続き守り育てるべきです。 ・別学を共学化することは、教育ニーズの多様化に逆行します。 ・中学卒業者の減少は、共学化推進の理由にはなり得ません。なぜなら高校の倍率は別学高校が特に低いというわけではないためです。いずれ再編整備が必要だとしても、特定の学校形態だけを狙い撃ちにすることは不公平であります。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。 再編整備は、今後更に生徒数が減少していく中で、一定の学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図るために実施する必要があると考えております。	D
375	25	P25「共学化の推進」の項目全体の削除を要求する。 ・国は別学を認めている。埼玉県で別学が認められないのはおかしい。 ・反対署名、県民による反対のウォーキング、県民アンケート、別学校当事者の意見聴取会、どれをとっても民意は総じて反対である。 ・県民の意見を見無視し、共学化を推進を進めることは、「こども・若者基本条例」第12条に違反している。県民や別学に通う生徒の意見を反映させるべきだ。共学化を推進する理由の説明を求める。 ・共学、別学と選べるのが多様性であり、それらを維持していくことが真の埼玉県の魅力ある学校作りである。	1	高校の3年間を男女が互いに協力して学校生活を送ることに意義があると考えております。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
376	25	「魅力ある県立高校づくりの方針」(案)のP25「6 共学化の推進」に対して、全文削除すべきと考えます。 ・昨年埼玉県教育委員会が行った「埼玉県の男女別学校に関するアンケート」の結果に反して、県民の声を反映していない ・様々な理由から県立の別学校への進学を希望する生徒が、共学化により私立の別学校に進学せざるを得なくなる ・別学と共学、両方の県立高校があることは埼玉県の大きな魅力である ・別学校を共学化することによって、それまで培われてきた伝統が失われることを危惧する ・現在ある別学校は単なる高校というだけでなく、地域に根付いた存在でもあり、共学化されることによってその地域の雰囲気が変わることを危惧する ・別学校を共学化する際には、大幅な設備改修が必要になる	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
377	25	昨年度提出された別学各高校のアンケートの意見が生徒を含む県民の声です。これから進学する子供たちのためにも、希望する学校を選ぶように別学の選択肢を残してあげてください。共学化推進方針の全文削除を切に願います。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
378	25	たった1通の苦情申し立てから始まった動きですが、マイノリティにも平等の権利は認められてしかるべきと思いますが、マジョリティが我慢し、様々な不利益を被るのは正しい社会ではありません。 男女別学・共学のどちらを選択してもいいんです。選択できる受け皿があることが、埼玉県の特長であり、教育文化であると思います。これは守るべき文化であり、捨ててしまっはいけない文化です。 私立過多の助成になっていることも、県教育という観点では異常ではないでしょうか。 魅力ある県立別学高校を無理やり共学化することは、全くの矛盾であり、合理的な判断ではありません。まずは老朽化した施設を整備し、子供たちが「進学したい」と思う教育環境を整えることです。私に魅力的な施策があれば、それを導入するのとも良いでしょう。また、伝統文化は継承しつつ、県民・地域に愛され、誇りに思われる県立高校であってほしいと思います。他県の共学化の経緯に合わせる必要はありません。埼玉県の魅力である男女別学という選択肢は残すべきです。すぐさま共学化については撤回し、県民の意見でもあるように別学維持を強く求めます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、県立高校の安全で快適な教育環境の整備に努めてまいります。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
379	25	県立高校の共学化を推進することへの反対を表明します。男子校、女子校ならではの良さが有ります。昔からの伝統もあります。共学校には馴染めない生徒もいます。全て共学にしてしまったら選ぶことができなくなってしまいます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 男女別学校・男女共学校にかかわらず、全ての生徒が安心感、充実感を得て、有意義な学校生活を送ることができるよう努めてまいります。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
380	25	魅力ある県立高校づくりの方針のうち、女子校と男子校の共学化を推進する点を猛烈に反対します。 ・県教委は勧告が出て以降、県民の声を聞く、と言っているにもかかわらず、2024年8月22日付措置報告において、同報告の資料にあるとおり、共学化賛成よりも反対の方が多いのだから、言っていることとやっていることが違う。 ・県知事も「当事者である生徒の声を聞くべき。」と言っている。措置報告に添付されているとおり、アンケート結果や関係者からの意見書を反映すべきである。 ・120年前に女子校男子校があって人口増と共に学校が増えてきて、それらは共学校。これから生徒が減って学校を減らすなら、それら新設校から減らすのが筋である。競争倍率からみても同様。 ・別学のほうが教育的効果が高いことはご存知のとおりであり、県民の反対はないであろう。 ・県立高校の9割以上が共学校であり、残り9%の別学校も共学化する意味はない。共学校と別学校の両方を選ぶ素晴らしい状態を維持すべきである。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
381	25	共学化問題に関して、公立高校における進学先選択の幅を狭めるようなことは非常に勿体ないと感じます。公立高校が全て共学化されてしまったら、別学に通いたい人たちは、私立高校を選ばなければなりません。金銭的に難しい人はどうしたらいいですか。諦めて共学に行かなければいけないのですか。多様性の尊重や、男女平等を大切にしなければいけないことは理解していますが、果たして全ての公立高校を共学化することだけが、多様性の尊重や差別の解消につながるのでしょうか。女子校だからこそ得られた学びや経験がたくさんあったと思っています。一部の共学化を訴えている方々の意見と同じように、反対している人たちの思いも、受け止めてお考えいただきたいと思います。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
382	25	25ページの共学化の推進方針は全文削除すべきである。県教委が行った各種中高生・保護者アンケート結果に反していて、県民の声を反映していない。選択肢が狭まることで多様性の向上につながるのでしょうか。伝統を破壊するだけの文化相対主義の悪い部分の表れのように感じます。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
383	25	それぞれの別学校の校風や伝統をなくして均一化することがジェンダーフリーだとは思いませんし、選択肢の幅をかえて狭めるのではないかと思います。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
384	25	高校は共学、男子校、女子校、様々あって良いと思う。それぞれの良さがあります。男子がいれば力仕事は男子になどと分けて男子に頼ることになり、それが当たり前になってしまったと思います。そういう先入観なしに、何でも自分たちで出来るという、自分をそして女性を信じていることができる力を養うことができたと思っています。全てを共学にする必要はないと思っています。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
385	25	P25の共学化推進方針に関して、全文削除していただきたいです。埼玉県の実役中高生やその保護者への共学化に対するアンケートで出た結果を取り入れていないと思いますし、埼玉県の貴重な財産をなくさないでほしいです。埼玉県立の男子校、女子校を残していただきたいです。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
386	25	一概に共学が良いとは思えません。男女、それぞれの特性を伸び伸びと伸ばせる環境は、貴重で大切な場所です。公立高校に共学か、別学か、好きな環境を選べる選択肢があるべきだと考えます。埼玉県において100年以上の伝統ある、子供たちが行きたい！親が行かせたい！と思える別学の高校を、苦情が1件あったからといって軽々と共学に変える動きには、断固、反対します。別学の高校として現状維持させていく方が望ましい高校は、絶対に残すべきだと考えます。埼玉県の誇りとなる名門高校を残して、将来、日本社会へ出て、第一線で活躍する人間を教育できる環境は、大切にするべきだと考えます。埼玉県の公教育の砦として守るべきものは、守ることをお願いいたします。共学を希望する子供たちと別学を希望する子供たちが公平、平等に選べる未来、充実した高校生活を選び取れることが、魅力ある県立高校だと考えます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
387	25	男子校、女子校の存続を望みます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D
388	25	P25の共学化推進方針は全文削除すべきである。生徒を含む県民の声を反映していない。男子、女子、共学が選べる埼玉県こそ住みやすい学びやすい県なのではないですか。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
389	25	共学化には絶対反対である。 私立を含めると日本国内の中学、高校において別学は多数存在しており、共学化が社会共通の認識に成熟しているとは言えない。別学の県立高はトップクラスの進学校であり、中学生の成績上位者の憧れとなっている。この憧れは単に進学実績が高いというだけでなく、各高校の歴史と伝統に基づいた校風によるものが大きい。 「第3章 6 共学化の推進」で、「県民の意見を丁寧に把握する必要がある」とは言いながらも、「主体的に共学化を推進していく」と結論付けている。これは、当事者である卒業生・在校生の意見を無視したもので、到底受け入れることはできない。別学が共学になるということは、当事者からすればその学校が長年積み重ねてきたアイデンティティの喪失であり、母校がなくなることに等しい。当事者である、在校生や卒業生の意向を踏まえずに、愛する母校を奪うことは絶対に止めていただきたい。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
390	25	なぜ共学化を推進したいのか全く理解できません。別学も魅力ではないでしょうか。女子校で過ごした日々は大切な宝物です。共学化されると、別学校の伝統が壊されてしまうと考えるととても悲しいです。これからも別学校の伝統を引き継いでいきたいと強く思っています。共学には共学の良さがあり、別学には別学の良さがある。それでいいのではないのでしょうか。その学校にしかない魅力だってあります。一度、各学校について調べてみてほしいです。これからの子供たちが全員共学化を望んでいるとお思いなのでしょうか。苦情はたったの1件だと認識しております。共学化反対の意見が数百件以上も出ているのに対し、その一人だけの意見を優先する理由はなんなのでしょうか。私たち、そしてこれからの子供たちから選択肢を奪わないでください。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
391	25	P25「共学化の推進」項目全文を削除すべき。共学、別学、どちらも選べる方が多様性を尊重する社会においてよいと思う。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
392	25	男女平等を掲げることで、別学に行きたい人は私立に行けばよい、私立に行けない人は行けなくともよい、そういう家庭から優秀な人材が育ってもらわなくともよい、といった考えがあるような気がします。	1	県立高校は、生徒が豊かで幸せな人生を送るとともに持続的に発展する社会の創り手となるよう、予測が困難な社会の変化に対応できる力や学びを人生や社会に生かす力を育成し、生徒一人一人の多様な可能性を伸ばしていきたいと考えております。 今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	E
393	25	2 5 ページ「共学化の推進」項目全文を削除すべき。アンケート結果など県民の意見が反映されていない。生徒が選べる自由をよろしく願っています。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
394	25	6 共学化の推進 今回の方針（案）において共学化を推進しないことを求めます。 現在およそ 9 割が共学校を卒業しているにもかかわらず男女平等が達成されていないというのであれば、別学校の存在は男女平等を進める上での障害になるとは思えません。教育的な観点からの理由が示せないのであれば、共学化は進めるべきではありません。共学校、別学校の割合は、学生のニーズに応じておりバランスがよいと思います。現状を崩してまで共学化を進める理由はありません。埼玉県子ども・若者基本条例第 1 2 条を尊重するよう求めます。関係者全員の回答は得られなかったようですが、県が広く声掛けをして実施した学生、生徒及びその保護者を対象としたアンケートでは現状維持を望む声が多かったように思います。あえて別学校を選んだ生徒の意思を尊重してください。 男女共同参画苦情処理委員からの勧告等を根拠にするならば、以下の詳細を方針案に記載してください。記載できないのであれば、勧告書及び措置報告書を根拠としないでください。 1 勧告書の主旨である「男女の役割についての定型化された概念」が別学校で生じているという根拠と教育委員会の見解。 2 措置報告書にある「男女が互いに協力して学校生活を送ることの意義」について、意義とは何か。別学校に進学することで共学化以外に代替手段が一切なくその意義が達成されないとする具体例。 これから受験を迎える生徒のうち、是が非でも入学を認めてほしい男子校に行きたい女子、女子校に行きたい男子がどのくらいいたのか、生徒本人から県に寄せられた要望の年度ごとの統計を方針案にお示ください。別学校を希望する生徒は 1 割程度なので全体から見たら少数であるが、これよりも更に少ない生徒数の希望であるならば、別学校のニーズを排してまで進めることは、別学校を希望する生徒への明らかな権利の侵害であると考えます。 勧告書の主旨に男女の役割の固定化と教職員の男女格差の問題が示されていましたが、方針案では教職員の部分が略されています。勧告書の主旨はこの 2 点であることから、略さず記載してください。 方針案全体で「多様なニーズ」が出てきますが、別学校の存在が「多様なニーズ」に当たらない理由を説明してください。別学校には別学校の特色、魅力があります。	1	県教育委員会としては、県男女共同参画苦情処理委員からの勧告は、埼玉県男女共同参画推進条例に基づき、県男女共同参画苦情処理委員が当該苦情について調査した結果、勧告の必要があると認めてなされたものと受け止めており、措置報告書はその措置状況を報告したものです。 社会において男女がともに活動している中で、高校の 3 年間を男女が互いに協力して学校生活を送ることは意義があると考えています。 今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、県立高校の女性管理職及び女性教職員の割合について、県立高校全体として女性管理職を増やすとともに、特に男子校における女性管理職について、女子校や男女共学校との均衡を図ってまいります。また、男子校の女性教職員の割合、特に女性教員の割合について、男女共同参画を推進する観点から、学校間の均衡に努めてまいります。 全ての県立高校で、男女共同参画の視点に立った教育を推進していきます。	D
395	25	高校別学の共学化断固反対 大多数の県民、特に中学生や現役高校生の多くが反対している。共学化を推し進めようとしていることに対して民主主義の冒とくであり、別学、共学校どちらもあることが将来のある子供たちに選択肢を与え多様性に寄与すると意見します。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
396	25	2 5 ページ「6 共学化の推進」は全文削除すべき。アンケート結果等からの考察がなされておらず、十分な検討がなされているようには見えない。	2	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考え、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分りました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
397	25	6.共学化の推進 について 限られた期間、異性のいない学校生活において、全ての役割を性別にとらわれることなく遂行しなければ学校生活が円滑に進まないで、「男性がやるべき」「女性がやるべき」といった固定概念がなくなります。また、個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められるのであれば、是非共学校に加えて別学校を残してください。この選択肢があることこそ埼玉県の高校の強みであり、素晴らしい制度であると感じます。 高校選びのアンケートがありますが、小学生や中学生、また実際別学校へ通ったことのない方にアンケートする際に現在ある埼玉県の別学校をあるがままにイメージしていただくことは難しいかと思います。別学校を知らない方々ではなく、実際に経験した方々の声に耳を傾け真摯に向き合ってください。別学校を単なる世相や偏見、一部の反対意見で簡単に潰さないでください。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考え、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分りました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
398	25	今回の方針のP25共学化推進には反対です。埼玉県には、様々な共学高校があります。なぜ数少ない別学をわざわざ共学にするのですか。別学を共学化する予算があるなら、子供たちの教育を充実させることに使ってはいませんか。子供も“別学の選択肢はくさくないで欲しい”と希望しています。それは、別学を希望するクラスメイトがいることも知っているからです。共学が良ければ共学、別学を希望するなら別学へ進学、それで良いのではないのでしょうか。子供たちの気持ちを無視して共学化を進めないでください。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考え、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分りました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
399	25	県下の公立高校が全て共学校では少しも多様さを感じることはできません。国が別学を維持しているのに1行政区の埼玉がわずかな別学校を共学化する意味はありません。共学化は多様性に帰属するとも書いていますが、全体の1割程度の別学校を変革したところで、どんな良い男女共同参画の影響が得られるでしょうか。欧米では、近年別学ブームが到来しているそうです。きめ細かな教育を施すには別学がうってつけだそうです。県はもっと他の事に専念すべきです。別学校を共学化することでかかる多額の税金があるならば、他の公共事業に掛けていただきたい。別学維持ということで署名が万単位で集まっています。もっと多くの別学維持の声は確実にあります。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考え、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分りました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
400	25	P25項目「共学化の推進」は項目全体を削除すべき。県教育局が令和6年4月～5月に行った「県立高校共学化に関する中高生・保護者アンケート」では中学生・中学生保護者・高校生・高校生保護者全ての対象において「県立高校を共学化しない方がよい」が「共学化した方がよい」を上回った。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考え、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分りました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
401	25	県立高校の共学化に反対し、男女別学高校の維持・存続を強く希望します。 １．意思決定の透明性確保 県立高校の共学化に関する協議から決定に至る過程において、透明性を確保することが不可欠です。 ・協議の議事録公開 ・アドバイザーの選定基準及び根拠の明示 特定の政治団体や企業との不当な関係がないことを公式に宣言すべきです。公教育の在り方が、公正かつ中立な議論の下で決定されることを強く求めます。 ２．男女別学高校の必要性～性被害を受けた生徒への配慮～ 男女別学高校は、性被害を受けた生徒が安心して進路を考えるための重要な選択肢となり得ます。継続的な心のケアを必要とする生徒が高校進学後も安心して学べる環境を提供することは、公教育の責務であり、男女別学高校は、そうした生徒にとって重要な選択肢で、存続の意義は大きいと考えます。 ３．別学高校の共学化の進め方について 生徒数の減少を考慮した高校再編については、単純な共学化ではなく、以下の方法も検討すべきです。 ・女子校同士、男子校同士を優先的に統合し、男女別学の形を維持する。 ・最終的に県内に残った最後の男子校１校と女子校１校を共学化する形とする。 このような段階的な再編を行うことで、男女別学を求める生徒のニーズを最大限尊重しつつ、柔軟な対応が可能になると考えます。	1	「魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議」は、本方針案の検討に当たり有識者や教育関係者からの意見を伺うため設置したものであり、令和６年度末までの設置としています。魅力ある県立高校づくりアドバイザーには、有識者や産業関係者、保護者、教育関係者など、各分野で活躍されている専門家や団体等の代表者などを選び、今後の魅力ある県立高校づくりに向けて意見を伺いました。 また、教育委員会における措置報告書作成に至る協議等の議事録は、埼玉県情報公開条例に基づき、開示の対応をしております。 今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、再編整備は、今後、更に生徒数が減少していく中で、一定の学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくために実施するものです。 再編整備の対象となる学科・学校等については、全県を俯瞰（ふかん）しながら「再編整備の観点」を踏まえ総合的に検討してまいります。	D
402	25,26	男子校に通う学生です。県内公立高校の統廃合と再編整備には賛成の立場です。また、その中で男女別学校が共学化されることも致し方ないことであると考えますが、統廃合や再編整備をする中で理想の共有をして現役高校生など当事者との対話をするをを要望します。現在の共学化に関する議論はどうしても両者話が噛み合わず納得感も得られていないように感じられます。その原因は両者の目指すものが異なるからです。別学維持、共学化という異なる方向性の統一を要望したいわけではなく、「埼玉県の高校はこうありたい、こんな魅力ある高校にしたい」という理想のようなものの統一を要望します。統廃合・再編整備をなぜ実施しなければならないのかは十分に理解できますが、課題解決のために母校を統廃合をしますと言われた生徒や卒業生らは納得感を得られていない方は多いのではないのでしょうか。そんな生徒や卒業生の納得感を得るために意見交換の場を設けたとしても、両者は対立する正義を持ち合わせているので相手を崩すディベートをするしかなく話し合いは平行線をたどります。そこで、理想という両者が合意できる共通のゴールを設定した上で、現役の高校生など当事者と具体的な内容の一つ一つ丁寧に議論するべきだと考えます。両者が合意した共通のゴールを作ることと折衷案を模索するなど両者叩き合いのディベートではなくて建設的な対話が生まれます。主張が異なるという敵対意識ではなく共に理想に向かって走る一員としての意識が生まれます。そして、それらは両者の納得感ある結論に導くと信じています。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	C
403	25	中学卒業生数減少に伴う、過疎地域などの統廃合、IT、AI人材の不足やグローバル化に伴う対応のための学校改革などは理解します。しかし、男女共学化についてのページについては、本方針案の中で毛色が異なるものが混ざっており、強い違和感を覚えます。別学の高校に通う生徒の多くは小中学校の義務教育では共学で学んでおり、３年間別学校で学ぶことにより、共学校で学んでいたときには男女で無意識に区別されていた男女の役割を自覚することが多く、本当の意味での全体像が見えています。そのことが、将来本人たちにとって本来の男女共同参画への理解を生むと考えます。別学で学ぶ事がむしろチャンスなのではないでしょうか。公立学校では共学しか認めない、別学で学びたいのであれば私立学校へ、というのは、むしろ子供たちの多様な学び、多様な可能性を県が奪うものだと思います。既に存在している別学校を全て無くすというのは乱暴ではないのでしょうか。アンケート調査結果や署名活動などでも多くの方が、別学校の維持を訴えており、直接的な民意を無視しているようにも感じております。県教育委員会は、どの様な議論の方法で、どの様な内容が議論され、どの様なプロセスを経て「主体的に共学化を推進していく」と決定されたのでしょうか。私には、何らかの理由により共学化ありきで、強引に進めているように映っています。海外では、共学校から別学校へシフトするような動きも見られており、共学化しないと男女共同参画に支障をきたすような風潮は、今では逆に古い考え方であると思います。埼玉県は、別学校があることをむしろ現代の多様性の強みとして、前述のように別学だからこそできる男女共同参画への学びの場として誇りを持ってほしいのです。以上により、私はP25「6 共学化の推進」は再考の余地が多いと思われ、今回は一旦削除した方が良いと考えます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、教育委員会における措置報告書作成に至る協議等の議事録は、埼玉県情報公開条例に基づき、開示の対応をしております。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
404	25	2 5 ページ「共学化の推進」項目全文を削除すべき。アンケート結果など県民の意見が反映されていない。勧告を全面的ないし部分的に受け入れることは県政運営において重大な民意への背信であると考えます。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
405	25,26	少子化に伴い高校数の削減については賛同しますし致し方ないことだと思います。 しかし、たった一人の苦情のために、共学化にしなければならないというのは理解できません。専門的な学校を増やすというのも良いことだと思います。子供たちに行きたい学校の選択肢が多いことは素晴らしいと思います。その中に男女別学があっても良いではないですか。小中学校と共学で過ごしてきて高校は別学が良いと選択したい子たちもたくさんいます。別学に行きたければ私学に行けばいいと簡単におっしゃる方もありますが、経済的理由で行けない子もいます。その子たちの選択肢を無くさないでほしい。他県が皆共学だから埼玉県も右倣えじゃなければいけないのでしょうか。定員割れの学校の統廃合等は致し方ありませんが、希望者数の多い別学は残しても良いのではないのでしょうか。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
406	25	現状のように男女別学高校と共学高校の豊富な選択肢を抱えることこそが埼玉県の魅力であり、適切な予算配分で各施設の充実を図っていただきたいと思います。埼玉県の宝である若者の未来を、公立別学高校の充実によって盛り上げていただくことを期待します。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 また、教育環境の充実に向けて、必要な予算の確保に努めてまいります。	D
407	25	これからの未来の子たちのために、長い歴史のある、女子校を潰さないでください。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
408	25	25ページ 共学化の推進は不適切だと思います。まず、高校生活は言うまでもなく学生の人生に大きく関わるものであるため、学生第一に考えていただきたいです。共学化することにより、学校の文化は全て見直され、かつてのあり方は失われるでしょう。これは共学化ではなく、実態は別学を廃校にし、全く別の共学の学校を新たに開校することにほかなりません。できた高校の教育の水準が元々あった水準に届くかはかなり疑問です。これまでの各学校の努力を踏まえれば、水準が下がることは容易に想像できます。水準が下がるのであれば、別学であれば受けられた水準の教育を、学生から奪ったということになります。男女が平等に下げられれば良いのでしょうか。学生の水準の高い教育を受ける権利を奪わないでください。共学化によって失われるもの、共学化のリスクについてもう一度考え直し、学生にとって良い選択を取っていただきたいと思います。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
409	25	男子校、女子校、共学、選択肢があった方が自由度が高く、自分にあった場所で生き生きと高校生活を過ごせると思います。選択の自由が無くなるのは良いことと思えません。女子校や男子校を選びたい、また伝統ある高校に行きたいという子供も多く、その子たちの気持ちを尊重いただき男女別学を維持していただきたいお願いいたします。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
410	25	埼玉県公立高校における共学化に反対し、男女別学校の存続を切に希望いたします。 ・近隣に同レベルの共学校が複数あるにもかかわらず、共学化を進めるのは納得がいかない。 ・別学校を共学化するのではなく、共学校の統合から進めたらどうか。 ・別学校が定員割れしていないのに共学化する理由が不明。 ・多様化を認める世の中で、男女別学の選択肢を消滅させるのはおかしい。 ・男女別学を望む中学生は、私立に行かざるを得ないのは、金銭的負担が大きいです。 同性のみだからこそ養われる自立性や絆があります。伝統ある埼玉県の別学高校の存在を消してしまうことのないよう、これまで寄せられた「共学化反対」の理由や意見を今一度、ご確認ください。十分な議論を尽くされた上で、男女別学校の存続を明言していただけますようお願いいたします。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
411	25	県立校の共学化には反対です。県立の別学校は人気があります。魅力が別学校にはあります。どの高校(進路)に行きたいか、それは生徒が「自由に」決めることです。別学校という「選択肢」を残すことで、その自由の範囲はより広がるのではないのでしょうか。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D
412	25	魅力のある県立高校づくりには、学生が自分の学力・通学・家庭事情に合わせて数多くの選択肢から選ぶことができることが重要です。そして選択肢を多く提示することこそが、その高校独自の魅力（他校との差別化）を生み出すと考えています。その上で学生は年々減っていくという実情から、現実的にその選択肢を維持するのも難しいという実情もあることでしょう。私自身は共学化に対して「今すぐにも共学化はするべきではないが、いずれしなければいけない時が来るだろう」という消極的な反対という立場を取っています。性急な共学化というのは県立高校の魅力を大きく損なうこともあり、周囲の同窓生からは反対意見しか聞きません。いずれ学校の統廃合をしなければいけないことを前提としつつ、現時点では男子校・女子校の交流を図ることで、別学を維持したまま穏健な共学化ができれば、これは非常に魅力的だと思います。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
413	25	全国でも珍しい男女別学の県立高校がある埼玉県。自分の経験から言わせていただくと、別学の高校時代があったから、男性が多い職場で物おじせずに働くことができたと思います。学生時代、女子だけの環境でそれぞれができることをやっていくことで、変な制限を感じずに過ごすことができました。現在も今ある別学環境を維持してほしいという現役生の意見も多いと聞いています。いろいろと揺れる年頃に異性を意識しないで生活できる環境があってもよいのではないかと思います。うのはおかしいでしょうか。別学の環境で勉強したいと考える学生がいるうちは何とか別学を維持していただきたいです。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
414	25	25ページ「共学化の推進」項目全文を削除すべき。アンケート結果など県民の意見が反映されていない。学校は大人の理想論でなく、子供たちの生の意見を反映させてほしい。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
415	25	p.25 6. 共学化の推進 8月の措置報告の「主体的に共学化を推進していく」という曖昧模範とした説明をここでも繰り返しているのみで、具体性・計画性が皆無です。入学基準に性別を掲げることは、明らかな性別差別であり、21世紀のグローバル時代における人権侵害にほかならないと考えます。共学化への具体的で早急な取組を怠ることは、人権尊重の原則から決して許されません。できるだけ早く担当部署を設置し、具体的な計画の作成と実現への道を明らかにしてください。また、共学化への取組と同時並行して、別学・共学を含め、全ての県立学校におけるジェンダー平等教育の推進のためのプログラムを実施することを求めます。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えております。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 具体的なことをお示しすることはできませんが、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えています。 また、全ての県立高校で、男女共同参画の視点に立った教育を推進していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
416	25	多様化を求める時代になぜ共学化を進めるのが理解に苦しむ。他県にない独自性は魅力ではないのか。ルッキズムや、LGBTQが問題視されているのに、異性がいるところで生活することがマイノリティにとって居心地悪いことであることを理解してほしい。伝統や、個性は潰してしまってからでは遅いのだ。少子化に伴い、残るべき高校を選ばねばならない作業は苦しみを伴うのは理解できる。だからといって早急な共学化には反対する。別学は私学に託そうというのは乱暴であり、むしろ男女の社会的性役割を固定化しかなないと危惧する。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、男女別学校・男女共学校にかかわらず、全ての生徒が安心感、充実感を得て、有意義な学校生活を送ることができるよう努めてまいります。	D
417	25	「県立校の共学化を推進する」案に反対です。男子校や女子校の生徒は反対多数ではないですか。昔の人が男子校と女子校を分けた理由について、そして伝統が残っている点について、問い直してはいかがでしょうか。伝統を壊すのは一瞬です。しかし伝統は積み重ねによって作られています。一時の風潮で軽々しく決めてはいけません。選べることが大切です。男子校や女子校を選べるのが素晴らしいのは、それぞれの学校の生徒やOBが一生懸命に伝えているではありませんか。選べる多様性を無視して、全体主義的に進めていくのが教育の進歩だと思うのは間違いです。また学校を減らす「口実」として、共学化を言うならば、それは欺まんであり、おためごかしです。私は埼玉県県の共学化推進案を残念に思います。と同時に反対する高校の生徒たちを頼もしく感じております。彼らの論理に耳を傾けてはいかがでしょうか。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
418	25	魅力ある県立高校と、県立高校の魅力は言葉が似ているけど少しニュアンスが異なると考えます。前者は「人それぞれ感じる魅力が違う」からで、後者は「いろいろな人が大体同じイメージをしやすい」からです。どちらにしても、「全ての人がピッタリ同じ考えを持つ・あるいは捉えることは難しい」と考えています。魅力ある県立高校の魅力とは、個人が様々な状況を自分で考えて、有るものの中から自分で選ぶこと。そして県立高校の魅力とは、別学は別学の良さがあり、共学は共学の良さがあるということで、別学を無くすことにはつながらないと思う。県立高校の別学は、今のまま残してほしいです。別学の良さはあるので。共学も別学もあるのが、選択肢の広さが、県立高校の魅力であり、魅力ある県立高校づくりにつながると思います。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D
419	25	P25の共学化推進方針は全文削除すべきであると思います。県教委が行った各種中高生・保護者アンケート結果に反していて、県民の声が反映されているように思えません。全般的に、県民に対する情報提供が全く不十分であると思います。多くの反対意見があるにもかかわらず、県立高校を共学化する立法事実が不明確であるままです。男子校又は女子校としての長い伝統が共学化により破棄されてしまうことを恐れます。埼玉県の教育体制を、歴史的な視点から再検討して、これを守り育てる観点で、是非とも慎重な判断をされることを強く希望します。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
420	25	埼玉県男女別学校はそれぞれに生徒たちが望んで進学先として選択をしているものです。多様性の時代にその選択肢をわざわざ奪う必要はありません。既に個性豊かな校風を保っている以上、大人の都合で損ねる理由は全くないと考えています。むしろ共学校もあれば別学校もある埼玉県は、これからの多様性の時代に則した、開かれた教育環境を持つことを誇りに思うべきではないでしょうか。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
421	25	25ページ「共学化の推進」項目全文を削除すべき。アンケート結果など県民の意見が反映されていない。共学、別学、選択肢が多い方が多様性を尊重する社会において、未来ある子供たちにとっていいことだと考えます。経済的理由から私学を選択できないなど、様々な立場に置かれたご家庭やそのお子さんにとって、皆に等しく教育を選ぶ機会があるといいと考えます。女子校出身ではございますが、共学でないことで不利益やジェンダーの不平等を感じたことはこれまで全くなく、伝統的に醸成された自由かつ豊かな校風に、自身の可能性と能力を伸ばす土壌があったと感じております。将来の子供たちが選択できるよう、これからも別学として残していくことを望みます。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
422	25	県立高校の一律共学化に反対します。 社会は女性差別がない状態とは程遠く、学校社会の仕組みの中にも女性差別が組み込まれています（制服のスカート、生徒会長副会長問題などもその一部。）男性がいなくても、女性差別の空気が一変する体験を、これからの子供たちにも体験させたいので、女子校を無くさないでください。学ばず子供たち中心に方針を立ててください。差別、特に女性差別は肉体的な性差から来ます。トランスジェンダーも肉体的な性差から逃れられているわけではありません。トランス女性性は男性なので、男性同様身体的・社会的な暴力を女性に振るう可能性があります。男性が女子校に入学しない環境が必要なお子もいるのです。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、別学校・共学校にかかわらず、全ての生徒が安心感、充実感を得て、有意義な学校生活を送ることができるよう努めてまいります。	D
423	25	埼玉県立高校共学化に反対します。県立高校の別学をこれからも守りその伝統を誇りとすべきです。教育の向上には教育にかけることのできる時間の確保が最優先です。時間や費用を共学化のために当てる以前に今、時間とお金を教育の現場にすぐにでも充ててください。その中で共学化の議論があるのであれば、その観点で議論すべきです。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
424	25	25ページ「共学化の推進」項目全文を削除すべき。アンケート結果など県民の意見が反映されていない。既に共学校が大多数であり、これ以上の推進は不要。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。	D
425	25	P25「6共学化の推進」教育委員会の措置報告書どおり、主体的に共学化を是非推進してほしいと思います。主体的に、早期に具体案を出してください。	1	今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えております。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 具体的なことをお示しすることはできませんが、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えています。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
426	25,27, 28	P27「2中学校等卒業生数の見込みと今後の県立高校数」 四つの地域と県全体の県立高校の削減について述べられていますが、具体案の中には是非、現在の男女別学校を1例でも入れていただきたいと思います。今回この計画の中の統廃合計画に別学校の例が1例でもあれば、教育委員会は本気で「主体的に」共学化を推進しているのだということが伝わります。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えております。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 具体的なことをお示しすることはできませんが、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えています。 なお、再編整備は、今後、更に生徒数が減少していく中で、一定の学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくために実施するものです。 再編整備の対象となる学科・学校等については、全県を俯瞰（ふかん）しながら「再編整備の観点」を踏まえ総合的に検討してまいります。	D
427	25	共学にも、男子校にも、女子校にも、それぞれの魅力はあると思います。アンケートにより一定数の別学維持希望者がいながら、その意見が反映されず物事が結論ありきで一方的に進んでいくのであれば、そこには大きな違和感を憶えます。アンケートを取ったり、意見書を提出する機会を設けることは良いことだと思います。しかし、「これらは形式的なものであり、別学維持を希望する人たちのガス抜き」という人もいます。多数意見が反映されなければ、そう思われても仕方ないでしょう。異性恐怖症やその他の病気で共学校に通えない人の方がたくさんいます。一人の要望が通り、多くの要望が通らないとしたら、意図的なようにも感じます。共学校、男子校、女子校を選ぶことは、埼玉の高校教育の大きな長所であり、県民の保護者や学生に対して実施したアンケート結果もそれを物語っています。全ての高校を共学化する方向であれば多くの人が納得できる理由を示すべきです。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、別学校・共学校にかかわらず、全ての生徒が安心感、充実感を得て、有意義な学校生活を送ることができるよう努めてまいります。	D
428	25	「共学化の推進」をやめてください。異性の目を気にせずチャレンジできる環境は大変貴重で埼玉県之宝だと思います。むしろ中堅の男子校がないので増やしてほしいです。別学校に行きたいと望んでいる中学生もいます。別学校だから行きたいと言う子の権利を保障してください。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員会への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 また、別学校・共学校にかかわらず、全ての生徒が安心感、充実感を得て、有意義な学校生活を送ることができるよう努めてまいります。	D
429	25,26	共学化は少子化対応としてではなく、「男女共同参画の推進」の視点から自信を持って計画的に進めてください。現状、別学関係者から反対の声があったとしても長い目で見たとき、埼玉県にとっても関係者にとっても共学化して良かったとなることが、他県の例から分かっています。別学校が共学化して「受検校の選択肢が増えた」という声が共学化した県の中学生から出ていると聞いています。26ページの「再編整備の観点」に「男女共同参画の推進」「共学化の推進」を入れてください。 多様性と包摂性を育まない別学校は「魅力ある県立高校づくり」の観点からも問題が大きいと考えます。 県教委作成の中学生向けリーフレット「埼玉県立高等学校に入学を希望するみなさんへ」には「県内どこに住んでいても、全ての県立高校に出願できます。」と書いてあります。しかし、実際には、出願資格に性別要件はないのに男子校には女子は出願できません。仮に願書を出したとしても取り下げられてしまいます。どんなに人気があろうとも、性差別の上に「魅力ある県立高校」はあってはなりません。「全ての県立高校に出願できます。」の実現のための方策を「魅力ある県立高校づくりの方針」に入れてください。現状は性差別の放置です。	1	県教育委員会では、今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えております。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 具体的なことをお示しすることはできませんが、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えています。 また、再編整備は、今後、更に生徒数が減少していく中で、一定の学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図るために実施するものと考えております。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
430	25	「第3章 県立高校における教育活動・教育環境 6 共学化の推進」の方針に含めることに反対いたします。 ・アンケートや有識者への意見聴取の結果を取り扱う県教育委員会の姿勢に懸念があるため ・県教育委員会のアンケートの取り方やその活用方法に懸念があるため ・第3回魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議での「県教育委員会は、従来から共学化を推進する立場」との発言に不安を感じるため ・この方針に則り、今ある選択肢を狭め、特色や伝統を捨て去ることは、今後の県立高校にとって死活問題になると思うため ・追加のためにすべき十分な議論がなされていないため ・「男女の共同参画」という観点からは追加は不要だと考えるため ・男女別学校の目指すべき学校像を改めるために追加する必要はないと考えるため ・埼玉県立の男女別学校に関するアンケート」の結果において、約2割しか賛成を得られなかったため	1	高校の3年間で男女が互いに協力して学校生活を送ることは意義があると考えております。 今後、中学校等卒業者数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。 県男女共同参画苦情処理委員への措置報告書作成に当たり実施したアンケートや意見聴取等では、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かりました。このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 なお、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えています。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であると考えています。	D
431	26	一つの高校にある程度の人数がいた方がよいので、少子化に伴う高校再編はするべきだと思います。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。 頂いた御意見を踏まえて、再編整備を進めてまいります。	B
432	26	県立高校の再編推進に強く賛成します。少子化が明らかである以上、学校数の維持はすべきではありません。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。 頂いた御意見を踏まえて、再編整備を進めてまいります。	B
433	26	「多様な教育ニーズに応えていく」「一人一人の能力と希望に応じて、生徒の持つ可能性を伸ばしていく」ことは重要なポイントだと思います。生徒の進路希望の実現のためには県立高校の再編整備だけでは難しいと思います。特に人口減少の激しい過疎地域において、通学可能な範囲内で生徒や保護者の多様なニーズを満たすのは困難であり、どうしても地域格差が生じてしまいます。そこで生徒は地域外にある高校への進学を選択することになるのですが、過疎地域ですから公共交通機関の運行本数が少なく、そもそも最寄りの駅やバス停に出るまで時間が掛かる者も少なくなく、通学時間に多くの時間を取られてしまいます。このような事情から地域外の県立高校ではなく、スクールバスを運行している私立高校へ進学する生徒も多いのですが、私立高校にとってスクールバスの運行は経営の圧迫要因であることから、生徒数の減少により減便やルートの廃止が行われ通学の利便性は悪化しています。もはや私立高校が単独でスクールバスを運行する、また寮を設置して運営するのは経営的に限界です。そこで、県立高校の再編整備に併せて、行政で公私を問わず過疎地域に住む高校生が利用できるスクールバスの運行及び寮（寄宿舎）の設置を提案します。	1	今後、更に生徒数が減少していく中で、一定の学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要であると考えています。 再編整備に当たっては、周辺の高校の設置状況や交通の利便性、通学の状況など「再編整備の観点」を踏まえ、地域の状況等を考慮しながら、総合的に検討してまいります。なお、人口減少が進む地域などにおいても、生徒や保護者の教育ニーズにできる限り対応できるよう、オンラインを活用した遠隔教育の研究などを進めてまいります。	D
434	26	平成30年4月に策定した「魅力ある県立高校づくり実施方策策定に向けて（再編整備の進め方）」に則って、実施されている政策は、県立高校の魅力が無くなってしまう悪手となっているので検討し見直すべきです。検証・見直しがない状態での「魅力ある県立高校づくりの方針（案）」における再編整備は、撤回されるべきです。	1	これまでの再編整備により、特色ある高校を開校し、地域と連携した取組などを進めてきました。学校の魅力が伝わるよう引き続き、広報活動の充実などに努めてまいります。 生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要と考えています。	D
435	26	平成30年4月に策定した「魅力ある県立高校づくり実施方策策定に向けて（再編整備の進め方）」に則って、魅力ある県立高校づくりの政策を行っても、「魅力ある県立高校」が実現されているとは思えません。検証・見直しがない状態での「魅力ある県立高校づくりの方針（案）」における再編整備は、撤回されるべきです。	2	これまでの再編整備により、特色ある高校を開校し、地域と連携した取組などを進めてきました。学校の魅力が伝わるよう引き続き、広報活動の充実などに努めてまいります。 生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要と考えています。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
436	26	2 6 ページ 第 4 章「県立学校の再編整備」について、中学校の卒業予定者の減少に伴って、学校数を減らしていくのは仕方のないことである。しかしながら、統合した学校では若年層が好む目新しい学問よりも、まず基礎学力を身につけることを優先すべきではないだろうか。若者が好みそうな分野の学科を安易に新設することは、短期的には志願者の増加につながるかもしれないが、長期的に考えると学校にとっても生徒にとっても好ましくない結果を生むと考える。また、統廃合校の選定にあたっては地域の人口だけで判断するのではなく、県内のどの地域に居住していても、なるべく平等に学校選びができるように選んでいただきたい。そして、再編整備にあたっては、昨今志願者が急増している県外も含めた私立の通信制の存在を強く意識する必要があると考える。公立高校が私立の通信制に対抗するためには、例えば制服や頭髮に関する規則を緩やかにするなど、時代に合ったルールづくりをゼロベースで行っていく必要があるのではないだろうか。	1	社会が大きく変化していく中で、一人一人の能力と希望に応じて、生徒の持つ可能性を伸ばしていくためには、社会の変化を踏まえて高校の特色化や活性化を図ることが必要であると考えています。 生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1 学年当たり 6 学級以上が望ましいと考えています。 今後、具体的な再編整備校を検討する際には、周辺の高校の設置状況や交通の利便性など方針案に記載した「再編整備の観点」を踏まえ、総合的に検討してまいります。 頂いた御意見は、再編整備を進める際に参考としてまいります。	C
437	26	公立中学校等卒業者数の減少は、高校統廃合ではなく 3 5 人以下学級を実現する絶好の機会だと考えます。高校でも 3 5 人以下学級の実現を進めるべきです。 子供たちの学習権を保障するため、どの地域に住んでいても自宅から通える距離の高校を整備する責任が、行政にはあると考えます。 そのことから、高校の統廃合には反対です。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1 学年当たり 6 学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1 学年当たり 6 学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 今後、具体的な再編整備校を検討する際には、周辺の高校の設置状況や交通の利便性など方針案に記載した「再編整備の観点」を踏まえ、総合的に検討することとしております。 学級編制の標準が「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に 4 0 人と定められている中で、県単独での 3 5 人以下学級の実施は難しいと考えます。 新たな定数改善計画策定及び教職員配置基準の見直しなどについて、国に働き掛けてまいります。	D
438	26	2 6 ページ（注）学校規模（全日制課程）について 「6 学級以上」でなければ、「生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設」ができないということではなく、むしろ小規模の方が一人一人に行き届いた教育が施せるとというのが、多くの教職員の実感です。また、「6 学級以上」でなければ「学校行事の充実等」が図れないという客観的データや科学的根拠はありません。したがって、高校の統廃合を進める根拠にはなりません。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1 学年当たり 6 学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1 学年当たり 6 学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいく必要があると考えています。	D
439	26	高校統廃合と高校間競争をおおる「魅力ある県立高校づくりの方針（案）」に反対し、全ての子供たちに学習権を保障するため、3 5 人以下学級の実現を求めます 私たちは、全ての子供たちに学習権を保障し、後期中等教育の充実を進めるため、児童・生徒数が減少するこの時期こそ、高校統廃合ではなく 3 5 人以下学級を実現する絶好の機会だと考えます。「6 学級以上」でなければ、「生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設」ができないということではなく、むしろ小規模の方が一人一人に行き届いた教育が施せるとというのが、多くの教職員の実感です。また、「6 学級以上」でなければ「学校行事の充実等」が図れないという客観的データや科学的根拠はありません。県教委が「望ましい」とする一方的な「考え」や「思い込み」を根拠に、再編整備が実行されるようなことは許されません。教育行政としての条件整備の責任を放棄するものです。また、教育の目的は、「社会の変化を踏まえて」行うといった受動的なものではなく、「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者」（教育基本法第 1 条）を育てるという普遍的なものであり、社会をより良くするための能動的なものでなければなりません。さらに、高校間競争をあり、推進するための「特色化・活性化」は認めることはできません。私たちは、県立高校の統廃合と「特色化・活性化」を名目とした高校間競争をおおる再編整備に断固反対し、全ての子供たちへの学習権保障とそのための 3 5 人以下学級をはじめとした教育条件整備、教育基本法に定められた「教育の目的」を真に実現することを求めます。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1 学年当たり 6 学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1 学年当たり 6 学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要だと考えています。 学級編制の標準が「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に 4 0 人と定められている中で、県単独での 3 5 人以下学級の実施は難しいと考えます。 新たな定数改善計画策定及び教職員配置基準の見直しなどについて、国に働き掛けてまいります。	D
440	26	行き場のない生徒を作らない、夜間定時制を残すこと 生徒たちの「居場所」として機能している夜間定時制高校を県内に適正に配置することを要求します。夜間定時制高校は設立時は勤労学生のためのものでしたが、その姿は変容し、勤労学生自体が希有な存在となっています。だからといって、夜間定時制高校の役割が終わったわけではありません。昼間の高校への進学が難しい生徒や外国籍の生徒たちなど、高卒の資格を得るため、学校生活を送るために高校での教育を望んでいる子供たちは確実に存在しています。温かい「居場所」としての夜間定時制を閉じるような方針はやめていただきたい。	1	定時制を含め、具体的な再編整備校を検討する際には、周辺の高校の設置状況など方針案に記載した「再編整備の観点」を踏まえ、総合的に検討してまいります。	C

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
441	26	p.26「設置学級数が減ること、生徒が学ぶことのできる教科・科目や、部活動等の教科以外の活動の選択肢が減ってしまう」「一定の学校規模」とありますが、学校を再編することで選択肢が減ってしまいます。多様なニーズに応え、選択肢を用意するためにも、安易に再編すべきではないと考えます。再編する前に、学校が小規模化しても維持できる方法を考えるべきだと思います。学校行事や部活動は、合同で実施する方法もあります。「教科・科目の開設」は、オンラインで合同授業を行う方法もあります。もちろん、小規模校を維持するために予算に対する効率が低下するといった課題はあると思います。効率化は必要ですが、教育は重要なので、教育予算は優先して確保してよいと考えます。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要であると考えています。 小規模であることが直ちに再編整備につながることはなく、地域の状況等を考慮しながら、総合的に判断してまいります。また、生徒の多様なニーズや習熟度に応じて学べる環境の確保に向けて、オンラインを活用した遠隔教育について、研究を進めてまいります。 また、教育環境の充実に向けて、必要な予算の確保に努めてまいります。	D
442	26	第4章 県立高校の再編整備 少子化が急速に進む中、社会全体として、人的基盤の強化、人的資本投資の強化・充実が求められており、具体的には高校無償化や高校義務化なども議論されようとしています。この課題解決の起点となるのは、高校から大学に至る教育体制の再構築であり、まずは高校における新たな教育施策への統一的な取組強化により高校教育レベルの底上げを図ることが重要であると考えます。この点、今後、公立高校の役割は今以上に大きいものとなり、その重要性・必要性はますます高まるものと思います。加えて、社会が流動的で、変化のスピードが早く、先行きに対する不透明感が増す中、今直ちに、具体的な県立高校の削減数を想定することは極めて難しいのではないかと、県立高校数削減の是非を判断することは時期尚早ではないかといった懸念を持っており、教育は国家の基盤となる重要な要素であるので、諸情勢などを慎重に見極めてから想定ないし判断しても決して遅くないのではないかと考える次第であります。 以下は関連質問です。 ・県立高校削減の根拠は公立中学校等卒業生数の見込みのみでしょうか。例えば、公立中学校等卒業生数の減少が見込まれるとしても、「魅力ある県立高校づくり」の方針に基づく施策を実行して県立高校志願者数が確保できれば、コストをかけて再編整備する必要はなくなるのではないのでしょうか。 ・仮に、県立高校削減の前提が崩れた場合（途中で前提が変化した場合又は前提条件が実際と異なった場合など）にはどのような措置が講じられるのでしょうか。 ・「第4章 県立高校の再編整備」の内容、特に県立高校数の削減を検討するに当たっては、県教育委員会は、当然、県立高校以外の市立高校などを所管する関係部局、私立高校の関係者などとの協議や調整を行ったものと史料いたしますが、いつ、どのような形で行われ、その結果はどのようなものであったのでしょうか。	1	県立高校は、生徒が豊かで幸せな人生を送るとともに、持続的に発展する社会の創り手となれるよう、予測が困難な社会の変化に対応できる力や学びを人生や社会に生かす力を育成し、生徒一人一人の多様な可能性を伸ばすことが重要と考えています。 生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要と考えています。 再編整備校数については、令和20年4月時点の公立中学校等卒業生数の推計を基に、一定の学校規模を維持した場合に必要な高校の数を試算し、算出しました。その際、地域内の県立高校の1学年当たりの学級数が6学級を大きく下回る地域などの状況も考慮し算出しました。 今後、「再編整備の観点」を踏まえて、再編整備校数も含めて検討をしていくため、公立中学校等卒業生数を根拠とした再編整備校数には幅を持たせています。 なお、県内中学校等卒業生の全日制高校進学者数における県公立高校と私立高校の収容割合については、毎年度、埼玉県公立高等学校協議会を開催し、確認を行っております。また、社会情勢の大きな変化などがあった場合については、必要に応じて方針の見直しについて検討をします。	D
443	26,27,30	26ページの再編整備の観点について、記載を正確にするために、「周辺の高校」の記載は、「周辺の県立・私立高校」と明記すべき。あるいは「周辺の高校」として「私立高校は考慮の対象外」ということであれば、「周辺の県立高校」と明記すべき。 27ページの今後の県立高校数の検討に当たっては、単に「中学校等卒業生の減少」だけでは正確な検討が行えない。 今後の私立高校の募集定員の推移、私立高校への授業料補助による志願者増による変動についても考慮が必要。今後の県立高校数の検討に当たっては、「私立高校の設置状況や設置学級数、授業料補助による私立高校への志願者増も考慮する」ことを明記すべき。 30ページの中高一貫教育校について、小学校卒業生は公立中学校と私立中学校へ進学することを鑑みるに、「近隣中学校」の定義を明確にすべきであり、「近隣の公立中学校」なのか「近隣の公立・私立中学校」と明記すべき。	1	「周辺の高校」については、県立のみならず、市立、国立、私立を含んでおります。 再編整備校数については、令和20年4月時点の公立中学校等卒業生数の推計を基に、一定の学校規模を維持した場合に必要な高校の数を試算し、算出しました。その際、地域内の県立高校の1学年当たりの学級数が6学級を大きく下回る地域などの状況や私立高校と県立高校への進学者数の状況も考慮し算出しました。 県内中学校等卒業生の全日制高校進学者数における県公立高校と私立高校の収容割合については、毎年度、埼玉県公立高等学校協議会を開催し、確認を行っております。公立高校と私立高校がお互いに切磋琢磨（せつさくま）しながら、本県の高校教育を発展させることが重要であると考えております。 中高一貫教育校における「近隣中学校」については、市町村立のみならず、国立、県立、私立を含んでおります。	D
444	26	不登校生徒が増加している現状で、全ての生徒が安心感、充実感を得るとことは、様々なニーズに合わせた教育の実践が現場に求められていることにつながります。大学等への進学を希望する生徒の増加と大学入学者選抜の変化・多様化に対応するためにも、生徒一人一人に向きあう教育の重要性を読み取ることができます。その前提の下に「第4章 県立学校の再編整備」では、生徒数の減少に伴う再編整備で、15～19校の統廃合を「必要」としています。一定の学校規模を維持するとしていますが、現在の1学級40人を前提に計画されていると思います。なぜ1学級の生徒規模を少なくし、教員1人に対する負担を減らそうというビジョンが生み出されないのか、失望を禁じ得ません。今学校を減らすことより、1学級の規模を少なくすることが求められています。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要と考えております。 学級編制の標準が「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に40人と定められている中で、県単独での少人数学級の実施は難しいと考えます。 新たな定数改善計画策定及び教職員配置基準の見直しなどについて、国に働き掛けてまいります。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
445	26	p.26 生徒数の減少という理由で、高校の統廃合をするには反対です。特に県北部では、高校が減れば減るほど通学に困難が生じ、交通費の父母負担が増えます。また、町から高校がなくなること、街が寂れ、活気がなくなります。生徒数が少なくなっても、1学級の人数を少なくして、存続させるべきです。高校生の不登校も増加しています。様々な困難を抱えている生徒が多くなっている今、むしろ小規模で一人一人を大事にする高校教育が必要なのではないでしょうか。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要と考えております。 今後、具体的な再編整備校を検討する際には、一定の学校規模を下回ったからといって直ちに再編整備の対象となるわけではなく、交通の利便性など方針案に記載した「再編整備の観点」を踏まえ、総合的に検討することとしております。 また、学級編制の標準が「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に40人と定められている中で、県単独での少人数学級の実施は難しいと考えます。 新たな定数改善計画策定及び教職員配置基準の見直しなどについて、国に働き掛けてまいります。	D
446	26	高校統廃合はしないでください。 生徒数が減れば、それだけ目が届くので、35人学級にしてください。	2	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 また、学級編制の標準が「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に40人と定められている中で、県単独での35人以下学級の実施は難しいと考えます。 新たな定数改善計画策定及び教職員配置基準の見直しなどについて、国に働き掛けてまいります。	D
447	26	一部の進学校を除いて県立高校から普通科をなくすというのもありえません。少子化だからとあらかじめ数を決めて県立高校を減らす議論を進めることも間違っていると思います。	1	今後、更に生徒数が減少していく中で、一定の学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要であるとと考えております。 また、今後、具体的な再編整備校の検討に当たっては、全県を俯瞰（ふかん）しながら、周辺の高校の設置状況や教育内容など、「再編整備の観点」を踏まえ総合的に検討してまいります。 再編整備については、計画的に進めることが必要だと考え、本方針案に再編整備校数を記載しております。	D
448	26	多様なニーズの子供たちが増えている、教職員の多忙化の改善が喫緊の課題となっている、教員を希望する人が減っているといった今の教員をめぐる状況を考えると、子供たち一人一人ともしっかり向き合える環境を作るべきです。統廃合ではなく、少人数学級（35人以下学級）の実現に向けた検討も併記すべきです。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 また、学級編制の標準が「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に40人と定められている中で、県単独での35人以下学級の実施は難しいと考えます。 新たな定数改善計画策定及び教職員配置基準の見直しなどについて、国に働き掛けてまいります。	D
449	26	2024年の出生数から逆算して高校入学人数を予測すると、学校数減の計画が出てくる背景は理解できます。しかし、1クラス40人学級での学級数に基づいた学校数の削減は「財政上そのほうが望ましい」だけに過ぎず、「教育上そのほうが望ましい」ものではありません。 ・今日のように家庭環境がバラバラ、発達障害／グレーゾーンの生徒対応、不登校問題、外国にルーツを持つ生徒など、クラス担任が向き合う生徒の諸問題は様々です。 ・「教員の働き方改革」「ブラック労働」など教員を取り巻く労働環境が批判的に語られ、国も含めて学校教育の労働環境の改善に乗り出す中、抜本的な改善策は教員定数増、すなわち、1クラス当たりの生徒数を削減することが最善だと思います。財政／財務省の側からは少子化に伴う教員定数減を打ち出していますが、少子化が進行する今だからこそ漸進的な40人学級⇒35人学級⇒30人学級へと教育環境を改善していったほしいと思います。 ・高校無償化が国会の場で議論されていますが、今後ますます、公立高校は多様なバックグラウンドを持つ生徒を受け入れていくことになります。そのためには人的資本への投資は避けられません。家庭環境による教育格差を生まないためにも、単純な高校の再編整備としないことを望みます。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 また、学級編制の標準が「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に40人と定められている中で、県単独での少人数学級の実施は難しいと考えます。 新たな定数改善計画策定及び教職員配置基準の見直しなどについて、国に働き掛けてまいります。	D
450	26	p.26脚注「学校規模（全日制課程）」については、1学年当たり6学級以上が望ましい」という考えは良いと思います。高校は教員と生徒の関係よりも、生徒同士の関係の方が大切なので、自分に合った仲間を探しやすい規模の学校が望ましいと思います。ただし、埼玉でも通学が困難な地域もありますので、上記の「適正規模」にかかわらず、僻地在住でも通えるように、高校の地域バランスは考慮してください。	1	具体的な再編整備校を検討する際には、交通の利便性など方針案に記載した「再編整備の観点」を踏まえ、総合的に検討していきます。	B

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
451	26	p.26 「再編整備の観点」に「共学化の推進」「男女共同参画の推進」を入れてください。「別学校が再編整備の対象となった場合、共学化の検討の必要がある」というだけでは、「共学化を主体的に進める」姿勢とは言えないのではないのでしょうか。「高校全入」に近い状態で学校単位で学力的な格差が生まれるのは、現在の大きな体制の枠組みの中では、ある程度やむを得ない事と考えていますが、それでも、将来を見据えた高校生の力の養成という観点では、多様な在り方を許容する学校づくりを目指すべきです。別学の長い歴史から生まれた強固な「県立高校別学維持賛成」の感覚はきちんとしたジェンダー平等教育の積み重ねで解消しなければならないと思いますので、そういう共学化準備の体制づくりも含めた「共学化の推進」「男女共同参画の推進」を見える形で表明することが大前提です。	1	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えております。 男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していきます。 具体的なことをお示しすることはできませんが、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えています。 また、再編整備は、今後、更に生徒数が減少していく中で、一定の学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図るために実施するものと考えております。	D
452	26	埼玉県教育を充実したものにするためには、高校を減らして再編整備するよりも、ゆとりのある35人学級にすることだと考えます。また、北部地区の学校がこれ以上減ってしまうと、地域の活力がなくなってしまう、地域による格差が生まれます。高校を減らすことではなく、少人数学級を実現してください。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 再編整備を進めるに当たっては、方針案に示した再編整備校数の中で、公立中学校等卒業生数の減少や地域の状況などを踏まえながら、具体的な再編整備校を検討してまいります。 学級編制の標準が「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に40人と定められている中で、県単独での35人以下学級の実施は難しいと考えます。 新たな定数改善計画策定及び教職員配置基準の見直しなどについて、国に働き掛けてまいります。	D
453	26	定時制高校を再編の対象にして、廃校にするのは絶対反対である。定時制高校を必要としている方々はたくさんいる。	1	定時制を含め、具体的な再編整備校を検討する際には、周辺の高校の設置状況など方針案に記載した「再編整備の観点」を踏まえ、総合的に検討してまいります。	D
454	26	県立高校の再編整備で、学校を減らすのをやめていただきたいと思います。生徒数が減少するのであれば、現在より少ない人数での学級編成を望みます。少人数学級により学習効果が上がると思います。また、近くに通える県立高校がないというも、生徒や保護者にとって好ましいものではありません。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 今後、具体的な再編整備校を検討する際には、交通の利便性など方針案に記載した「再編整備の観点」を踏まえ、総合的に検討することとしております。 学級編制の標準が「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に40人と定められている中で、県単独での少人数学級の実施は難しいと考えます。 新たな定数改善計画策定及び教職員配置基準の見直しなどについて、国に働き掛けてまいります。	D
455	26	DXの活用 特殊な学科については、オンライン講座等とすれば、座学の部分は学校単位ではなくても対応可能なので、統廃合より先行して進めていくことができる。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 生徒の多様なニーズや習熟度に応じて学べる環境の確保に向けて、オンラインを活用した遠隔教育について、研究を進めてまいります。	C

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
456	26	高校の削減に反対します。今こそ少人数学級の実現を目指すべきです。生徒の通学を考えると地元で通える範囲の学校を残してください。教育現場からの声を拾い上げるべきです。PTAからの意見はヒアリングしましたか。広く討議資料を配付し意見を募るべきです。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 学級編制の標準が「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に40人と定められている中で、県単独での少人数学級の実施は難しいと考えます。 新たな定数改善計画策定及び教職員配置基準の見直しなどについて、国に働き掛けてまいります。 方針案の作成に当たっては、学識経験者や学校及び行政機関の関係者による「魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議」を3回開催し、魅力ある高校づくりについて御意見を伺ってきました。これらの意見を参考に教育委員会で協議しました。 また、県民の意見を聞く必要があると考え、今回、県民コメントを実施しました。今後、具体的な再編整備校を検討する際には、周辺の高校の設置状況や交通の利便性など方針案に記載した「再編整備の観点」を踏まえ、総合的に検討することとしております。その決定に当たっては実施方策（案）を公表し、県民の意見をお聞きしてまいります。	D
457	26	学校統廃合ではなく、1学級の人数を30人以下にしてください。埼玉に住む高校生にきめ細かい、丁寧な教育を実施できる環境を整えてください。	1	学級編制の標準が「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に40人と定められている中で、県単独での30人以下学級の実施は難しいと考えます。 新たな定数改善計画策定及び教職員配置基準の見直しなどについて、国に働き掛けてまいります。	D
458	27,28	「中学生等卒業生数の見込みと今後の県立高校数」の削減校数の数値を削除すべき P28に「令和20年4月を目途に県立高校を最大19校削減」の趣旨の文言が記載されていますが、この削減数値、時期についての根拠は「中学校等卒業生数の減少」以外の具体的な説明の記載がありません。今後の具体的な教育内容（普通教育・専門教育の割合含む）、学校規模、県立・私立学校の適正設置数及び志願者数・募集定員数などの検討結果等の根拠が示されていないため、削減校数の妥当性が確認できません。県立高校の運営に必要不可欠な税金を負担している県民の理解が必要であるため P28 の削減校数の数値は削除し県民を交えての今後の検討項目とすべきです。 ※県民への説明が不足している状況であり、県民の意見を反映しないまま方針が策定された場合、各種法令や条例の違反、及び手続違背が生じる可能性があることから、強く修正を求めるものとします。	3	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 再編整備校数については、令和20年4月時点の公立中学校等卒業生数の推計を基に、一定の学校規模を維持した場合に必要な高校の数を試算し、算出しました。その際、地域内の県立高校の1学年当たりの学級数が6学級を大きく下回る地域などの状況や私立高校と県立高校への進学者数の状況も考慮し算出しました。 県内中学校等卒業生の全日制高校進学者数における県公立高校と私立高校の収容割合については、毎年度、埼玉県公立高等学校協議会を開催し、確認を行っております。公立高校と私立高校がお互いに切磋琢磨（せつさたくま）しながら、本県の高校教育を発展させることが重要であると考えております。 再編整備については、計画的に進めることが必要だと考え、本方針案に再編整備校数を記載しております。 また、再編整備を進めるに当たっては、県民の意見を聞く必要があると考え、今回、県民コメントを実施しました。方針案に示した再編整備校数の中で、具体的な再編整備校を検討してまいります。 今後、具体的な再編整備を検討する際には、各県立学校の生徒数の現状や周辺の公立中学校等卒業生数の見込みなど方針案に記載した「再編整備の観点」を踏まえ総合的に検討することとしております。その決定に当たっては実施方策（案）を公表し、県民の意見をお聞きしてまいります。	D
459	27,28	p 27-28 2 中学校卒業生見込みと今後の県立高校 再編整備のために学校を減らす数が書かれていますが、単純に卒業生数で数を決めてしまうのはいけないと思います。そのときの教育環境や県立だけでなく私立の変化もあるからです。よって具体的な削減校数の記載の削除をお願いします。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 再編整備校数については、令和20年4月時点の公立中学校等卒業生数の推計を基に、一定の学校規模を維持した場合に必要な高校の数を試算し、算出しました。その際、地域内の県立高校の1学年当たりの学級数が6学級を大きく下回る地域などの状況も考慮し算出しました。 今後、「再編整備の観点」を踏まえて、再編整備を計画的に進めることが必要だと考え、本方針案に再編整備校数を記載しております。 方針案に示した再編整備校数の中で、公立中学校等卒業生数の減少だけではなく地域の状況などを踏まえながら、具体的な再編整備校を検討してまいります。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
460	27,28	P27,28 2「中学生等卒業生数の見込みと今後の県立高校数」の削減校数の数値を削除すべき。P28 ①「最大19校削減」の文言が記載されているが、この削減数値、時期についての根拠は「中学校等卒業者数の減少」以外の具体的な説明の記載がない。今後の具体的な教育内容（普通教育・専門教育の割合を含む。）、学校規模、県立・私立学校の適正設置数及び志願者数・募集定員数などの検討結果等の根拠が示されていないため、削減校数の妥当性が確認できない。県民の理解が必要であるため県民を交えての今後の検討項目とすべき。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいく必要があります。 再編整備校数については、令和20年4月時点の公立中学校等卒業者数の推計を基に、一定の学校規模を維持した場合に必要な高校の数を試算し、算出しました。その際、地域内の県立高校の1学年当たりの学級数が6学級を大きく下回る地域などの状況や私立高校と県立高校への進学者数の状況も考慮し算出しました。 県内中学校等卒業生の全日制高校進学者数における県公立高校と私立高校の収容割合については、毎年度、埼玉県公立高等学校協議会を開催し、確認を行っております。公立高校と私立高校がお互いに切磋琢磨（せつさたくま）しながら、本県の高校教育を発展させることが重要であると考えております。 再編整備については、計画的に進めることが必要だと考え、本方針案に再編整備校数を記載しております。また、再編整備を進めるに当たっては、県民の意見を聞く必要があると考え、今回、県民コメントを実施しました。方針案に示した再編整備校数の中で、具体的な再編整備校を検討してまいります。 今後、具体的な再編整備を検討する際には、各県立学校の生徒数の現状や周辺の公立中学校等卒業者数の見込みなど方針案に記載した「再編整備の観点」を踏まえ総合的に検討することとしております。その決定に当たっては実施方策（案）を公表し、県民の意見をお聞きしてまいります。	D
461	27,28	P27,28「中学生等卒業生数の見込みと今後の県立高校数」の削減校数の数値を削除すべきである。今後の具体的な教育内容（普通教育・専門教育の割合含む）、学校規模、県立・私立学校の適正設置数及び志願者数・募集定員数などの検討結果等の根拠が示されていないため、削減校数の妥当性が確認できない。県民の理解が必要であり、県民を交えての今後の検討項目とすべきである。また、今回の県民コメントの反対意見の数と賛成意見の数を公表するべきである。県民の納得のいく経緯の説明を求める。	3	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいく必要があります。 再編整備校数については、令和20年4月時点の公立中学校等卒業者数の推計を基に、一定の学校規模を維持した場合に必要な高校の数を試算し、算出しました。その際、地域内の県立高校の1学年当たりの学級数が6学級を大きく下回る地域などの状況や私立高校と県立高校への進学者数の状況も考慮し算出しました。 県内中学校等卒業生の全日制高校進学者数における県公立高校と私立高校の収容割合については、毎年度、埼玉県公立高等学校協議会を開催し、確認を行っております。公立高校と私立高校がお互いに切磋琢磨（せつさたくま）しながら、本県の高校教育を発展させることが重要であると考えております。 再編整備については、計画的に進めることが必要だと考え、本方針案に再編整備校数を記載しております。また、再編整備を進めるに当たっては、県民の意見を聞く必要があると考え、今回、県民コメントを実施しました。方針案に示した再編整備校数の中で、具体的な再編整備校を検討してまいります。 今後、具体的な再編整備を検討する際には、各県立学校の生徒数の現状や周辺の公立中学校等卒業者数の見込みなど方針案に記載した「再編整備の観点」を踏まえ総合的に検討することとしております。その決定に当たっては実施方策（案）を公表し、県民の意見をお聞きしてまいります。 県民コメント制度として受け付けた御意見の総数と概要について、全て公表させていただきます。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
462	27,28	P27とP28「2 中学校等卒業者数の見込みと今後の県立高校数」の数字の根拠もなく、また説明もなく県民が納得するわけがありません。削減校数（最大19校）は削除してください。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1 学年当たり6 学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1 学年当たり6 学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 再編整備校数については、令和2 0 年4 月時点の公立中学校等卒業者数の推計を基に、一定の学校規模を維持した場合に必要な高校の数を試算し、算出しました。その際、地域内の県立高校の1 学年当たりの学級数が6 学級を大きく下回る地域などの状況も考慮し算出しました。 今後、「再編整備の観点」を踏まえて、再編整備を計画的に進めることが必要だと考え、本方針案に再編整備校数を記載しております。 方針案に示した再編整備校数の中で、具体的な再編整備校を検討してまいります。	D
463	27,28	P27、P28「中学生等卒業生数の見込みと今後の県立高校数」の削減校数の数値について、より具体的な根拠を示すべきです。 削減数値、時期についての根拠は「中学校等卒業者数の減少」以外の具体的な説明の記載がありません。今後の具体的な教育内容（普通教育・専門教育の割合含む。）、学校規模、県立・私立学校の適正設置数及び志願者数・募集定員数などの検討結果等の根拠が示されていないため、削減校数の妥当性が確認できません。再検討の調査のためにP28の削減校数の数値は一時的に削除し県民を交えての今後の検討項目とすべきです。 現在県が私立高校に対して支給している助成金を削減もしくは廃止することで県内の公立高校と私立高校の校数の均衡を保つべきです。 仮にこれから公立高校だけが減り続け、私立高校の数は大幅には変わらないのであれば、いつか公立高校の需要はなくなり、高等教育産業の市場を完全に民間資本に移行(教育の民営化)することになると考えられます。 公立高校と私立高校の校数の均衡を保つことはこれからの社会において重要なことだと考えます。そこで、現在県が私立高校に対して支給している助成金を削減若しくは廃止することを提案いたします。これによって、この助成金によりやっと経営が支えられているような競争力の弱い私立高校から順に自然と淘汰されていき、公立高校と私立高校の校数の均衡が保たれると考えます。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1 学年当たり6 学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1 学年当たり6 学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 再編整備校数については、令和2 0 年4 月時点の公立中学校等卒業者数の推計を基に、一定の学校規模を維持した場合に必要な高校の数を試算し、算出しました。その際、地域内の県立高校の1 学年当たりの学級数が6 学級を大きく下回る地域などの状況や私立高校と県立高校への進学者数の状況も考慮し算出しました。 県内中学校等卒業生の全日制高校進学者数における県公立高校と私立高校の収容割合については、毎年度、埼玉県公立高等学校協議会を開催し、確認を行っております。公立高校と私立高校がお互いに切磋琢磨（せっさたくま）しながら、本県の高校教育を発展させることが重要であると考えております。 再編整備については、計画的に進めることが必要だと考え、本方針案に再編整備校数を記載しております。 また、再編整備を進めるに当たっては、県民の意見を聞く必要があると考え、今回、県民コメントを実施しました。方針案に示した再編整備校数の中で、具体的な再編整備校を検討してまいります。 今後、具体的な再編整備を検討する際には、各県立学校の生徒数の現状や周辺の公立中学校等卒業者数の見込みなど方針案に記載した「再編整備の観点」を踏まえ総合的に検討することとしております。その決定に当たっては実施方策（案）を公表し、県民の意見をお聞きしてまいります。 なお、県教育委員会としては、私立高校は建学の精神に基づいて多様な教育を行っており、高校進学を目指す生徒たちに幅広い選択肢を与えているものとして、公教育の一翼を担う私立学校に対して運営に必要な補助が行われているものと承知しております。	D
464	27,28	P27、P28「中学生等卒業生数の見込みと今後の県立高校数」の削減校数の数値について、より具体的な根拠を示すべきです。 削減数値、時期についての根拠は「中学校等卒業者数の減少」以外の説明の記載がない。今後の具体的な教育内容（普通教育・専門教育の割合含む。）、学校規模、県立・私立学校の適正設置数及び志願者数・募集定員数などの検討結果等の根拠が示されていないため、今後この削減校数の数値達成が目的の再編整備が行われる可能性もある。県民への根拠説明が必要であるため削減校数の数値は削除し今後の検討項目とすべき。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1 学年当たり6 学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1 学年当たり6 学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 再編整備校数については、令和2 0 年4 月時点の公立中学校等卒業者数の推計を基に、一定の学校規模を維持した場合に必要な高校の数を試算し、算出しました。その際、地域内の県立高校の1 学年当たりの学級数が6 学級を大きく下回る地域や私立高校と県立高校への進学者数の状況も考慮し算出しました。 今後、「再編整備の観点」を踏まえて、再編整備を計画的に進めることが必要だと考え、本方針案に再編整備校数を記載しております。 方針案に示した再編整備校数の中で、具体的な再編整備校を検討してまいります。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
465	27,28	P27.28「中学生等卒業生数の見込みと今後の県立高校数」の削減校数の数値を削除すべきです。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 また、再編整備を進めるに当たっては、計画的に進めることが必要だと考え、本方針案に再編整備校数を記載しております。 方針案に示した再編整備校数の中で、公立中学校等卒業生数の減少や地域の状況などを踏まえながら、具体的な再編整備校を検討してまいります。	D
466	27,28	P27・28の「中学生等卒業生数の見込みと今後の県立高校数」の削減校数の数値を削除すべきと考えます。削減数値・時期の根拠が曖昧だからである。少子化の影響があったとしても、学校の定員を減らせば対応でき、学校を減らす必要はないためである。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 再編整備校数については、令和20年4月時点の公立中学校等卒業生数の推計を基に、一定の学校規模を維持した場合に必要な高校の数を試算し、算出しました。その際、地域内の県立高校の1学年当たりの学級数が6学級を大きく下回る地域などの状況も考慮し算出しました。 今後、「再編整備の観点」を踏まえて、再編整備を計画的に進めることが必要だと考え、本方針案に再編整備校数を記載しております。	D
467	28	統廃合した高校の倍率推移を見て魅力ある県立高校づくりが成功しているとは思えない。統廃合した後の検証もせず既に6校の新校設置が発表されている。 方針（案）では2038年までに更に最大19校の削減とあったが、期間と削減数を先に決めた根拠が分からない。統廃合した高校の状況を見てバランスや生徒の希望を考えて初めて削減せざるを得ない数が出てくるものなのではないか。	1	これまでの再編整備により、特色ある高校を開校し、地域と連携した取組などを進めてきました。学校の魅力が伝わるよう引き続き、広報活動の充実などに努めてまいります。 生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 再編整備校数については、令和20年4月時点の公立中学校等卒業生数の推計を基に、一定の学校規模を維持した場合に必要な高校の数を試算し、算出しました。その際、地域内の県立高校の1学年当たりの学級数が6学級を大きく下回る地域などの状況も考慮し算出しました。 今後、「再編整備の観点」を踏まえて、再編整備を計画的に進めることが必要だと考え、本方針案に再編整備校数を記載しております。 方針案に示した再編整備校数の中で、具体的な再編整備校を検討してまいります。	D
468	28	再編整備による削減数値算出の具体的な根拠が示されていないため（県民への説明不足）「最大19校」削除校数の数値を削除すべき。県知事は説明会などを開き説明する責任がある。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 再編整備校数については、令和20年4月時点の公立中学校等卒業生数の推計を基に、一定の学校規模を維持した場合に必要な高校の数を試算し、算出しました。その際、地域内の県立高校の1学年当たりの学級数が6学級を大きく下回る地域などの状況も考慮し算出しました。 また、再編整備を進めるに当たっては、計画的に進めることが必要だと考え、本方針案に再編整備校数を記載しております。 方針案に示した再編整備校数の中で、公立中学校等卒業生数の減少や地域の状況などを踏まえながら、具体的な再編整備校を検討してまいります。 今後、具体的な再編整備校を検討する際には、交通の利便性など方針案に記載した「再編整備の観点」を踏まえて総合的に検討することとしております。その決定に当たっては県教育委員会が実施方策（案）を公表し、県民の意見をお聞きしてまいります。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
469	28	P 2 8 県立高校の削減数の数字の削除を要望する。数字の根拠が理解困難。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1 学年当たり 6 学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1 学年当たり 6 学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいく必要があります。 再編整備校数については、令和 2 0 年 4 月時点の公立中学校等卒業者数の推計を基に、一定の学校規模を維持した場合に必要な高校の数を試算し、算出しました。その際、地域内の県立高校の 1 学年当たりの学級数が 6 学級を大きく下回る地域などの状況も考慮し算出しました。 今後、「再編整備の観点」を踏まえて、再編整備を計画的に進めることが必要だと考え、本方針案に再編整備校数を記載しております。 方針案に示した再編整備校数の中で、具体的な再編整備校を検討してまいります。	D
470	28	県立高校の削減校数（最大 1 9 校）は削除すべき。削減数値算出の具体的根拠が示されておらず県民への説明不足。	35	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1 学年当たり 6 学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1 学年当たり 6 学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいく必要があります。 再編整備校数については、令和 2 0 年 4 月時点の公立中学校等卒業者数の推計を基に、一定の学校規模を維持した場合に必要な高校の数を試算し、算出しました。その際、地域内の県立高校の 1 学年当たりの学級数が 6 学級を大きく下回る地域などの状況も考慮し算出しました。 今後、「再編整備の観点」を踏まえて、再編整備を計画的に進めることが必要だと考え、本方針案に再編整備校数を記載しております。 方針案に示した再編整備校数の中で、具体的な再編整備校を検討してまいります。	D
471	28	県立高校の削減校数（最大 1 9 校）は削除すべき。数値が算出された根拠が説明されていない。加えて、普通科の削減は私立高校への一極集中を招きかねず、金銭負担の面などで、公教育としての平等性を損なう。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1 学年当たり 6 学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1 学年当たり 6 学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいく必要があります。 再編整備校数については、令和 2 0 年 4 月時点の公立中学校等卒業者数の推計を基に、一定の学校規模を維持した場合に必要な高校の数を試算し、算出しました。その際、地域内の県立高校の 1 学年当たりの学級数が 6 学級を大きく下回る地域や私立高校と県立高校への進学者数の状況も考慮し算出しました。 今後、「再編整備の観点」を踏まえて、再編整備を計画的に進めることが必要だと考え、本方針案に再編整備校数を記載しております。 また、今後、具体的な再編整備校の検討に当たっては、全県を俯瞰（ふかん）しながら、周辺の高校の設置状況や教育内容など、「再編整備の観点」を踏まえ総合的に検討してまいります。	D
472	28	生徒数の減少は理解できるものの、削減校が 1 5 ～ 1 9 校となる具体的根拠が不明確である。削減により通学や進路に影響が出るので、削減に納得できる明確な根拠が必須であり、P 2 8 削減校の数(△ 1 5 ～ 1 9 校)を削除するべき。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1 学年当たり 6 学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1 学年当たり 6 学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいく必要があります。 再編整備校数については、令和 2 0 年 4 月時点の公立中学校等卒業者数の推計を基に、一定の学校規模を維持した場合に必要な高校の数を試算し、算出しました。その際、地域内の県立高校の 1 学年当たりの学級数が 6 学級を大きく下回る地域などの状況も考慮し算出しました。 今後、「再編整備の観点」を踏まえて、再編整備を計画的に進めることが必要だと考え、本方針案に再編整備校数を記載しております。 方針案に示した再編整備校数の中で、具体的な再編整備校を検討してまいります。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
473	28	今後の県立高校数の削減校数値削除を求める。 令和20年を目途に県立高校を最大19校削減との記載だが、県民に具体的な説明がない。 県立高校は税金で運営されている以上、県民に納得のいく説明がされないまま時期・校数だけ発表するのは削減ありきということか。 教育行政として県民の信頼を失うような事はしないでいただきたい。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 再編整備校数については、令和20年4月時点の公立中学校等卒業者数の推計を基に、一定の学校規模を維持した場合に必要な高校の数を試算し、算出しました。その際、地域内の県立高校の1学年当たりの学級数が6学級を大きく下回る地域などの状況も考慮し算出しました。 今後、「再編整備の観点」を踏まえて、再編整備を計画的に進めることが必要だと考え、本方針案に再編整備校数を記載しております。 方針案に示した再編整備校数の中で、具体的な再編整備校を検討してまいります。	D
474	28	削減数値算出の具体的な根拠が示されておらず、説明不足の状態での削減の目標数値だけ示されても是非の判断ができないため、p28「最大19校」削減校数の数値を削除すべき。 ○○高校と△△高校を合併、××高校は廃校、等が書かれていれば、是非を判断できます。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 再編整備校数については、令和20年4月時点の公立中学校等卒業者数の推計を基に、一定の学校規模を維持した場合に必要な高校の数を試算し、算出しました。その際、地域内の県立高校の1学年当たりの学級数が6学級を大きく下回る地域などの状況も考慮し算出しました。 今後、「再編整備の観点」を踏まえて、再編整備を計画的に進めることが必要だと考え、本方針案に再編整備校数を記載しております。 方針案に示した再編整備校数の中で、具体的な再編整備校を検討してまいります。	D
475	28	削減数値算出の具体的な根拠が示されていないためp28「最大19校」削減校数の数値を削除すべき。生徒たちの意見を取り上げ、検討し算出してほしい。経済的に遠方に通えない人のニーズも考えてほしい。曖昧かつ、多様に応えようとする表明に反しているように思えて残念。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 再編整備校数については、令和20年4月時点の公立中学校等卒業者数の推計を基に、一定の学校規模を維持した場合に必要な高校の数を試算し、算出しました。その際、地域内の県立高校の1学年当たりの学級数が6学級を大きく下回る地域などの状況も考慮し算出しました。 今後、「再編整備の観点」を踏まえて、再編整備を計画的に進めることが必要だと考え、本方針案に再編整備校数を記載しております。 方針案に示した再編整備校数の中で、周辺の高校の設置状況や交通の利便性、通学状況などを踏まえながら、具体的な再編整備校を検討してまいります。	D
476	28	「最大19校」の具体的な数値は削除すべき 2040年頃までに埼玉県における中卒者が25%ほど減少することに鑑みれば、県立高校を統廃合する方向性は理解する。しかしながら具体的な統廃合対象が未詳の中で、あたかも統廃合対象校が地区ごとに決定しているかのごとき資料は不要な憶測をじゃこ起するだけで百害あって一利なしと考える。「中学校卒業生人口動態を見据えて適正校数の維持に努める」といった記述で充分。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 再編整備を進めるに当たっては、計画的に進めることが必要だと考え、本方針案に再編整備校数を記載しております。 また、方針案に示した再編整備校数の中で、公立中学校等卒業者数の減少や地域の状況などを踏まえながら、具体的な再編整備校を検討してまいります。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
477	28	p.28 にある公立校削減数は県全体・地域別ともに削除されるべきであります。 公立中学校等卒業生数の減少度合いと、公立校削減数の関係性が不明確です。中学校等卒業生数減少がどの程度発生したら公立校を削減するのか算出する根拠がありません。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいく必要があります。 再編整備校数については、令和20年4月時点の公立中学校等卒業生数の推計を基に、一定の学校規模を維持した場合に必要な高校の数を試算し、算出しました。その際、地域内の県立高校の1学年当たりの学級数が6学級を大きく下回る地域などの状況も考慮し算出しました。 また、再編整備を進めるに当たっては、計画的に進めることが必要だと考え、本方針案に再編整備校数を記載しております。 方針案に示した再編整備校数の中で、公立中学校等卒業生数の減少や地域の状況などを踏まえながら、具体的な再編整備校を検討してまいります。	D
478	28	削減校数（最大19校）は削除すべきである。この数値が算出された根拠が県民に説明されていない。どうか、子供の選択肢を狭めないでください。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいく必要があります。 再編整備校数については、令和20年4月時点の公立中学校等卒業生数の推計を基に、一定の学校規模を維持した場合に必要な高校の数を試算し、算出しました。その際、地域内の県立高校の1学年当たりの学級数が6学級を大きく下回る地域などの状況も考慮し算出しました。 今後、「再編整備の観点」を踏まえて、再編整備を計画的に進めることが必要だと考え、本方針案に再編整備校数を記載しております。 方針案に示した再編整備校数の中で、具体的な再編整備校を検討してまいります。	D
479	28	削減校数（最大19校）は削除すべきである。この数値が算出された根拠が県民に説明されていない。是非、県民の意見を取り入れていただきたいです。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいく必要があります。 再編整備校数については、令和20年4月時点の公立中学校等卒業生数の推計を基に、一定の学校規模を維持した場合に必要な高校の数を試算し、算出しました。その際、地域内の県立高校の1学年当たりの学級数が6学級を大きく下回る地域などの状況も考慮し算出しました。 再編整備については、計画的に進めることが必要だと考え、本方針案に再編整備校数を記載しております。また、再編整備を進めるに当たっては、県民の意見を聞く必要があると考え、今回、県民コメントを実施しました。方針案に示した再編整備校数の中で、具体的な再編整備校を検討してまいります。 今後、具体的な再編整備を検討する際には、各県立学校の生徒数の現状や周辺の公立中学校等卒業生数の見込みなど方針案に記載した「再編整備の観点」を踏まえ総合的に検討することとしております。その決定に当たっては実施方策（案）を公表し、県民の意見をお聞かせしてまいります。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
480	28	最大19校の削減校数の削除をお願いします。 私達県民の声を反映しておらず、根拠のない方針に驚いています。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 再編整備校数については、令和20年4月時点の公立中学校等卒業者数の推計を基に、一定の学校規模を維持した場合に必要な高校の数を試算し、算出しました。その際、地域内の県立高校の1学年当たりの学級数が6学級を大きく下回る地域などの状況も考慮し算出しました。 再編整備については、計画的に進めることが必要だと考え、本方針案に再編整備校数を記載しております。また、再編整備を進めるに当たっては、県民の意見を聞く必要があると考え、今回、県民コメントを実施しました。方針案に示した再編整備校数の中で、具体的な再編整備校を検討してまいります。 今後、具体的な再編整備を検討する際には、各県立学校の生徒数の現状や周辺の公立中学校等卒業者数の見込みなど方針案に記載した「再編整備の観点」を踏まえ総合的に検討することとしております。その決定に当たっては実施方策（案）を公表し、県民の意見をお聞かせしてまいります。	D
481	28	県が今やるべきことは、学校の統廃合ではなく、少人数学級の実現である。国は、中学校でも35人学級を順次行っていくことにした。埼玉では、独自に、高校でも少人数学級を実現するべきである。今の40人学級をまずすぐに35人に、ゆくゆくは30人、20人に。これが国際レベルである。高校の統廃合は、生徒にとって通える学校が減ることであり、市町村にとって、特に一つしかない高校がなくなることは、住民にとってのダメージも大きい。今ある高校131校を116～112校にする案は撤回してほしい。	1	学級編制の標準が「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に40人と定められている中で、県単独での35人以下学級の実施は難しいと考えます。 新たな定数改善計画策定及び教職員配置基準の見直しなどについて、国に働き掛けてまいります。 生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。今後、更に生徒数が減少していく中で、一定の学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 今後、周辺の高校の設置状況や交通の利便性、通学の状況など、「再編整備の観点」を踏まえ、具体的な再編整備校を検討してまいります。	D
482	28	削減校数（最大19校）は削除すべき。この数値が算出された根拠が県民に説明されていない。県民の意思を無視して強引に進めている。絶対に考え直すべき。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 再編整備校数については、令和20年4月時点の公立中学校等卒業者数の推計を基に、一定の学校規模を維持した場合に必要な高校の数を試算し、算出しました。その際、地域内の県立高校の1学年当たりの学級数が6学級を大きく下回る地域などの状況も考慮し算出しました。 再編整備については、計画的に進めることが必要だと考え、本方針案に再編整備校数を記載しております。また、再編整備を進めるに当たっては、県民の意見を聞く必要があると考え、今回、県民コメントを実施しました。方針案に示した再編整備校数の中で、具体的な再編整備校を検討してまいります。 今後、具体的な再編整備を検討する際には、各県立学校の生徒数の現状や周辺の公立中学校等卒業者数の見込みなど方針案に記載した「再編整備の観点」を踏まえ総合的に検討することとしております。その決定に当たっては実施方策（案）を公表し、県民の意見をお聞かせしてまいります。	D
483	28	P28の今後の県立高校数について、「令和20年（2038年）を目途に、県立高校131校を116～112校（△15～19校）程度とすることが必要と考えています。」としているが、今後中学校まで35人学級を実施する方向性が国から示されている。いずれ高校にも波及することが予想される。その際に、これだけの学校数を削減することが正しいのか疑問である。県は率先して、中学校卒業生に対する学習権保障をすべきである。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 学級編制の標準が「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に40人と定められている中で、県単独での35人以下学級の実施は難しいと考えます。 新たな定数改善計画策定及び教職員配置基準の見直しなどについて、国に働き掛けてまいります。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
484	28	削減校数の最大19校の根拠が不明のため、削除すべき。私立高校へ支給されている助成を全て廃止し県立高校へ投入してから削減の検討をすればいい。少子化をチャンスと捉えきめ細かい少人数制の教育を推進すべき。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 再編整備校数については、令和20年4月時点の公立中学校等卒業者数の推計を基に、一定の学校規模を維持した場合に必要な高校の数を試算し、算出しました。その際、地域内の県立高校の1学年当たりの学級数が6学級を大きく下回る地域などの状況も考慮し算出しました。 今後、「再編整備の観点」を踏まえて、再編整備を計画的に進めることが必要だと考え、本方針案に再編整備校数を記載しております。 方針案に示した再編整備校数の中で、具体的な再編整備校を検討してまいります。 なお、県教育委員会としては、私立高校は建学の精神に基づいて多様な教育を行っており、高校進学を目指す生徒たちに幅広い選択肢を与えているものとして、公教育の一翼を担う私立学校に対して運営に必要な補助が行われているものと承知しております。 また、学級編制の標準が「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に40人と定められている中で、県単独での35人以下学級の実施は難しいと考えます。 新たな定数改善計画策定及び教職員配置基準の見直しなどについて、国に働き掛けてまいります。	D
485	28	削減数値の具体的な根拠が示されておらず、県民への説明が不十分であるため、「最大19校」削減校数を削除すべきである。以下の数値削除を求める。 ・県立高校131校を116～112校程度とする ・南西部、川越比企、西部地域では38校を32～30校 ・東部、利根地方では38校を33～31校 ・北部、秩父地域では16校を15～13校	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 再編整備校数については、令和20年4月時点の公立中学校等卒業者数の推計を基に、一定の学校規模を維持した場合に必要な高校の数を試算し、算出しました。その際、地域内の県立高校の1学年当たりの学級数が6学級を大きく下回る地域などの状況も考慮し算出しました。 今後、「再編整備の観点」を踏まえて、再編整備を計画的に進めることが必要だと考え、本方針案に再編整備校数を記載しております。 方針案に示した再編整備校数の中で、具体的な再編整備校を検討してまいります。	D
486	28	削減校数の数値は削除が適当ではないかと考えます。 埼玉県県の県立高校は現状、一定程度魅力的であり、それぞれ伝統を持つ学校が多いと考えます。 予算／人ともに優先的に割くべき事案があり、県立高校の改悪が優先順位が高い事案とは考えにくいです。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 再編整備を進めるに当たっては、計画的に進めることが必要だと考え、本方針案に再編整備校数を記載しております。 方針案に示した再編整備校数の中で、公立中学校等卒業者数の減少や地域の状況などを踏まえながら、具体的な再編整備校を検討してまいります。	D
487	28	28ページに記述された「最大19校」との削減学校数について、当該部分を削除することを求める。この数が提示された根拠や記述に至るまでのプロセスを明示することを求める。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 再編整備校数については、令和20年4月時点の公立中学校等卒業者数の推計を基に、一定の学校規模を維持した場合に必要な高校の数を試算し、算出しました。その際、地域内の県立高校の1学年当たりの学級数が6学級を大きく下回る地域などの状況も考慮し算出しました。 今後、「再編整備の観点」を踏まえて、再編整備を計画的に進めることが必要だと考え、本方針案に再編整備校数を記載しております。 方針案に示した再編整備校数の中で、具体的な再編整備校を検討してまいります。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
488	28,29	「令和20年までに県立高校19校削減」という方針が突如出てきたことに違和感を感じます。この方針が打ち出されたプロセスが不明です。なぜ19校なのか。なぜ県立高校の普通科を削減し、専門科を増やすのか。高等専門学校のない埼玉県に、高専を作れば、よほど優秀な人材を育てることができます。高専は5年間の教育で専門性を高められるため、5年で卒業しても4年制大学の卒業者を上回るレベルで社会に対応できるスキルが身に付きます。埼玉県にも高専を作るべきだと思いますし、高専レベルの教育を、県立高校に専門学科を増やした程度では、所詮3年間では不可能だと思います。高校生活を通じてあらゆる可能性、将来何になりたいのかを考える時間が必要だと思います。将来、なりたい自分が中学生段階で決まっている子たちは、専門学科を目指せばいい。更にハイレベルな専門学科を学びたければ、高専を目指せばいい。こんな様々な選択肢を若者たちに与えてほしいと思います。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 再編整備校数については、令和20年4月時点の公立中学校等卒業者数の推計を基に、一定の学校規模を維持した場合に必要な高校の数を試算し、算出しました。その際、地域内の県立高校の1学年当たりの学級数が6学級を大きく下回る地域などの状況も考慮し算出しました。 今後、「再編整備の観点」を踏まえて、再編整備を計画的に進めることが必要だと考え、本方針案に再編整備校数を記載しております。 方針案に示した再編整備校数の中で、具体的な再編整備校を検討してまいります。 また、生徒の希望する進路の実現に向け、普通科、専門学科、総合学科それぞれの学びの充実に取り組み、多様な学習機会の充実に努めてまいります。 また、令和4年度から令和6年度まで文部科学省指定事業として、大宮工業高校で取り組んでいる「マイスター・ハイスクール事業」の成果を、県内の工業高校に普及することなどを通じて、地域企業と連携した実践的な技術者の育成につなげていきたいと考えています。	D
489	28	P28「最大19校」削減校数の数値を削除すべき。削減数値算出の具体的な根拠が示されていない。多角的な検討が必要。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 再編整備校数については、令和20年4月時点の公立中学校等卒業者数の推計を基に、一定の学校規模を維持した場合に必要な高校の数を試算し、算出しました。その際、地域内の県立高校の1学年当たりの学級数が6学級を大きく下回る地域などの状況も考慮し算出しました。 今後、「再編整備の観点」を踏まえて、再編整備を計画的に進めることが必要だと考え、本方針案に再編整備校数を記載しております。 方針案に示した再編整備校数の中で、具体的な再編整備校を検討してまいります。	D
490	28	たとえ1校でも再編による高校の削減に反対します。ただでさえ県立高校が少なくなっています。19校という数字の理由と根拠となるデータをお示ください。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えています。そのため、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要です。 再編整備校数については、令和20年4月時点の公立中学校等卒業者数の推計を基に、一定の学校規模を維持した場合に必要な高校の数を試算し、算出しました。その際、地域内の県立高校の1学年当たりの学級数が6学級を大きく下回る地域などの状況も考慮し算出しました。 今後、「再編整備の観点」を踏まえて、再編整備を計画的に進めることが必要だと考え、本方針案に再編整備校数を記載しております。 方針案に示した再編整備校数の中で、具体的な再編整備校を検討してまいります。	D
491	29	農業、工業、商業高校は社会のニーズの変化に対応し、再編による統合推進や普通科・総合学科への置き換えを推進すべきと考えます。	1	将来の農業・工業・商業などの産業を支える人材を育成するため、実践的で高度な専門的知識・技能の習得を図る専門学科は重要だと考えております。普通科、専門学科、総合学科それぞれの学びの充実に取り組み、生徒の希望する進路の実現に向け多様な学習機会の充実に努めてまいります。	D
492	29	p29 3設置を検討する特色ある学科・学校 いろいろな知識を付けたいので、高校は専門学科より色々学べる普通科へ進学したいです。専門学科に行きたいと思う子は周りにもいませんので普通科を減らすことに反対です。	1	社会が変化し、多様な課題が生じている中で、各教科等の学びを基盤としつつ様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく学びが求められます。 このため、普通科においても教育課程の特色化・弾力化を推進するとともに、教科等横断的な学びや探究活動などを通した実践的な学びを推進します。 また、将来の農業・工業・商業などの産業を支える人材を育成するため、実践的で高度な専門的知識・技能の習得を図る専門学科は重要だと考えております。普通科、専門学科、総合学科それぞれの学びの充実に取り組み、生徒の希望する進路の実現に向け多様な学習機会の充実に努めてまいります。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
493	29	P29 専門学科の増設について反対します 専門学科は平成30年、総合学科は令和2年に倍率1倍を割って以降、続くトレンドです。専門学科および総合学科を増やしていくことは県民ニーズに沿ったものではないと考えます。 専門学科の増設が、社会構造の変化に対する対応もしくは産業界からの要望であれば、まずは定員に達していない専門学科の必要性や魅力を中学生や保護者に訴求し、倍率を1倍以上に戻すことが先だと考えます。	1	県立高校では、生徒の希望する進路の実現に向け多様な学習機会の充実に努める必要があると考えております。 専門学科においては企業等との連携や、農業、工業、商業など複数の専門学科の連携による横断的・実践的な学びを推進するほか、総合学科においてはオンライン等を活用し、より多様で魅力的な科目を設置するなど、専門学科や総合学科における学びの充実に取り組んでまいります。 また、専門学科を卒業後、大学や専修学校等に進学する生徒が半数を超える中で、一人一人の進路実現に向け、大学と連携した高度な学びの提供や、大学進学に向けた指導の充実などを推進します。 さらに、専門学科は中学生等に学びの内容が伝わりにくいという声もあります。中学生が自分に合った学びを見つけられるよう、専門学科の魅力を伝えるために広報活動の強化や学科名の変更などを検討します。 このような取組を進めるとともに、グローバル化やデジタル社会の進展、産業構造の変化など、社会の変化に対応した学科の設置を検討してまいります。	D
494	29	総合学科は人気が低く普通科に集約すべき。教科の選択を減らし基礎力の強化を点的に行うべき。	1	県立高校では、様々な興味や関心、将来の夢を持つ生徒の多様なニーズに応える教育を提供していく必要があると考えております。将来の職業や生き方を自分の興味・関心のある分野の学びを踏まえて考えることができるよう、農業、工業、商業など特色ある学びができる教科の充実した総合学科の設置を検討してまいります。	D
495	29	p.29 15歳の生徒たちに、自分の進路を定め多くのコースから選択させることには無理があります。高校で学びながら、自分は何者かそして何をすべきか、考えていく生徒もいると思うので、学科や学校を選択し直せる自由を生徒たちに提供するべきではないでしょうか。	1	県立高校では、生徒の希望する進路の実現に向け多様な学習機会の充実に努める必要があると考えております。生徒の興味・関心や社会の変化に対応するため、異なる学科や多分野と連携した学びを提供できるよう、普通科と専門学科や異なる分野の専門学科の併設を検討してまいります。また、くくり募集は、入学者選抜時に、学科の区分を設けずに一括で生徒を募集し、入学後に生徒の適正や希望に応じて各学科に振り分けることができるという利点があります。生徒が自分に合った学びの内容を見つけることができるものとなるよう検討してまいります。	C
496	29	社会の多様化が進む中、県立高等学校においても、選択の幅を広げるべきと考えるため、P29 3 設置を検討する特色ある学科・学校に「共学校、女子校・男子校の別学校」の追加設置を望む。	2	今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D
497	29	p.29 設置を検討する特色ある学科・学校 国際教育プログラムやDX化は、その関わり方の違いはあってもこれからの学生全てに求められる分野だと思えます。したがって県全体の教育方針であって学校単位で進めるものではないと考えます。学校の統廃合はどのような形で、現役生及びこれから進学を目指す生徒への負担が生じます。特色ある学科・学校作りを主目的として統廃合を進めることには違和感を覚えますので、慎重に進めてください。	1	産業構造の変化やグローバル化など、高校教育を取り巻く状況は大きく変化する中で、今後予想される超スマート社会（Society5.0）において活躍できる力を育むことや多様な文化的背景を持つ人々と協働しながら、グローバルな視点を持って地域社会の活性化を担う人材を育成することは、全ての県立高校において重要なことと考えております。 そのような中でも、今後、更に生徒数が減少していく中で、一定の学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要であると考えております。	D
498	30	中高一貫校の増設には反対。発達に差が大きい小学生段階での受験競争や選抜には弊害が大きいことと、学力上位層の生徒が高校受験をしなくなることで県立高校のレベルが下がるのが懸念されるからです。	1	中高一貫教育校は、部活動や学校行事など様々な場面で幅広い年齢の生徒が互に関わり合いながら学校生活を送ることができることと、6年間の継続性のある学びやゆとりを生かした教育課程を編成することができ、子供たちの選択肢の一つとして学びを豊かにするものと考えております。 今後の児童生徒数や近隣中学校への影響などを考慮しながら、中高一貫教育校の設置を検討します。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
499	30	P30 県立中高一貫校については、埼玉西部・南西部エリアについては通学に至便な学校が存在しないため、必要であるとする。具体的な案として二つ提案する。 ①学校選択問題を採用しており、中高一貫教育の需要が見込めると考えられる、現存の所沢北高校もしくは川越南高校に併設の中高一貫クラスを設置すること。 ②松山高校と松山女子高校の統廃合を行い、空いた校舎を利用して中高一貫校を設立すること。 また、中高一貫校の設立に伴い近隣の中学校入学者数にも影響が出ると考えられるため、募集は2クラス(70-80名)が望ましい。	1	中高一貫教育校は、部活動や学校行事など様々な場面で幅広い年齢の生徒が互に関わり合いながら学校生活を送ることができるとともに、6年間の継続性のある学びやゆとりを生かした教育課程を編成することができ、子供たちの選択肢の一つとして学びを豊かにするものと考えております。 今後の児童生徒数や近隣中学校への影響などを考慮しながら、中高一貫教育校の設置を検討します。 また、更に生徒数が減少していく中で、一定の学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいく必要があります。 再編整備の対象となる学科・学校等については、全県を俯瞰（ふかん）しながら「再編整備の観点」を踏まえ総合的に検討してまいります。	C
500	30	偏差値に関わらず、女子校・男子校を望む生徒・保護者のために、入学者を高偏差値生徒に限らない偏差値無関係の公立の別学中高一貫校の設立、特に女子の中高一貫校の設立を提案します。	1	中高一貫教育校は、部活動や学校行事など様々な場面で幅広い年齢の生徒が互に関わり合いながら学校生活を送ることができるとともに、6年間の継続性のある学びやゆとりを生かした教育課程を編成することができ、生徒の学びを豊かにする意義あるものと考えておりますので、設置の検討を行ってまいります。 また、今後、中学校等卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められると考えており、県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していくことが必要だと考えております。	D
501	30	キャリア教育に予算と時間を割くより、子供が自然に将来を考えられる自我が確立するまで待つべき。県立に中高一貫校は不要なので、削除すべき。	1	キャリア教育は、生徒が自己の可能性に気づき、自らの未来を主体的に考える力を育むために必要であると考えています。 また、中高一貫教育校は、部活動や学校行事など様々な場面で幅広い年齢の生徒が互に関わり合いながら学校生活を送ることができるとともに、6年間の継続性のある学びやゆとりを生かした教育課程を編成することができ、生徒の学びを豊かにする意義あるものと考えていることから、設置の検討を行ってまいります。	D
502	30	通学時間の長さゆえ、部活動を断念せざるを得ない事象が増えること、又、受験の低年齢化を招き、健全な人間形成の構築に支障が出ることが予想されるため、P30 3 設置を検討する特色ある学科・学校の中の「中高一貫教育校」は削除すべきである。	2	中高一貫教育校は、部活動や学校行事など様々な場面で幅広い年齢の生徒が互に関わり合いながら学校生活を送ることができるとともに、6年間の継続性のある学びやゆとりを生かした教育課程を編成することができ、生徒の学びを豊かにする意義あるものと考えておりますので、設置の検討を行ってまいります。 県立高校では、様々な興味や関心、将来の夢を持つ生徒の多様なニーズに応える教育を提供していく必要があると考えております。中高一貫教育は、児童生徒や保護者にとって学校の選択幅を広げる役割を担うものと考えております。	D
503	30	【第4章第3節第5項】から「中高一貫教育校」について 果たして何のために新設する必要があるのだろうか。学力が高いとされる生徒たちには、海外大学への派遣や科学の甲子園など、いろいろなチャレンジができる環境にある。現状ではそれらを満たしているのではないか。その逆で、問題行動が多い学校などに置いては教員の疲労度は半端ではないと思われる。 今行うべきことは、予算も人材も優秀な教員の確保や教職員が働きやすい環境づくりに注ぐべきではないのか。そういう点で設置については同意しかねる。	1	中高一貫教育校は、部活動や学校行事など様々な場面で幅広い年齢の生徒が互に関わり合いながら学校生活を送ることができるとともに、6年間の継続性のある学びやゆとりを生かした教育課程を編成することができ、生徒の学びを豊かにする意義あるものと考えていることから、設置の検討を行ってまいります。 県立高校では、様々な興味や関心、将来の夢を持つ生徒の多様なニーズに応える教育を提供していく必要があると考えております。中高一貫教育は、児童生徒や保護者にとって学校の選択幅を広げる役割を担うものと考えております。 また、教育環境の充実に向けて、必要な予算の確保に努めるとともに、優秀な教員の確保や教職員が働きやすい環境づくりに努めてまいります。	D
504	30	中高一貫教育 義務教育の年代が一貫校でなくとも同等の教育を受けられるようにするにはどのような工夫を考えているのか方針案に記載してください。中学3年生である15歳までに一貫校のメリットがあるとするば、一般の中学校に入学した生徒と義務教育課程で受けられる内容が異なることが想定され、教育の機会均等に疑問が生じます。	1	中高一貫教育校の生徒も、高校から入学する生徒も、学習指導要領にのっとった教育を行います。 中高一貫教育校は、部活動や学校行事など様々な場面で幅広い年齢の生徒が互に関わり合いながら学校生活を送ることができるとともに、6年間の継続性のある学びやゆとりを生かした教育課程を編成することができるとの特長があり、児童生徒や保護者にとって学校の選択幅を広げる役割を担うものと考えております。	D

番号	該当 ページ	御意見の概要	意見 数	県の考え方	反映 状況
505	30	少子化を理由とした統合は安易には行わず、中高一貫校として継続する。 ・近隣の中学生が通いやすい場所であり、空き教室を活用できる。 ・専門学科の中高一貫校があってもよい。	1	生徒の興味・関心や多様な進路選択に対応できる教科・科目の開設、学校行事の充実等の観点から、1学年当たり6学級以上が望ましいと考えており、今後、更に生徒数が減少していく中で、1学年当たり6学級となる学校規模の維持に努めるとともに、高校の特色化や活性化を図っていくため、学科改編や学校の統合など再編整備に取り組んでいくことが必要であると考えております。 再編整備を進める中で、中高一貫教育校など特色ある学科・学校の設置について検討してまいります。	D
506	その他	現場の子供たち、先生方の意見をどれだけ聞いたのですか。どうして現場の声を蔑ろにする事ばかりしようとするのですか。	1	方針案の作成に当たっては、県内の小学5・6年生、中学生及び高校生とその保護者を対象に「県立高校の特色化に向けたアンケート」を実施しました。また、学識経験者や学校及び行政機関の関係者による「魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議」を3回開催し、魅力ある高校づくりについて御意見を伺ってきました。これらの意見を参考に方針案を作成しております。	E
507	その他	・本県高校進学者の3割ほどは私学を選択しており、私学の存在を考慮した政策実施を強く求めます。県立高校だけで「魅力ある学校」を作るのではなく、私学と共存しつつ、生徒が多様で自由な選択ができるように考えていくことが必要です。 ・県立高校を削減すれば、教育予算を削減することが可能になり、その分を私学への補助に充当すべきです。所得制限なしの私学無償化（県立と私学の学費格差をなくす）を目指していくべきです。 ・私学における生徒1人当たりの補助金と県立高校の生徒1人当たりの公費には大きな格差が存在し、不公平を解消すべきです。 ・県立高校の削減と私学への補助増額をセットで行うことにより、県の負担は増えることなく、多様で魅力のある高校を生徒が自由に選択できるようになります。 ・本県の私学の魅力が高まることにより、近隣都県から本県への通学者が増えることも期待できます。また、私学の魅力が高まるほど、子育て世代の流入も期待することができます。高校生の存在は地域の活性化に不可欠です。	1	この方針は、県教育委員会が令和7年度（2025年度）からの中長期的な視点で、県立高校を対象とした今後の魅力づくりに向けた方針を示すものです。 県内中学校等卒業生の全日制高校進学者数における県公立高校と私立高校の収容割合については、毎年度、埼玉県公立高等学校協議会を開催し、確認を行っております。公立高校と私立高校がお互いに切磋琢磨（せつさたくま）しながら、本県の高校教育を発展させることが重要であると考えております。	D
508	その他	高校入試の前期、後期の復活 ・1回だけでは、入学を認められなかった場合に県内外の私学に人材が流れてしまう。県立高校であるから、県民が入学しやすい環境を整えるため、検討をお願いしたい。	1	県では、入試期間を短縮することで中学3年生の授業時数を確保し、確かな学力の育成を図ることを目的として、平成24年度入試から、それまで前期、後期の2回の募集であったものを、1回の募集としております。引き続き、中学校と高校双方の授業時数を可能な限り確保し、学習指導を充実させることができる入試制度について検討してまいります。	D
509	その他	保護者が参加しやすいPTAの見直しを。小・中学校ではPTAの見直しがなされているが、高校がまだ従来型の踏襲が多い。	1	P T Aは、児童生徒の健全な成長を図る上で、重要な役割を果たしており、一部の保護者に過重な負担がかからず、誰もが参加できるよう配慮することが大切だと考えております。引き続き、P T A活動を支援してまいります。 御意見として承りました。	E
510	その他	中学校において校長会テストを廃止して、受験生全員が受けるような北辰テストの費用補助をしてほしい。	1	本方針は県立高校を対象としております。 御意見として承りました。	E
511	その他	インターネットで学校が生徒・保護者に対して行うアンケートに、自由記載欄を設置してほしい。 毎年行われる学校アンケートに、自由記述欄が全く無く、適切な回答欄がないことがある。	1	御意見として承りました。	E
512	その他	特別支援学校の教室不足を解消してください。	1	この方針は、県教育委員会が令和7年度からの中長期的な視点で、県立高校を対象とした今後の魅力づくりに向けた方針を示すものです。 御意見として承りました。	E